

中井町
都市マスタープランの改定に向けた
アンケート調査結果

<目 次>

1. 調査の概要	1
(1) 調査の目的.....	1
(2) 調査方法.....	1
(3) 調査結果.....	2
(4) 回答者属性.....	3
 2. 調査結果	 7
(1) 日常的な暮らしの状況について.....	7
(2) 定住意向について.....	35
(3) 生活環境について.....	38
(4) まちづくりの取り組みについて.....	81
(5) 将来のまちづくりの取り組みについて.....	82
 3. 調査の考察	 107
(1) 日常的な暮らしの状況について.....	107
(2) 定住意向について.....	108
(3) 生活環境について.....	108
(4) まちづくりの取り組みについて.....	109
 参考) アンケート調査票	 112

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、人口減少・少子高齢化の本格化や新型コロナウイルス感染症の拡大などの社会情勢や生活様式の変化などが進む中、町の都市将来像とその実現方策を体系的・総合的に示すための「中井町都市マスタープラン」の改定に際し、都市づくり・まちづくりに対する住民の意向や考えを把握し、これを反映させるために実施するものです。

(2) 調査方法

- ①実施対象：町内在住の16歳以上の住民2,000人を対象としました。
- ②抽出方法：性別、居住地域に偏りが生じないように配慮しつつ、住民基本台帳より無作為に抽出しました。
- ③調査方法：郵送による配布・回収により実施しました。
- ④調査期間：令和3年9月1日～9日27日（※10月8日着分までを集計対象としました。）

※表記に関する注釈

- ・本報告書では、比率を全て百分率(%)で表し、小数点第2位以下を四捨五入して表示しています。そのため、比率の合計が100.0%とならない場合があります。
- ・帯グラフについては、表示が煩雑となるため3.0%以下のラベルを非表示としている場合があります。

※評価点の算出方法

- ・調査結果のうち、問7、問8、問10及び問18については、評価点（回答の点数化）により評価を行っています。評価点の算出方法は、以下のとおりです。

【評価点の計算方法】

$$\text{評価点} = \frac{(2 \text{点} \times \text{「回答①」票数} + 1 \text{点} \times \text{「回答②」票数} - 1 \text{点} \times \text{「回答③」票数} - 2 \text{点} \times \text{「回答④」票数})}{\text{回答票数の合計（無回答を除く）}}$$

<各設問の回答への点数付けと評価点の見方>

設問	回答① +2点	回答② +1点	回答③ -1点	回答④ -2点	評価点の 見方
7-①	満足	やや満足	やや不満	不満	高いほど「満足」と評価
7-②	とても重要	やや重要	あまり重要ではない	重要ではない	高いほど「重要」と評価
8	増えた	やや増えた	やや減った	減った	高いほど「増えた」、低いほど「減った」と実感
10	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	高いほど「そう思う」と実感
18	重要である	やや重要である	あまり重要でない	重要でない	高いほど「重要」と評価

(3) 回収結果

回収結果は、次のとおりです。

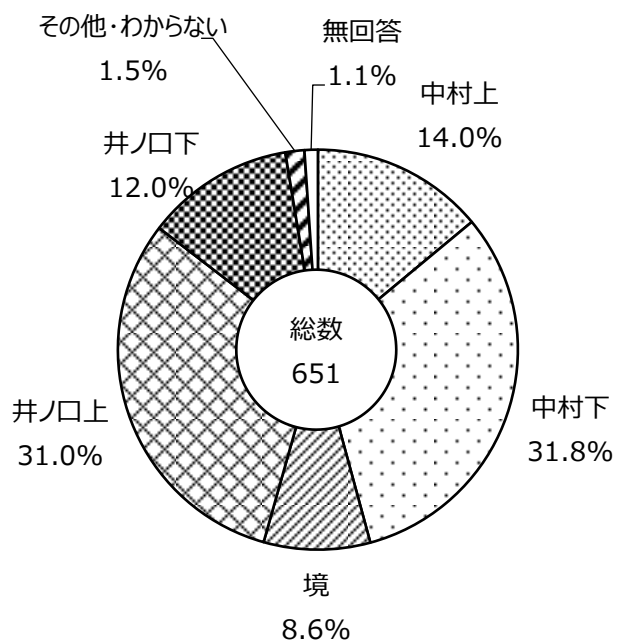
<全体回収率>

配布数 (a)	2,000 票
回収票数 (b)	652 票
回収率 (b)/(a)	32.6 %
有効回答票数(c)	651 票
有効回答率 (c)/(a)	32.6 %

<地区別回収率>

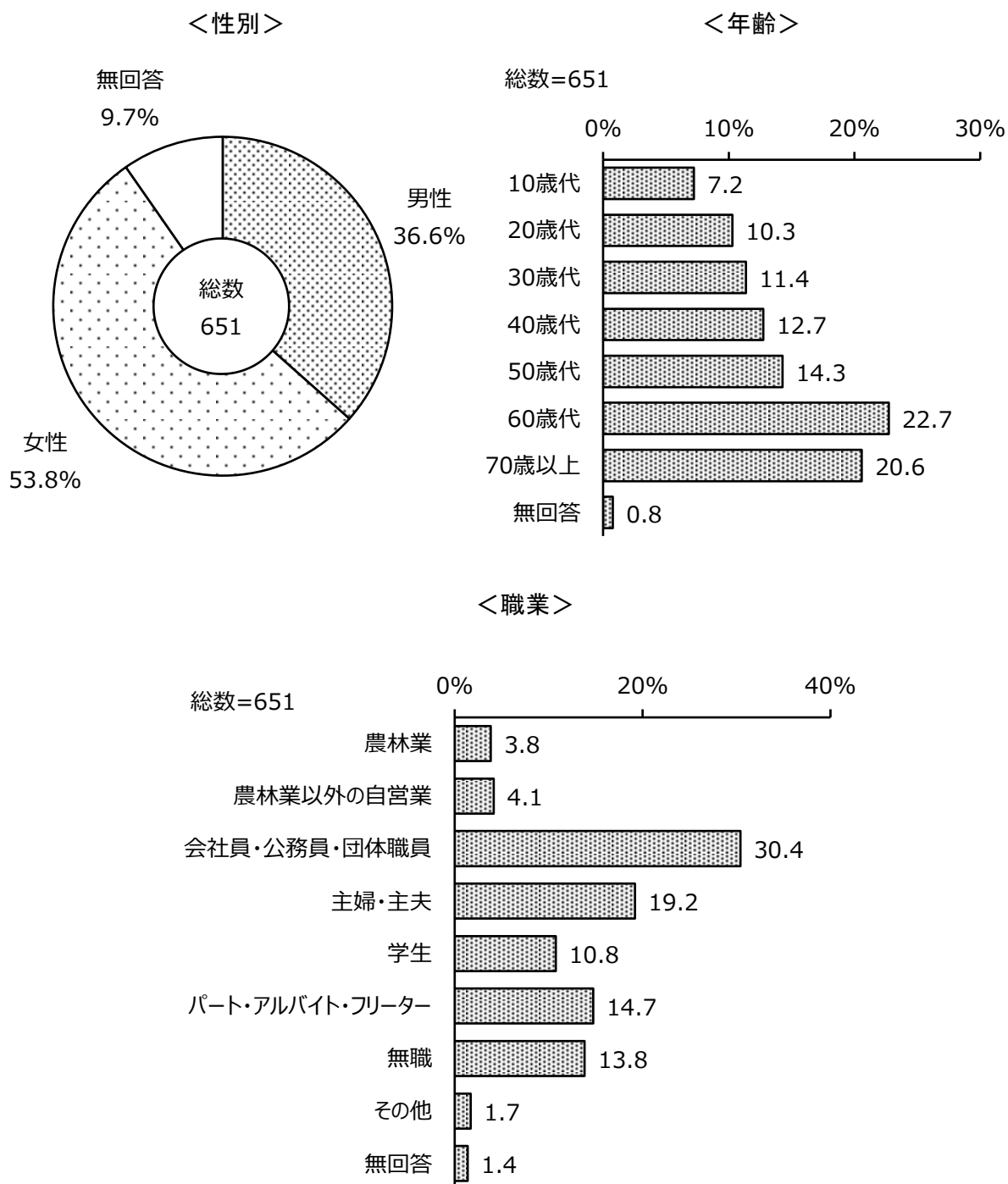
地区	配布数	有効回答数	有効回答率(%)
中村上	282	91	32.3%
中村下	637	207	32.5%
境	195	56	28.7%
井ノ口上	620	202	32.6%
井ノ口下	266	78	29.3%
その他・わからない	—	10	—
無回答	—	7	—

<居住地域（5地域区分）>

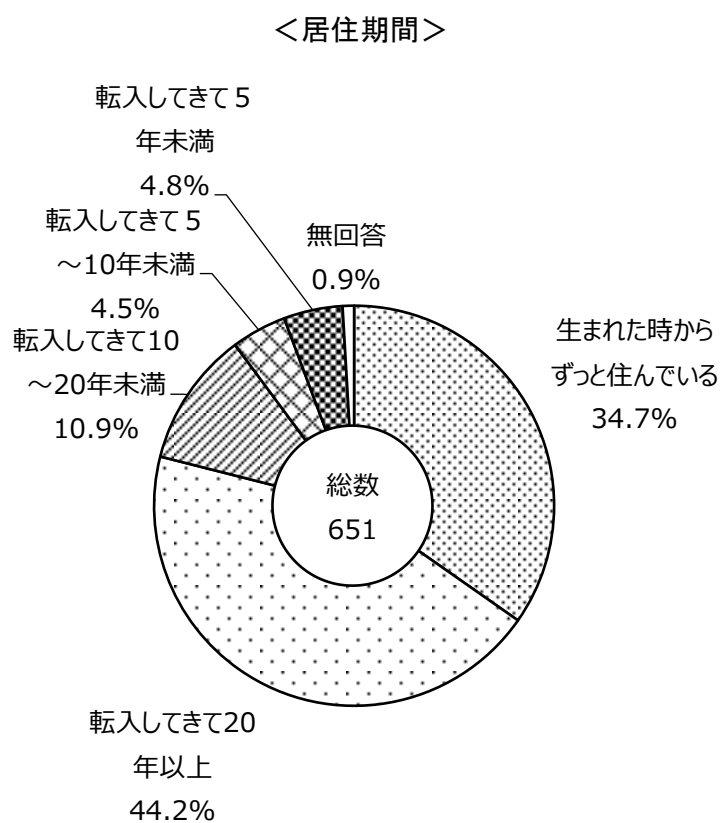
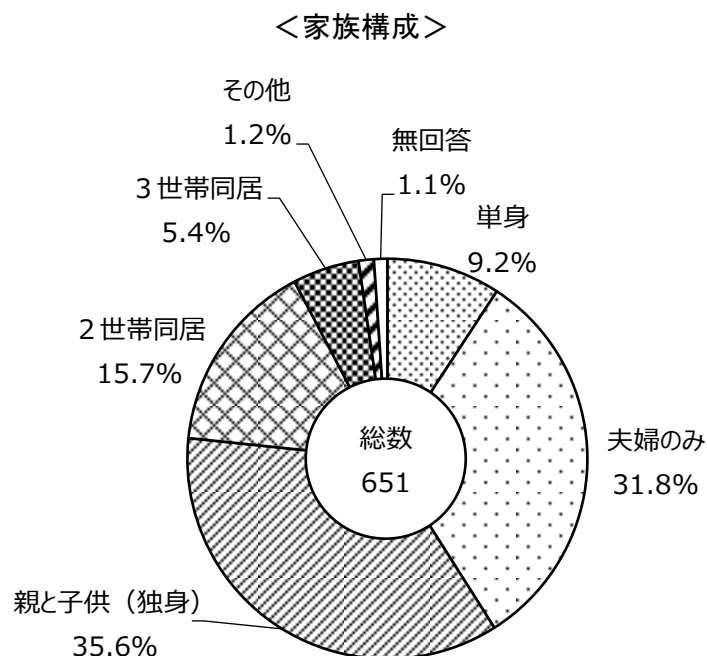


(4) 回答者属性 (問1)

- 回答者の性別は、「女性」は53.8%、「男性」は36.6%となっています。
- 年齢別にみると、「60歳代」が22.7%で最も多く、「70歳以上」が20.6%、「50歳代」が14.3%、「40歳代」が12.7%の順となっています。
- 職業は、「会社員・公務員・団体職員」が30.4%で最も多く、「主婦・主夫」が19.2%、「パート・アルバイト・フリーター」が14.7%、「無職」が13.8%の順となっています。

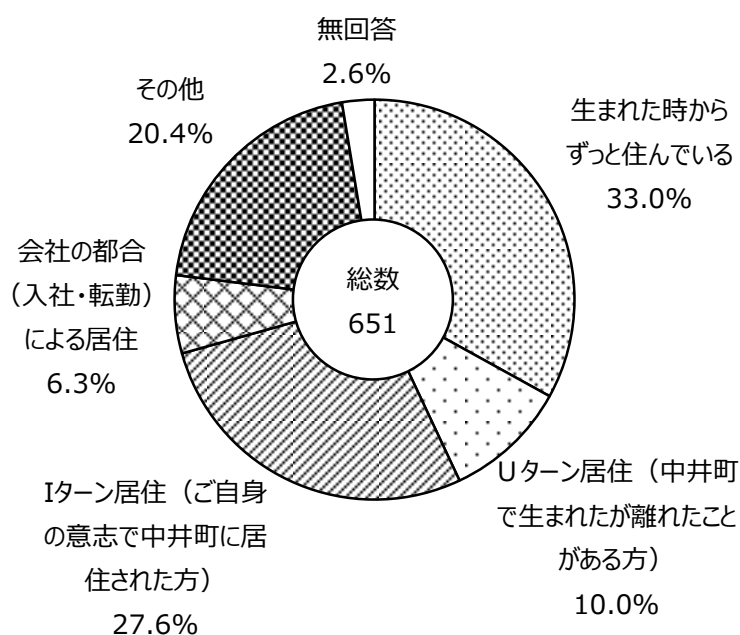


- 家族構成は、「親と子供（独身）」が35.6%で最も多く、「夫婦のみ」が31.8%、「2世帯同居」が15.7%、「単身」が9.2%の順となっています。
- 居住年数は、「転入してきて20年以上」が44.2%で最も多く、「生まれた時からずっと住んでいる」が34.7%、「転入してきて10～20年未満」が10.9%、「転入してきて5年未満」が4.8%の順となっています。

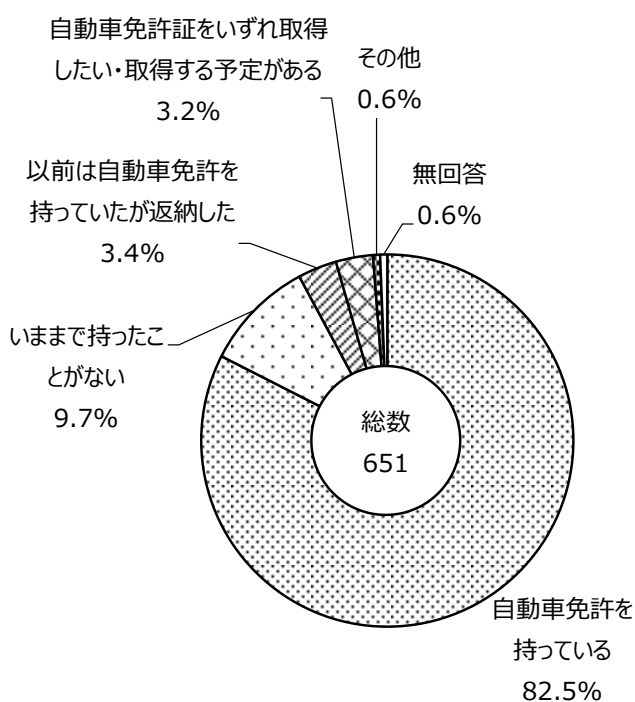


- 居住理由は、「生まれた時からずっと住んでいる」が33.0%で最も多く、「Iターン居住（ご自身の意志で中井町に居住された方）」が27.6%、「その他」が20.4%、「Uターン居住（中井町で生まれたが離れたことがある方）」が10.0%の順となっており、能動的に選択して本町に居住している方（Iターン居住）が約4分の1に上っていることが特徴といえます。
- 運転免許の保有状況は、「自動車免許を持っている」が82.5%で最も多く、「いままで持ったことがない」が9.7%、「以前は自動車免許を持っていたが返納した」が3.4%、「自動車免許証をいずれ取得したい・取得する予定がある」が3.2%の順となっており、高い保有状況にあることがわかります。

<居住理由>

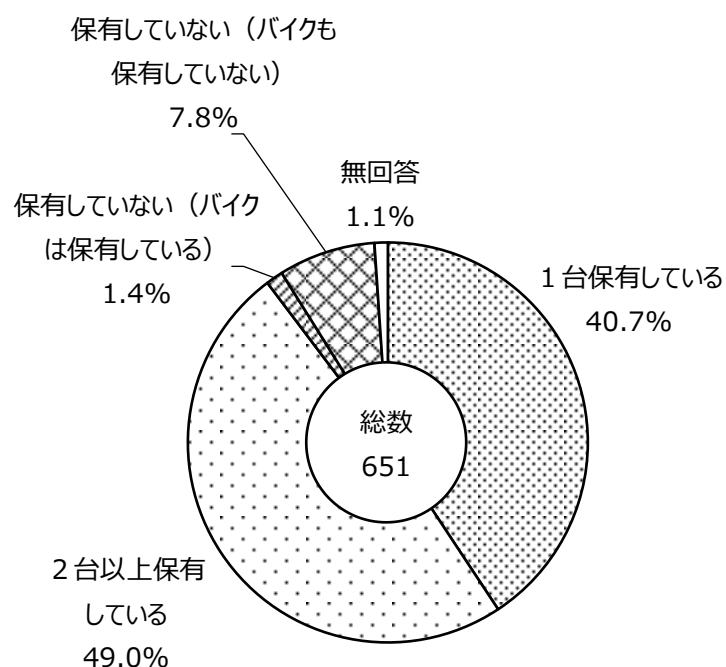


<運転免許の保有状況>



- 「2台以上保有している」が49.0%で最も多く、「1台保有している」が40.7%となっており、自動車の保有率は約90%に達しています。また、「保有していない（バイクも保有していない）」が7.8%、「保有していない（バイクは保有している）」が1.4%が続いています。

＜自家用車の保有状況＞



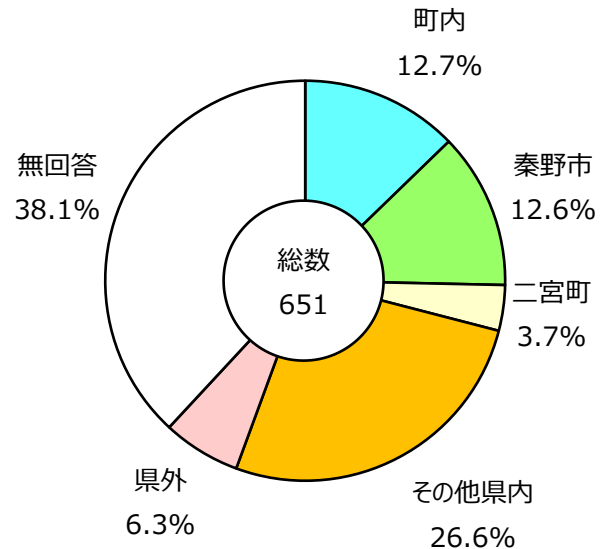
2. 調査結果

(1) 日常的な暮らしの状況について

①日常生活の主な行き先とその際の主な交通手段（問2）

■通勤・通学＜行き先＞

- 町全体では、「その他県内」が26.6%で最も多く、「町内」が12.7%、「秦野市」が12.6%が続いています。
- 地区別にみると、「町内」の比率は境地区が25.7%で最も高くなっていますが、中村下地区、井ノ口下地区では、ほぼ半数が「その他県内」となっています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるほど「町内」とする比率が高くなる傾向にあり、このうち、10歳代は「その他県内」、20歳代は「県外」とする比率が他の年齢層と比較して高くなっています。

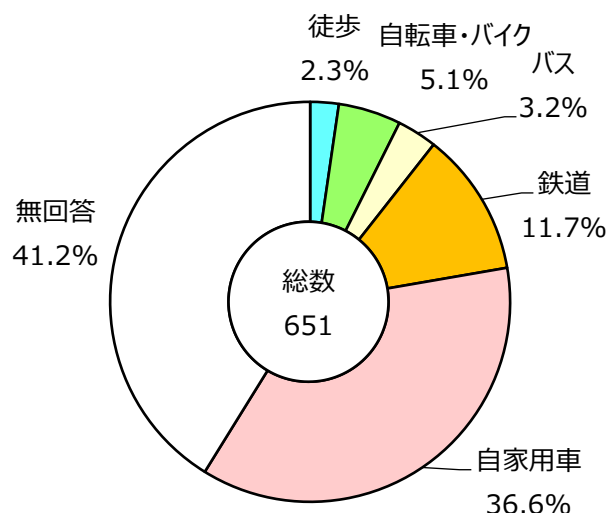


【年齢・居住地区とのクロス集計（無回答を除く）】

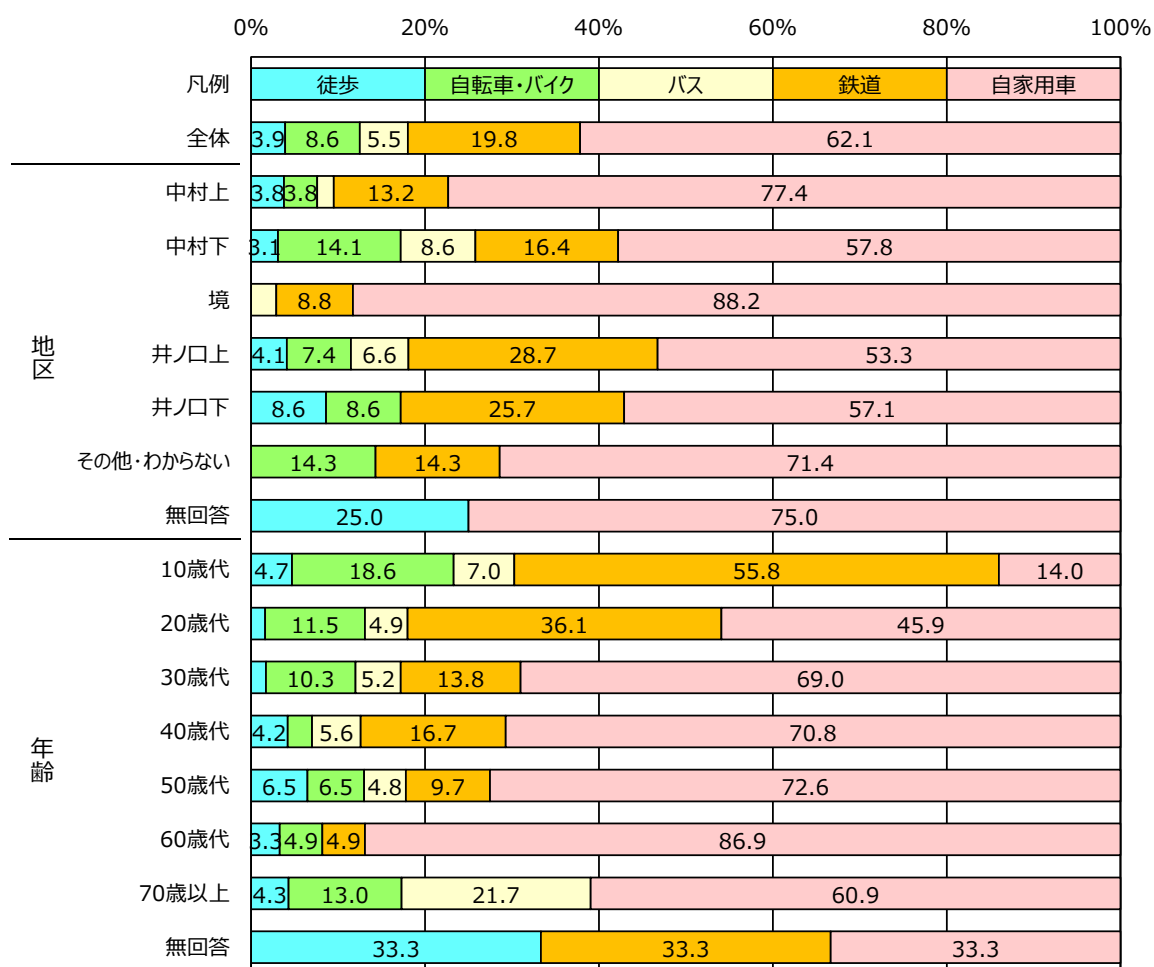
		0%	20%	40%	60%	80%	100%
地区	凡例	町内	秦野市	二宮町	その他県内	県外	
	全体	20.6	20.3	6.0	42.9	10.2	
	中村上	21.8	16.4	9.1	38.2	14.5	
	中村下	23.5	16.2	5.1	47.1	8.1	
	境	25.7	22.9	14.3	28.6	8.6	
	井ノ口上	16.1	26.6	4.0	41.9	11.3	
	井ノ口下	17.1	19.5	4.9	48.8	9.8	
	その他・わからない	12.5	25.0		50.0	12.5	
	無回答	50.0			50.0		
年齢	10歳代	17.4	4.3		65.2	13.0	
	20歳代	10.9	21.9	4.7	37.5	25.0	
	30歳代	15.9	17.5	11.1	52.4	3.2	
	40歳代	21.9	24.7		38.4	12.3	
	50歳代	30.0	24.3		37.1	7.1	
	60歳代	35.4	16.9	7.7	38.5		
	70歳以上	26.3	15.8	21.1	31.6	5.3	
	無回答	33.3			33.3	33.3	

■通勤・通学＜交通手段＞

- 町全体では、「自家用車」が36.6%で最も多く、「鉄道」が11.7%、「自転車・バイク」が5.1%、「バス」が3.2%が続いています。
- 地区別にみると、境地区で約90%、中村上地区で約80%が「自家用車」、その他の地区では「鉄道」が高くなっており、特に井ノ口上・井ノ口下地区ではほぼ4人に1人が「鉄道」と回答しています。
- 年齢別にみると、30歳代以上で「自家用車」が60%を超えている一方で、10歳代の約60%、20歳代の約40%が「鉄道」を利用しています。

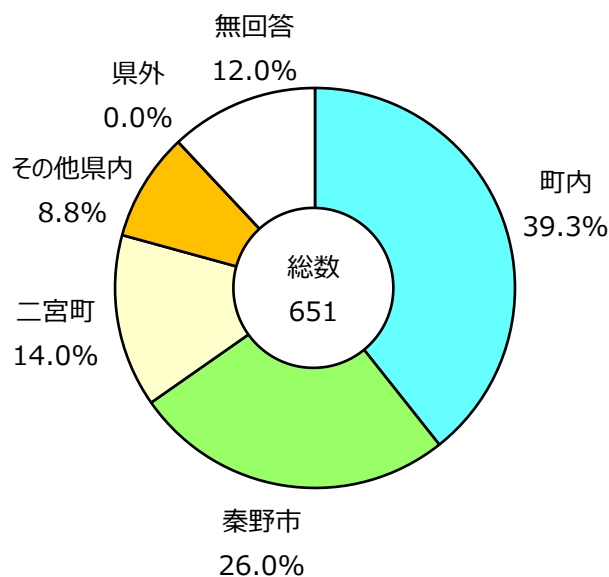


【年齢・居住地区とのクロス集計（無回答を除く）】

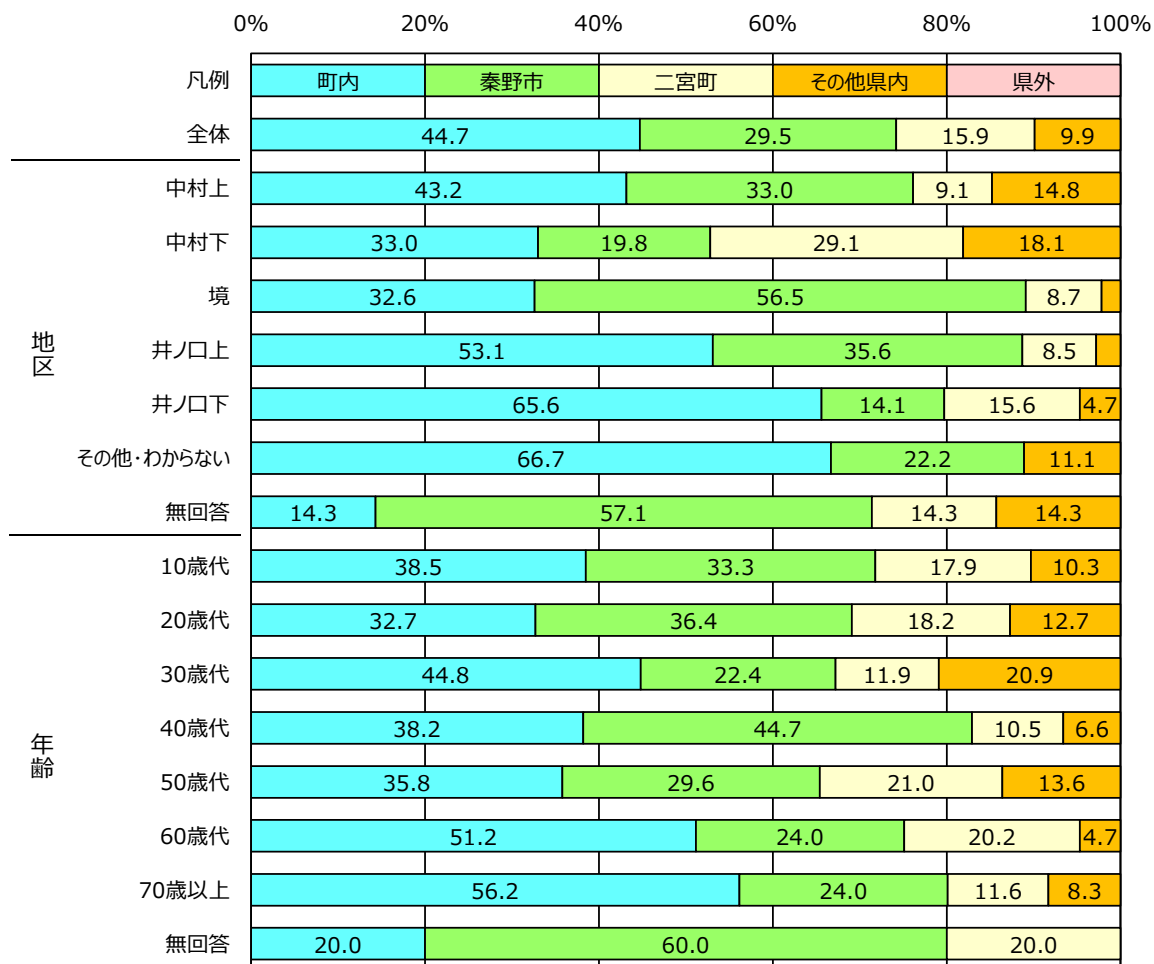


■食料品・日用品店舗（スーパーなど）＜行き先＞

- 町全体では、「町内」が39.3%で最も多く、「秦野市」が26.0%、「二宮町」が14.0%で続いています。
- 地区別にみると、井ノ口上・井ノ口下地区で「町内」、境地区で「秦野市」とする回答が半数を超えています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるほど「町内」とする比率が高くなる傾向にありますが、30歳代は「その他県内」とする比率が他の年齢層と比較して高くなっています。

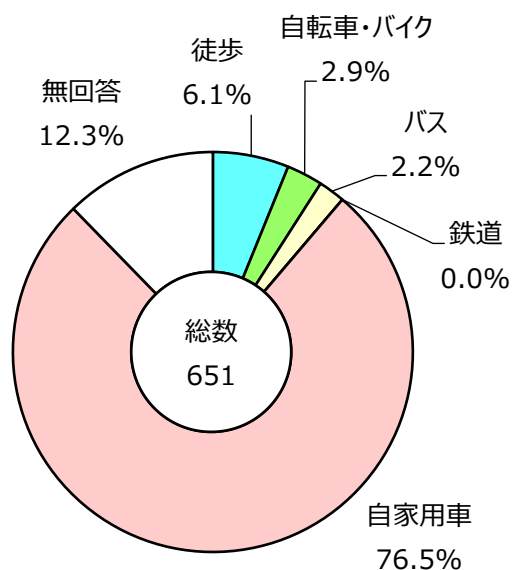


【年齢・居住地区とのクロス集計（無回答を除く）】



■食料品・日用品店舗（スーパーなど）＜交通手段＞

- 町全体では、「自家用車」が76.5%で最も多く、「徒歩」が6.1%、「自転車・バイク」が2.9%、「バス」が2.2%で続きます。
- 地区別にみると、いずれの地区も「自家用車」の比率が高くなっており、特に中村上・中村下地区及び境地区では「自家用車」が90%を超えています。一方、井ノ口上・井ノ口下地区では、「徒歩」の比率が地区と比較して高くなっています。
- 年齢別にみると、いずれの年齢層も「自家用車」の比率が高くなっていますが、10歳代で「自転車・バイク」、また、20歳代、60歳代及び70歳以上で「徒歩」の比率が他の年齢層と比較して高くなっています。

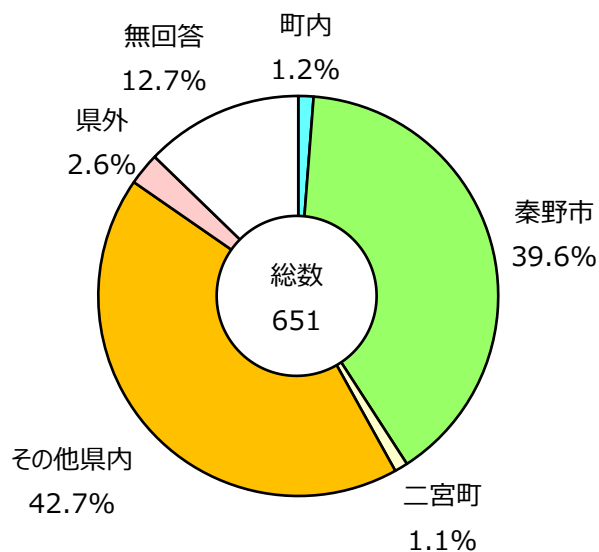


【年齢・居住地区とのクロス集計（無回答を除く）】

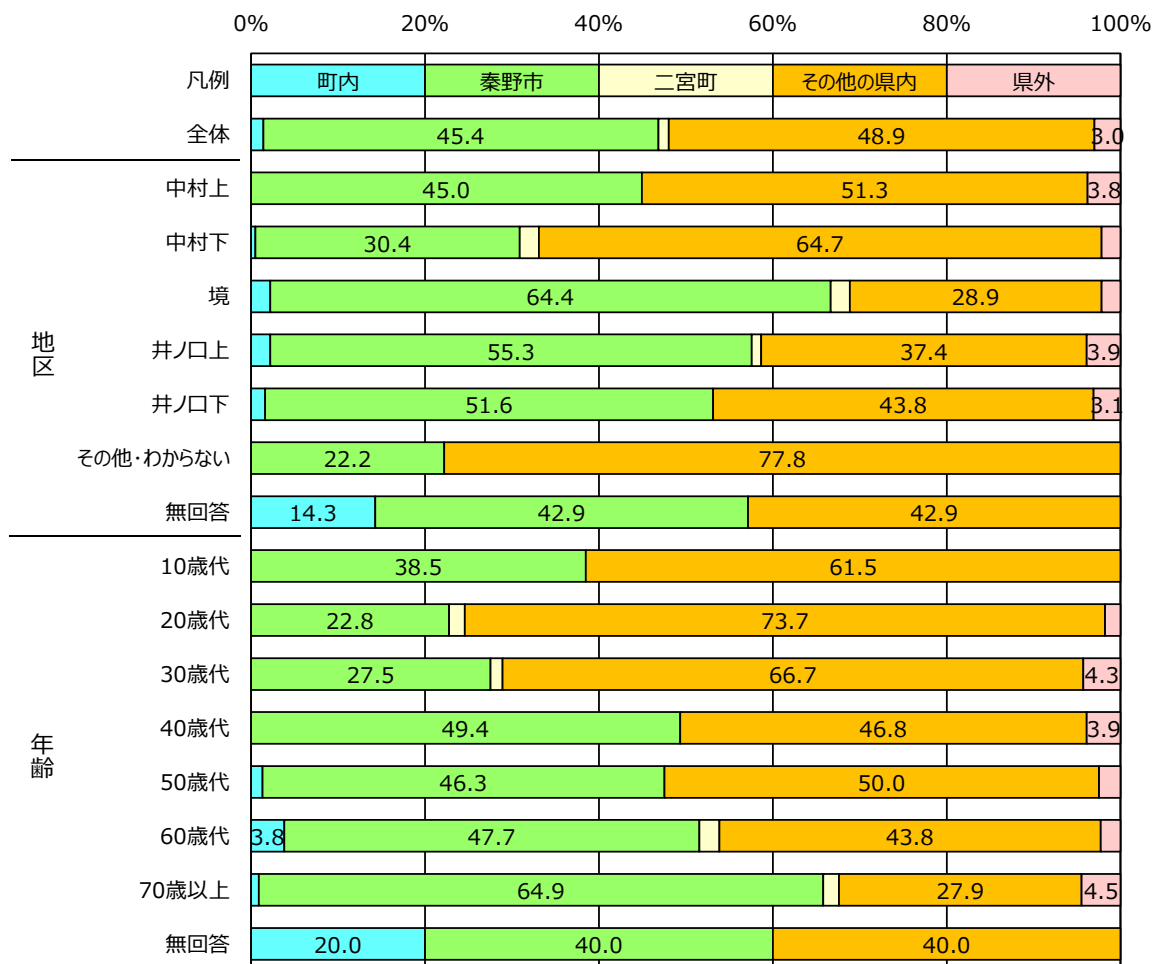


■大型ショッピングセンター・デパート＜行き先＞

- 町全体では、「その他県内」が42.7%で最も多く、「秦野市」が39.6%、「県外」が2.6%で続いており、購買力が他都市に流出している状況にあります。
- 地区別にみると、境地区、井ノ口上・井ノ口下地区で「秦野市」、中村上・中村下地区で「その他県内」とする比率が他の地区と比較して高くなっています。
- 年齢別にみると、年齢が高いほど「秦野市」に、低くなるほど「その他県内」とする比率が高くなる傾向にあります。

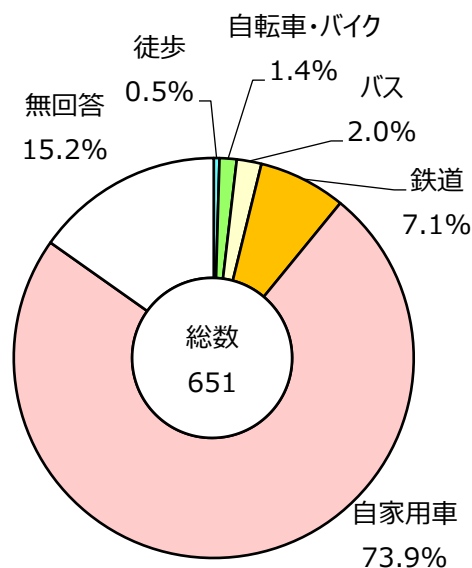


【年齢・居住地区とのクロス集計（無回答を除く）】



■大型ショッピングセンター・デパート＜交通手段＞

- 町全体では、「自家用車」が73.9%で最も多く、「鉄道」が7.1%、「バス」が2.0%、「自転車・バイク」が1.4%が続いています。
- 地区別にみると、いずれの地区も「自家用車」の比率が高くなっており、井ノ口上地区を除いた他の地区では、約90%となっています。
- 年齢別にみると、いずれの年齢層も「自家用車」の比率が高くなっていますが、10歳代で「バス」や「自転車・バイク」の比率が他の年齢層と比較して高く、また、年齢が低いほど、「鉄道」の比率が高くなる傾向にあります。

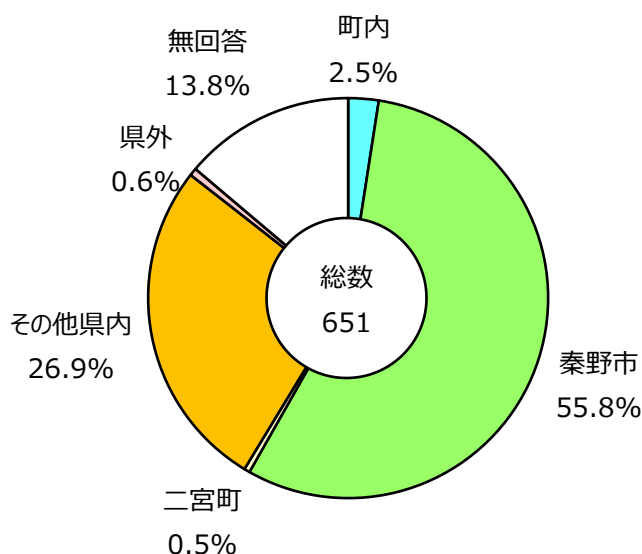


【年齢・居住地区とのクロス集計(無回答を除く)】

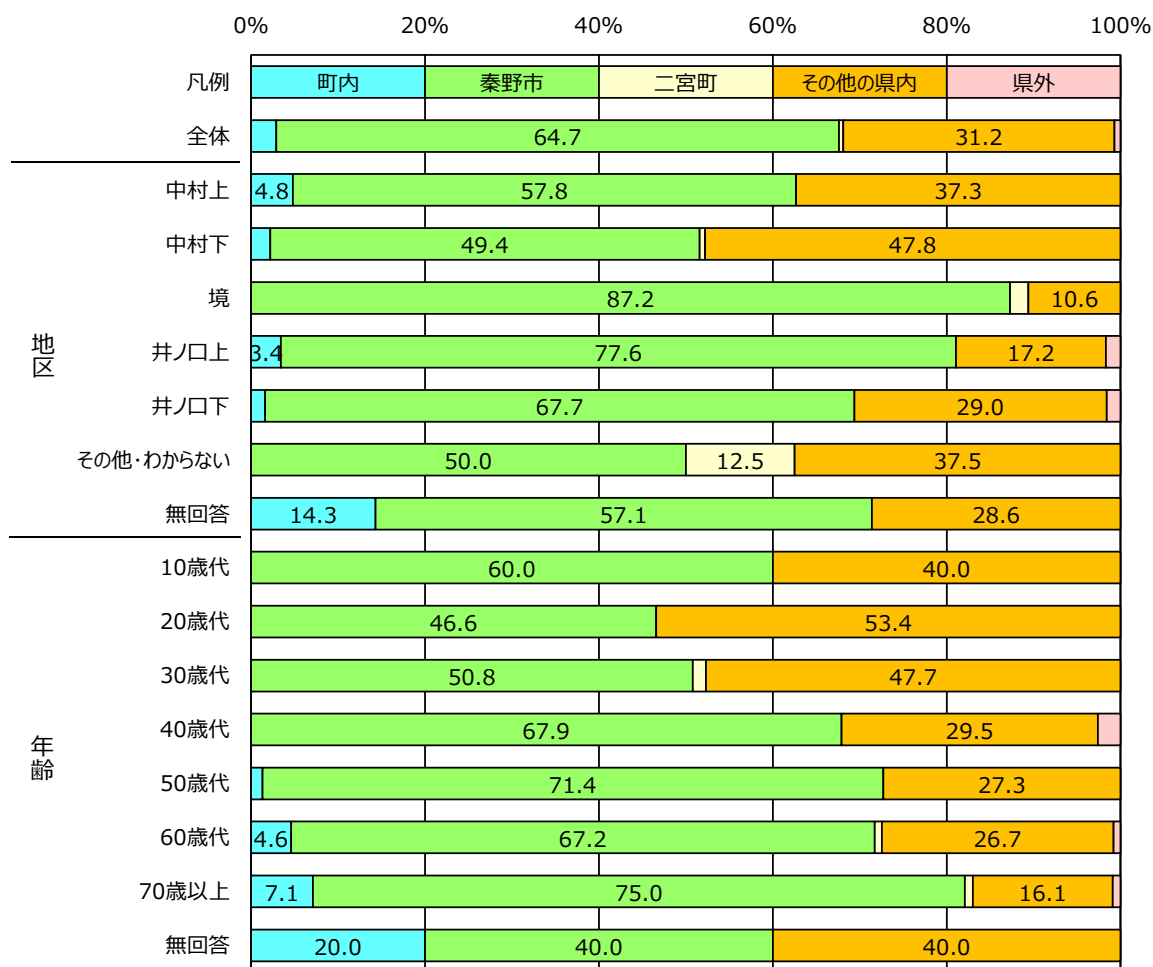


■電化製品・家具等の専門店<行き先>

- 町全体では、「秦野市」が55.8%で最も多く、「その他県内」が26.9%で続いており、「町内」はわずか2.5%で、購買力が他都市に流出している状況にあります。
- 地区別にみると、境地区、井ノ口上・井ノ口下地区で「秦野市」、中村上・中村下地区で「その他県内」とする比率が他の地区と比較して高くなっています。
- 年齢別にみると、年齢が高いほど「秦野市」に、低くなるほど「その他県内」とする比率が高くなる傾向にあります。

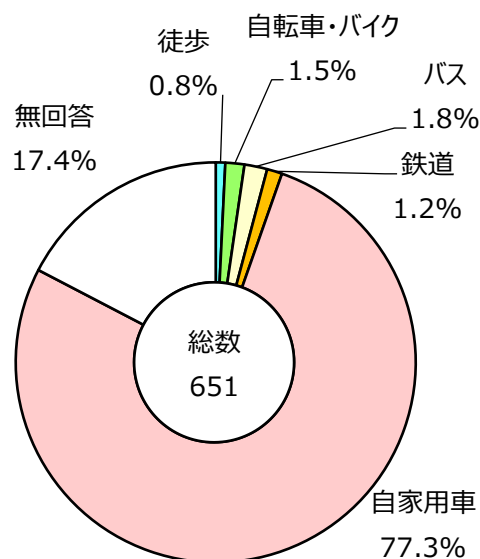


【年齢・居住地区とのクロス集計(無回答を除く)】



■電化製品・家具等の専門店<交通手段>

- 町全体では、「自家用車」が77.3%で最も多く、「バス」が1.8%、「自転車・バイク」が1.5%、「鉄道」が1.2%が続いています。
- 地区別にみると、いずれの地区も「自家用車」の比率が高くなっており、井ノ口上地区以外は90%を超えています。
- 年齢別にみると、いずれの年齢層も「自家用車」の比率が高くなっています。

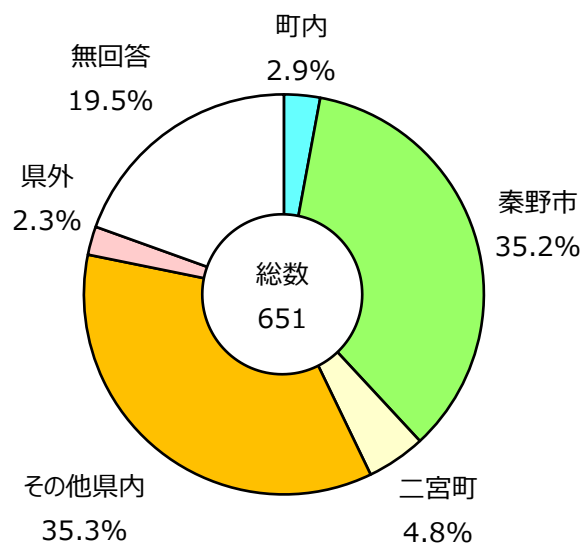


【年齢・居住地区とのクロス集計(無回答を除く)】

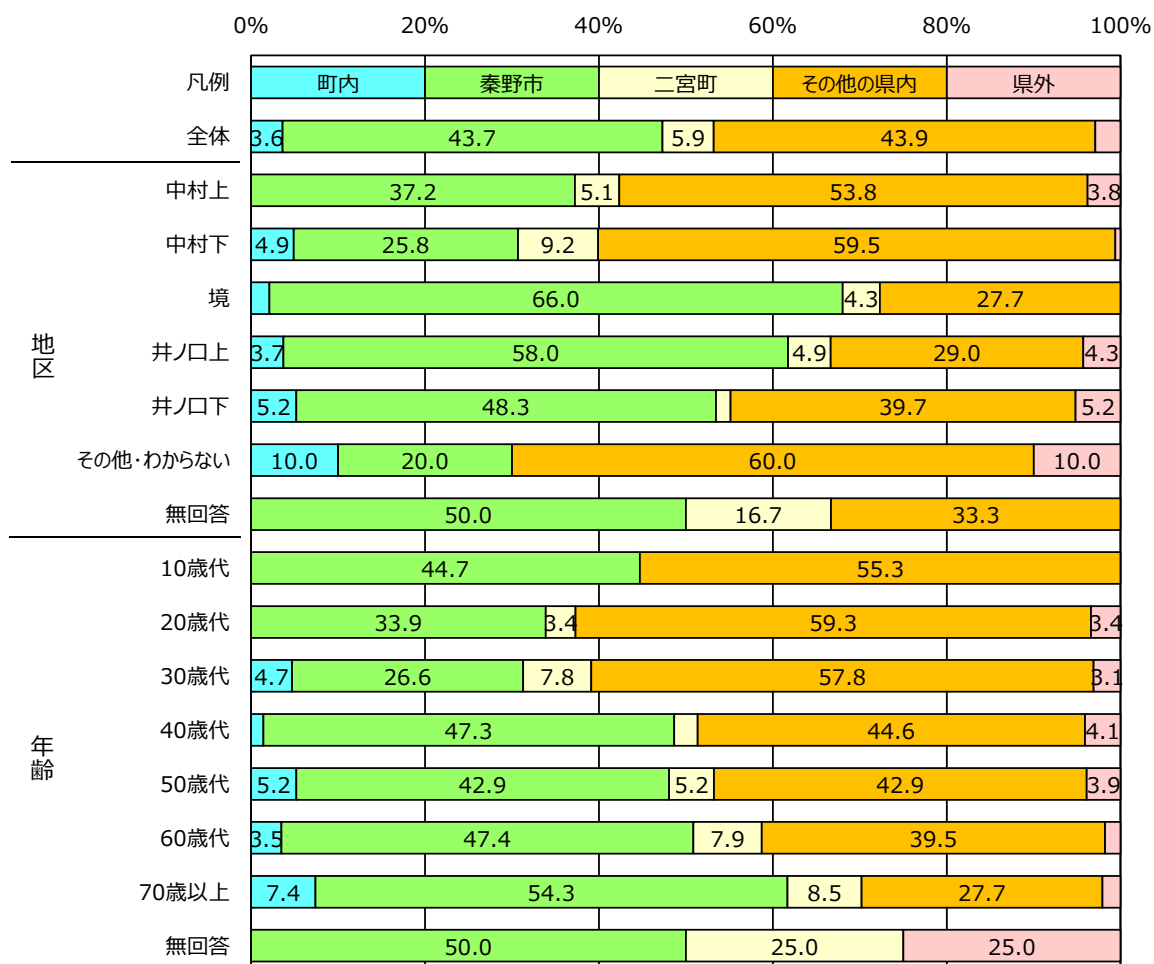


■飲食店＜行き先＞

- 町全体では、「その他県内」が35.3%で最も多く、「秦野市」が35.2%、「二宮町」が4.8%が続いています。
- 地区別にみると、境地区、井ノ口上・井ノ口下地区で「秦野市」、中村上・中村下地区で「その他県内」とする比率が他の地区と比較して高くなっています。
- 年齢別にみると、年齢が高いほど「秦野市」に、低くなるほど「その他県内」とする比率が高くなる傾向にあります。

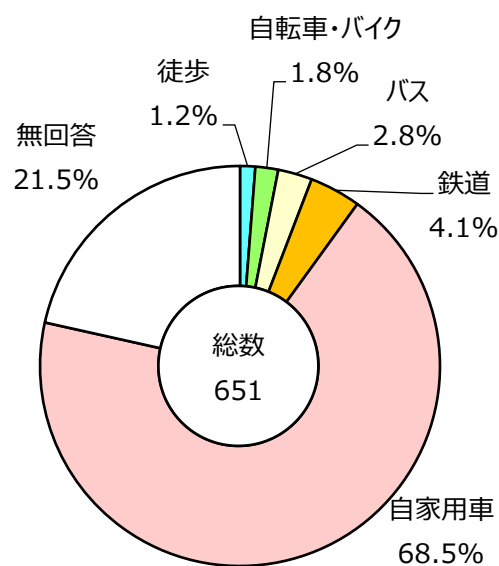


【年齢・居住地区とのクロス集計(無回答を除く)】

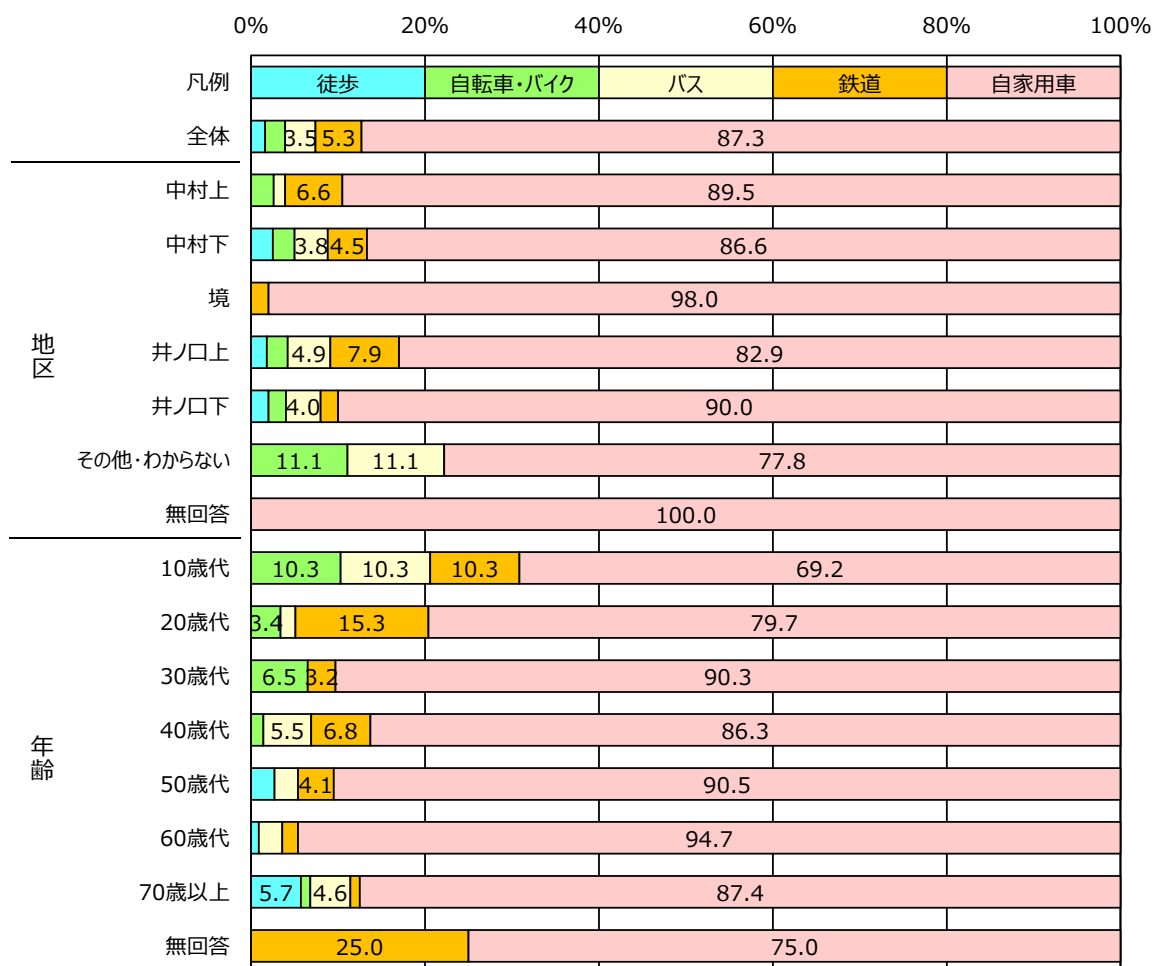


■飲食店＜交通手段＞

- 町全体では、「自家用車」が68.5%で最も多く、「鉄道」が4.1%、「バス」が2.8%、「自転車・バイク」が1.8%が続いています。
- 地区別にみると、いずれの地区も「自家用車」の比率が高くなっており、全ての地区で80%を超えています。
- 年齢別にみると、いずれの年齢層も「自家用車」の比率が高くなっていますが、10歳代及び20歳代で「鉄道」の比率が他の年齢層と比較して高くなる傾向にあります。

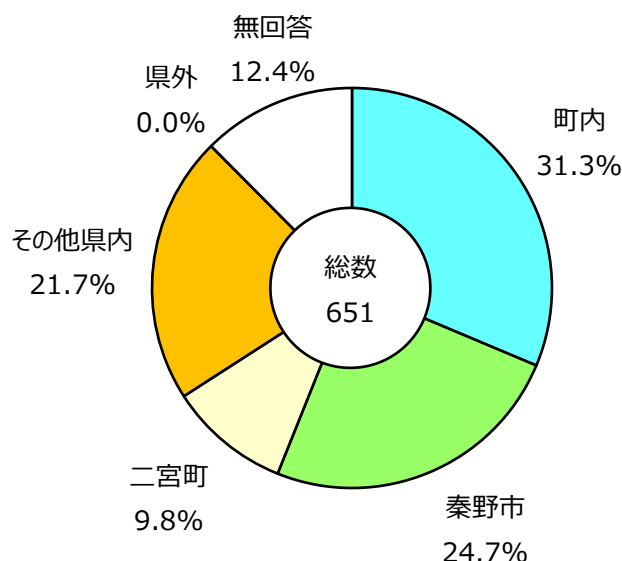


【年齢・居住地区とのクロス集計(無回答を除く)】

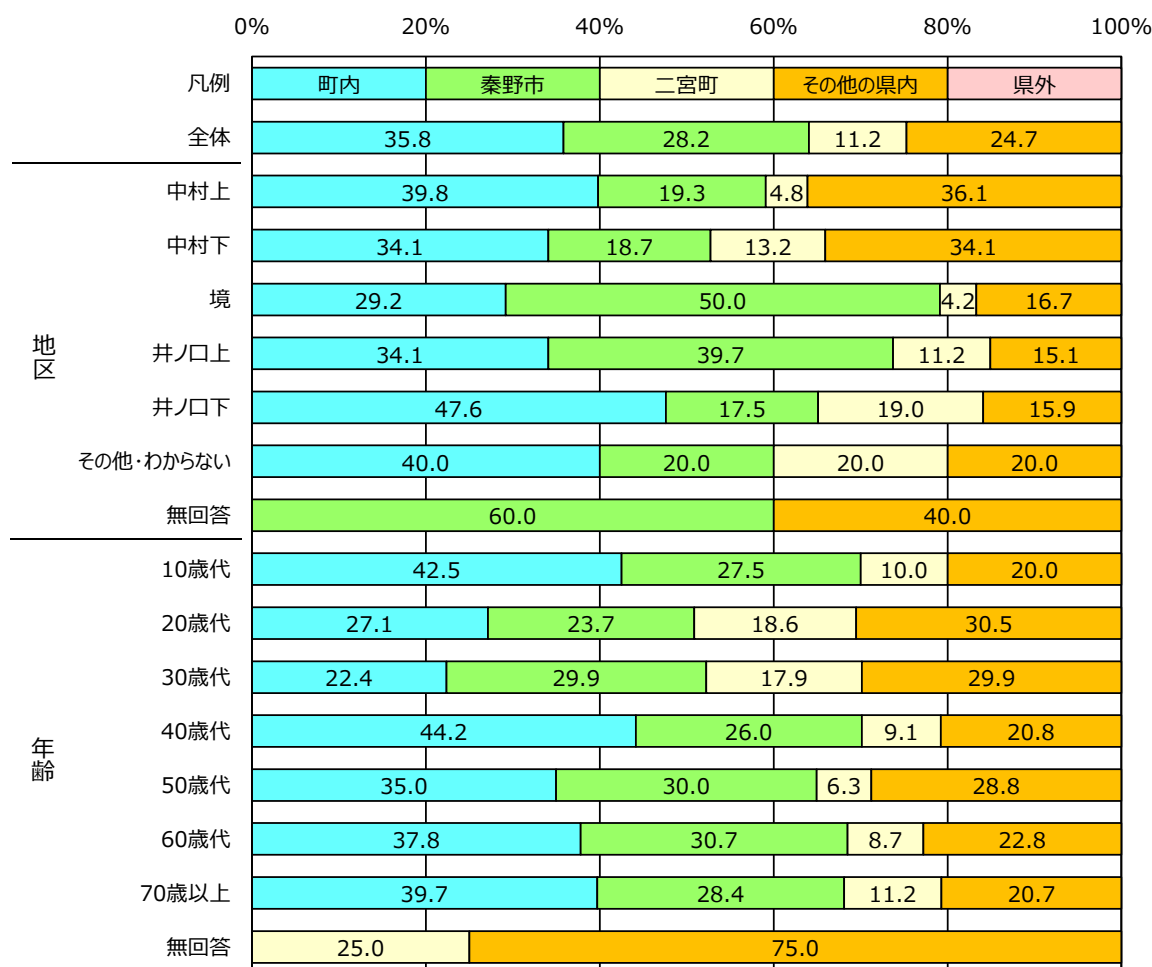


■医療施設＜行き先＞

- 町全体では、「町内」が31.3%で最も多く、「秦野市」が24.7%、「その他県内」が21.7%が続いています。
- 地区別にみると、中村上地区及び井ノ口下地区で「町内」、境地区及び井ノ口上地区で「秦野市」、中村下地区で「その他県内」とする比率がそれぞれ高くなっています。
- 年齢別にみると、10歳代及び40歳代以上の年齢層で「町内」とする比率が最も高くなっていますが、20歳代は「その他県内」、30歳代は「秦野市」、「その他県内」とする比率が高くなっています。

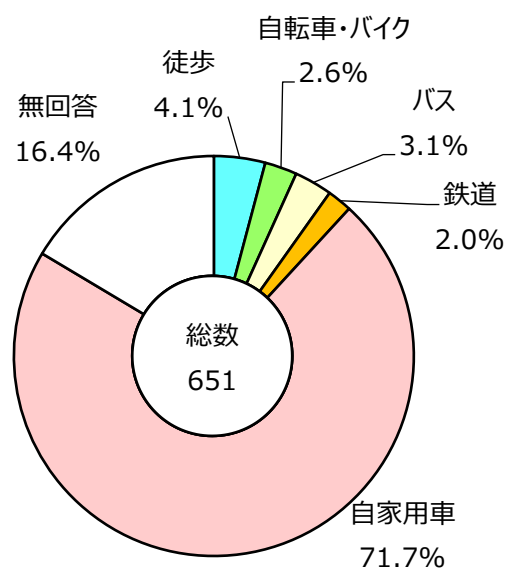


【年齢・居住地区とのクロス集計（無回答を除く）】



■医療施設＜交通手段＞

- 町全体では、「自家用車」が71.7%で最も多く、「徒歩」が4.1%、「バス」が3.1%、「自転車・バイク」が2.6%で続きます。
- 地区別にみると、いずれの地区も「自家用車」の比率が高くなっており、全ての地区で80%を超えています。井ノ口下地区で「徒歩」とする比率が他の地区と比較して高くなっています。
- 年齢別にみると、いずれの年齢層も「自家用車」の比率が高くなっていますが、10歳代で「自転車・バイク」、20歳代及び50歳代で「鉄道」、70歳以上で「バス」の比率が他の年齢層と比較して高くなっています。

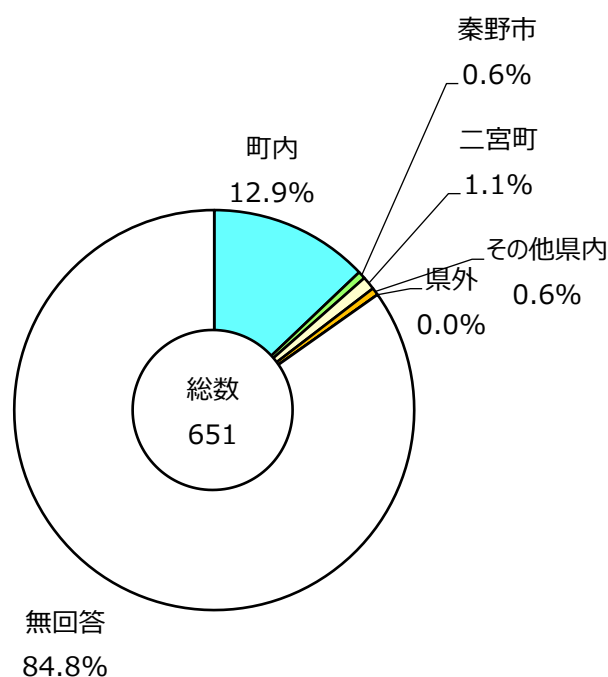


【年齢・居住地区とのクロス集計(無回答を除く)】

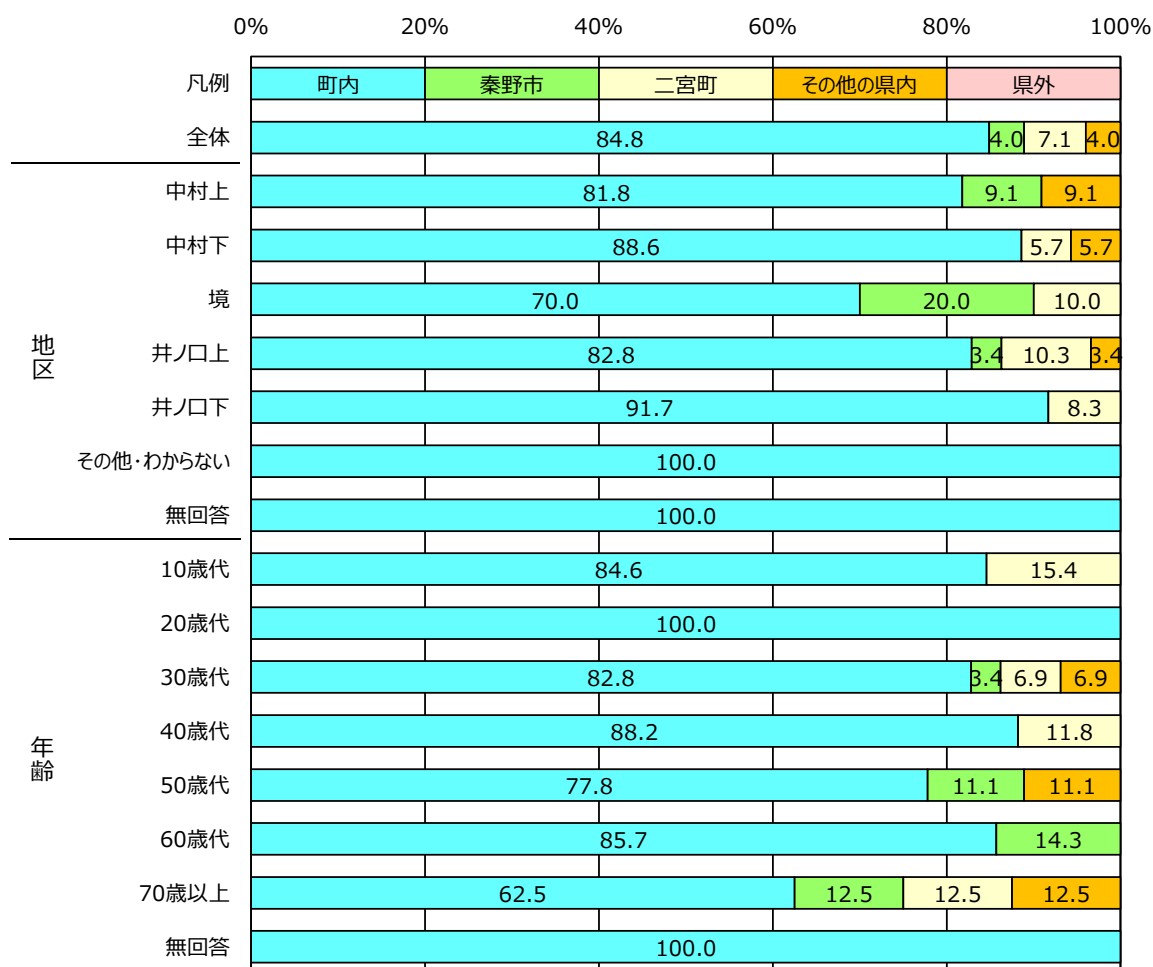


■幼稚園・保育園＜行き先＞

- 町全体では、「町内」が12.9%で最も多く、「二宮町」が1.1%、「秦野市」、「その他県内」の0.6%が続いています。
- 地区別にみると、境地区で「秦野市」が20.0%に達するものの、いずれの地区も「町内」とする比率が70%を超えています。
- 年齢別にみると、20歳代で「町内」が100%となるなど、いずれの年齢層も「町内」とする比率が高くなっています。

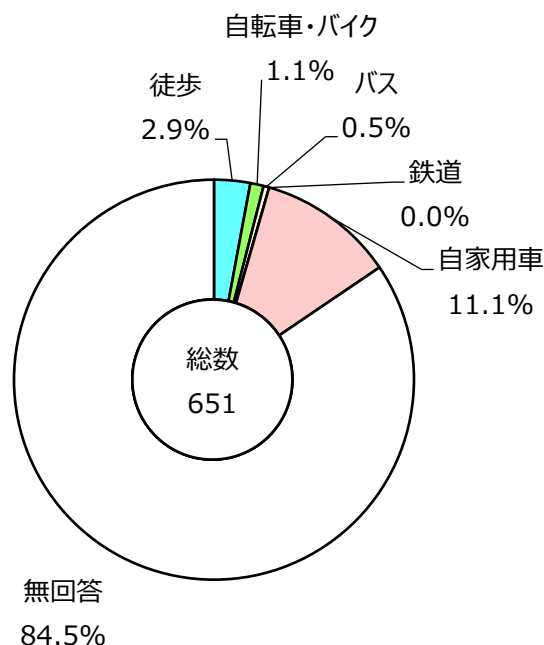


【年齢・居住地区とのクロス集計（無回答を除く）】

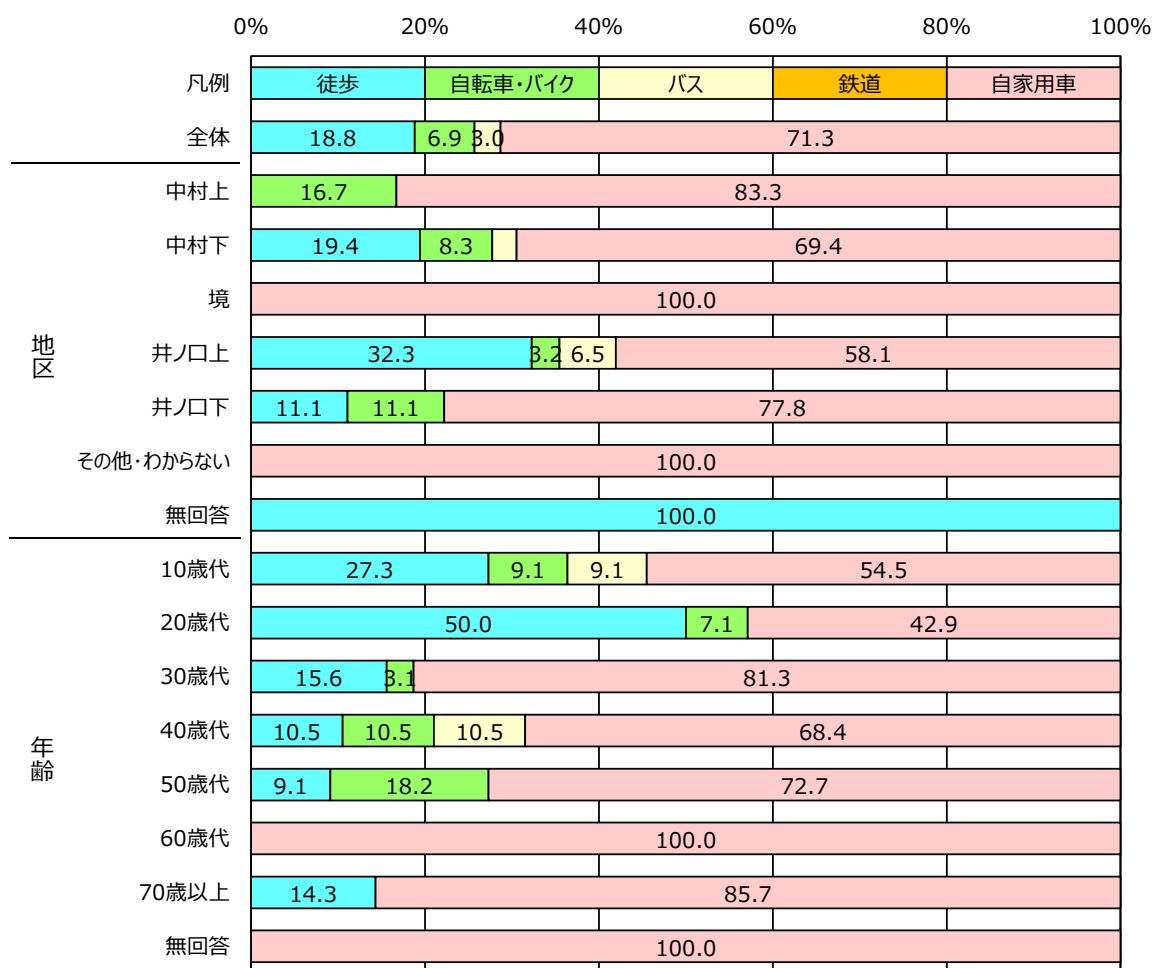


■幼稚園・保育園＜交通手段＞

- 町全体では、「自家用車」が11.1%で最も多く、「徒歩」が2.9%、「自転車・バイク」が1.1%で続いています。
- 地区別にみると、中村上地区、境地区、井ノ口下地区では、「自家用車」が70%を超えている一方、中村下地区及び井ノ口上地区は「徒歩」の比率が高いなど、「自家用車」に依らない通園が可能な状況にあることがうかがえます。
- 年齢別にみると、20歳代の半数が「徒歩」となっており、30歳代から50歳代においては年齢が高くなるほど、「徒歩」の比率が低下し、代わって「自転車・バイク」が高くなる傾向にあります。



【年齢・居住地区とのクロス集計（無回答を除く）】

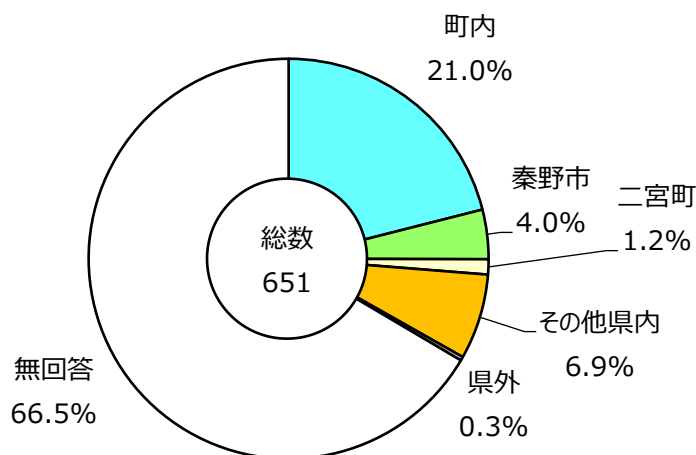


■健康・福祉施設＜行き先＞

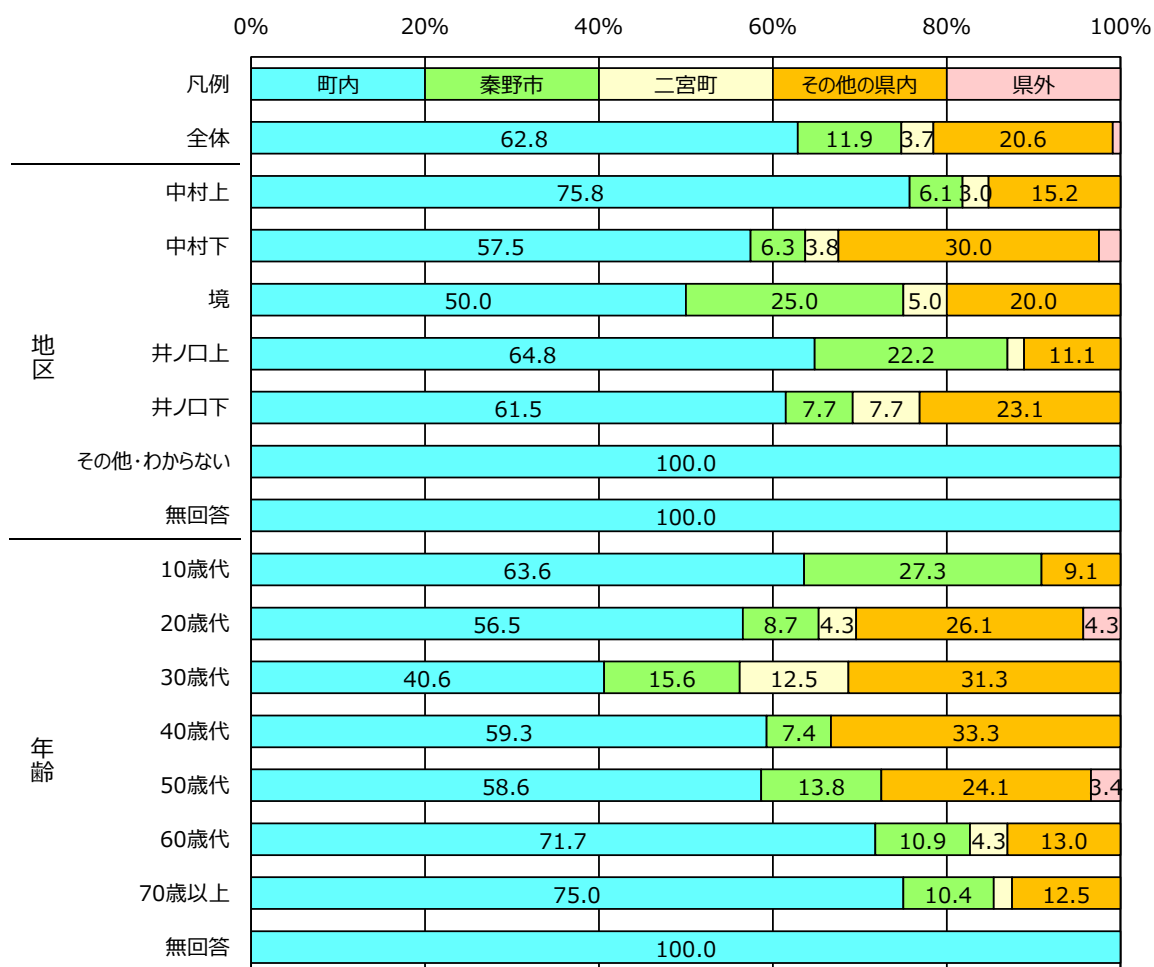
○ 町全体では、「町内」が21.0%で最も多く、「その他県内」が6.9%、「秦野市」が4.0%で続いています。

○ 地区別にみると、いずれも「町内」とする比率が高くなっていますが、中村上地区では約75%を占めている一方、境地区及び井ノ口上地区では「秦野市」、中村下地区及び井ノ口下地区は「その他県内」とする比率が他の地区と比較してやや高くなっています。

○ 年齢別にみると、30歳代までは年齢が高くなるほど「町内」とする比率が低下する一方で、40歳代以上では年齢が高くなるほど「町内」とする比率が高くなる傾向にあります。

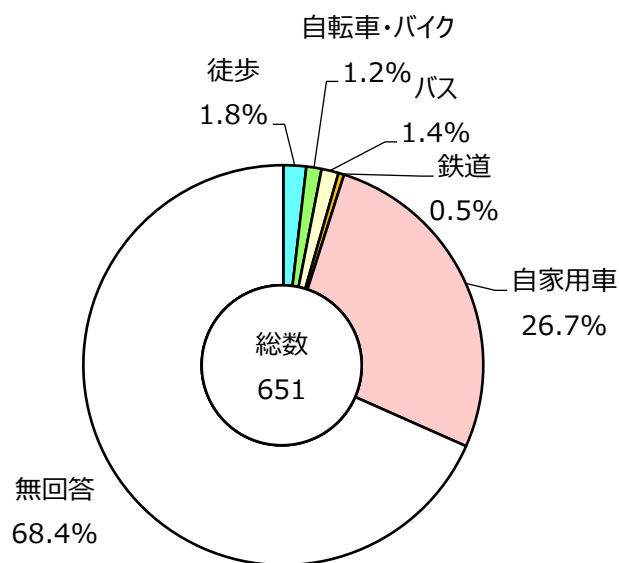


【年齢・居住地区とのクロス集計（無回答を除く）】

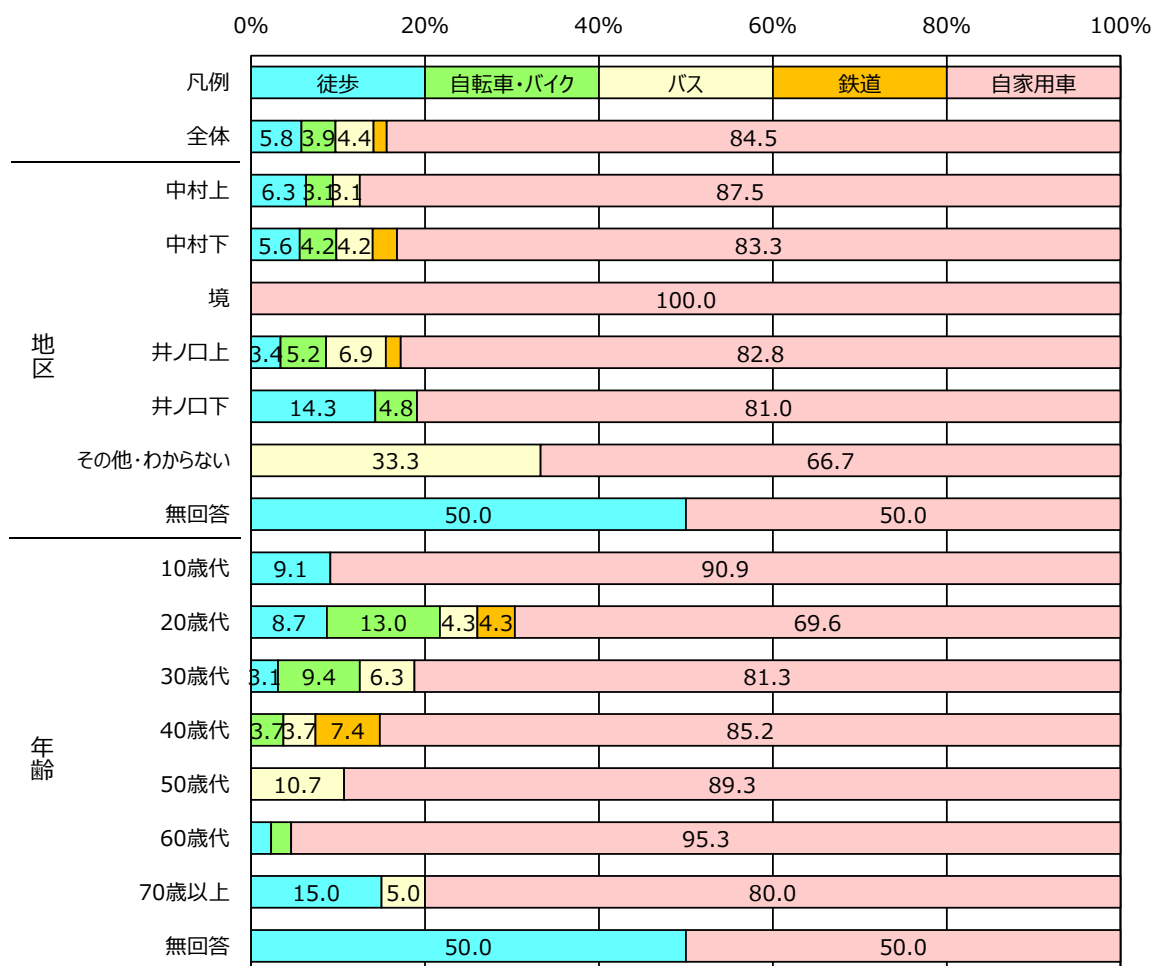


■健康・福祉施設＜交通手段＞

- 町全体では、「自家用車」が26.7%で最も多く、「徒歩」が1.8%、「バス」が1.4%、「自転車・バイク」が1.2%が続いています。
- 地区別にみると、いずれの地区も「自家用車」が80%を超えていますが、井ノ口下地区では、「徒歩」とする比率が他の地区と比較して高くなっています。
- 年齢別にみると、20歳代は「自家用車」以外の合計の比率が他の年齢層と比較して高くなっています。

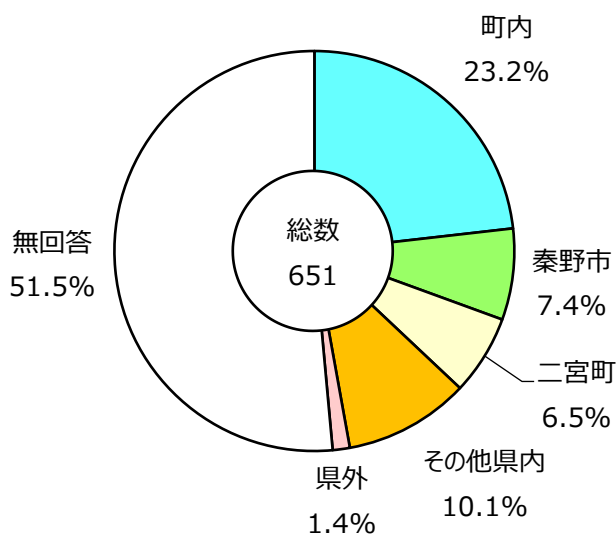


【年齢・居住地区とのクロス集計(無回答を除く)】

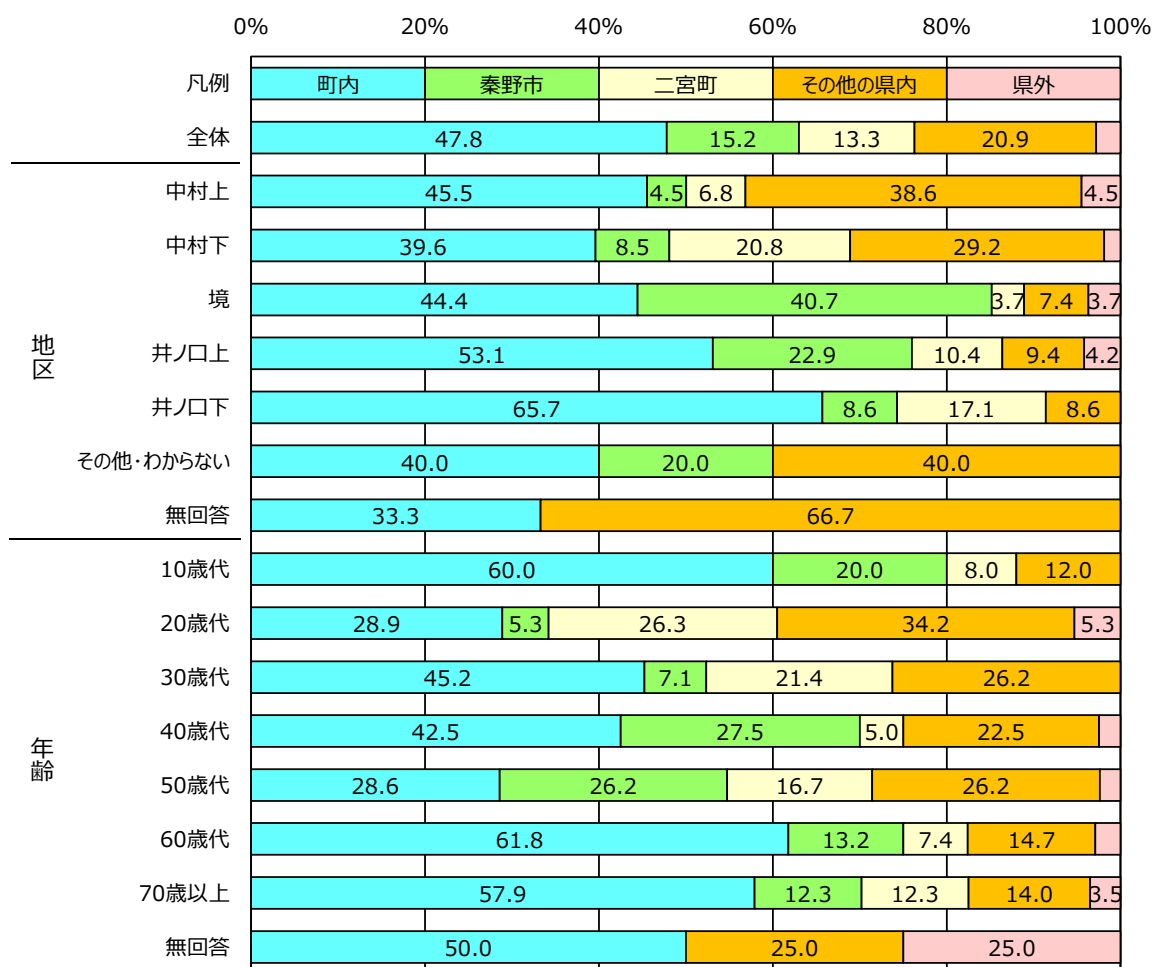


■文化施設・図書館＜行き先＞

- 町全体では、「町内」が23.2%で最も多く、「その他県内」が10.1%、「秦野市」が7.4%が続いています。
- 地区別にみると、井ノ口上・井ノ口下地区では「町内」が半数を超えて高くなっていますが、中村上・中村下地区では「その他県内」、境地区では「秦野市」とする比率が他の地区と比較して高くなっています。
- 年齢別にみると、60歳代以上で「町内」が半数を超えています。20歳代で「その他県内」、40歳代及び50歳代で「秦野市」とする比率が他の年齢層と比較して高くなっています。

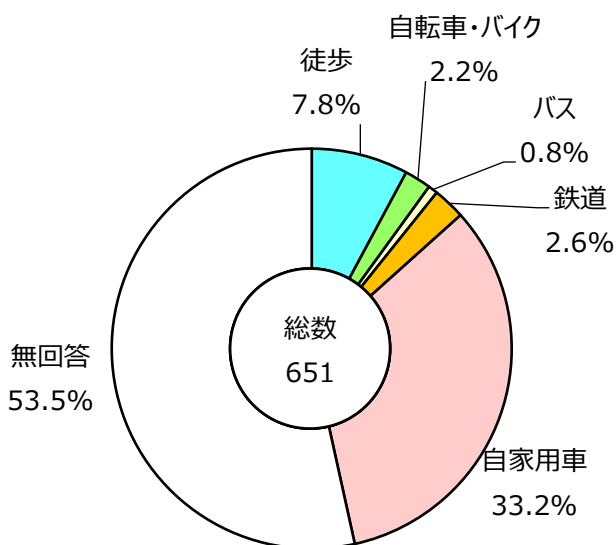


【年齢・居住地区とのクロス集計（無回答を除く）】



■文化施設・図書館＜交通手段＞

- 町全体では、「自家用車」が33.2%で最も多く、「徒歩」が7.8%、「鉄道」が2.6%が続いています。
- 地区別にみると、境地区では「自家用車」が90%を超える一方、中村上・中村下地区では「自転車・バイク」や「鉄道」、井ノ口上・井ノ口下地区では「徒歩」とする比率が他の地区と比較して高くなっています。
- 年齢別にみると、10歳代、20歳代及び70歳代以上で「徒歩」とする回答が他の年齢層と比較して高くなっています。

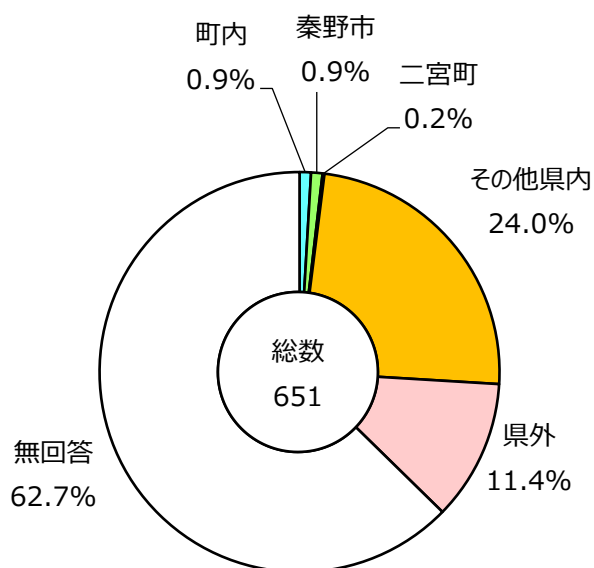


【年齢・居住地区とのクロス集計（無回答を除く）】

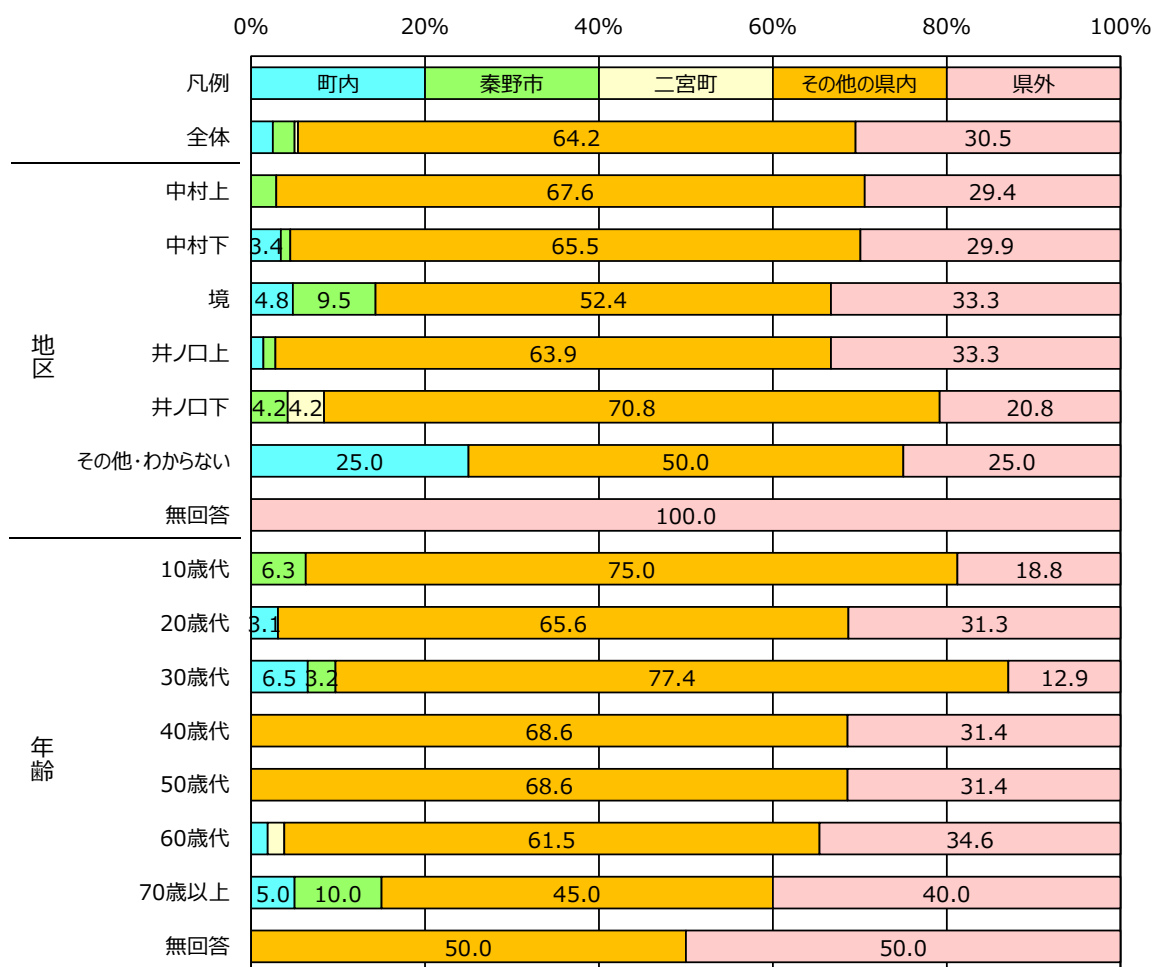


■美術館・博物館＜行き先＞

- 町全体では、「その他県内」が24.0%で最も多く、「県外」が11.4%で続いており、「町内」は0.9%にとどまっています。
- 地区別にみると、いずれの地区も「その他県内」とする比率が高くなっていますが、境地区では「秦野市」とする比率が他の地区と比較してやや高くなっています。
- 年齢別にみると、いずれの年齢層も「その他県内」とする比率が高くなっており、30歳代以上では、年齢が高くなるほど「県外」とする回答が高くなる傾向にあります。

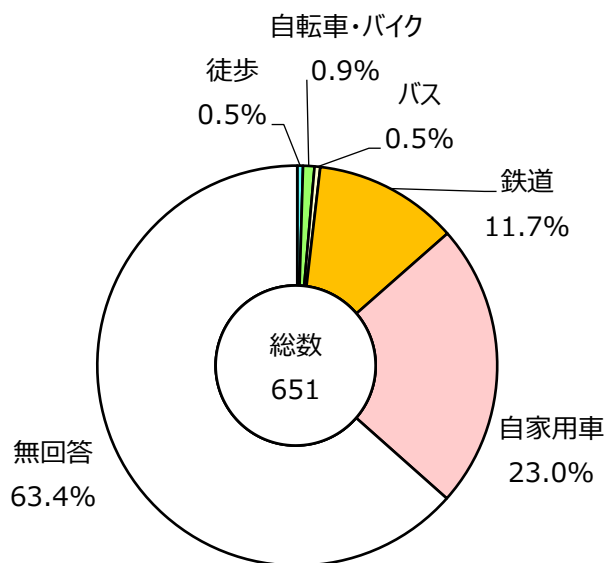


【年齢・居住地区とのクロス集計（無回答を除く）】

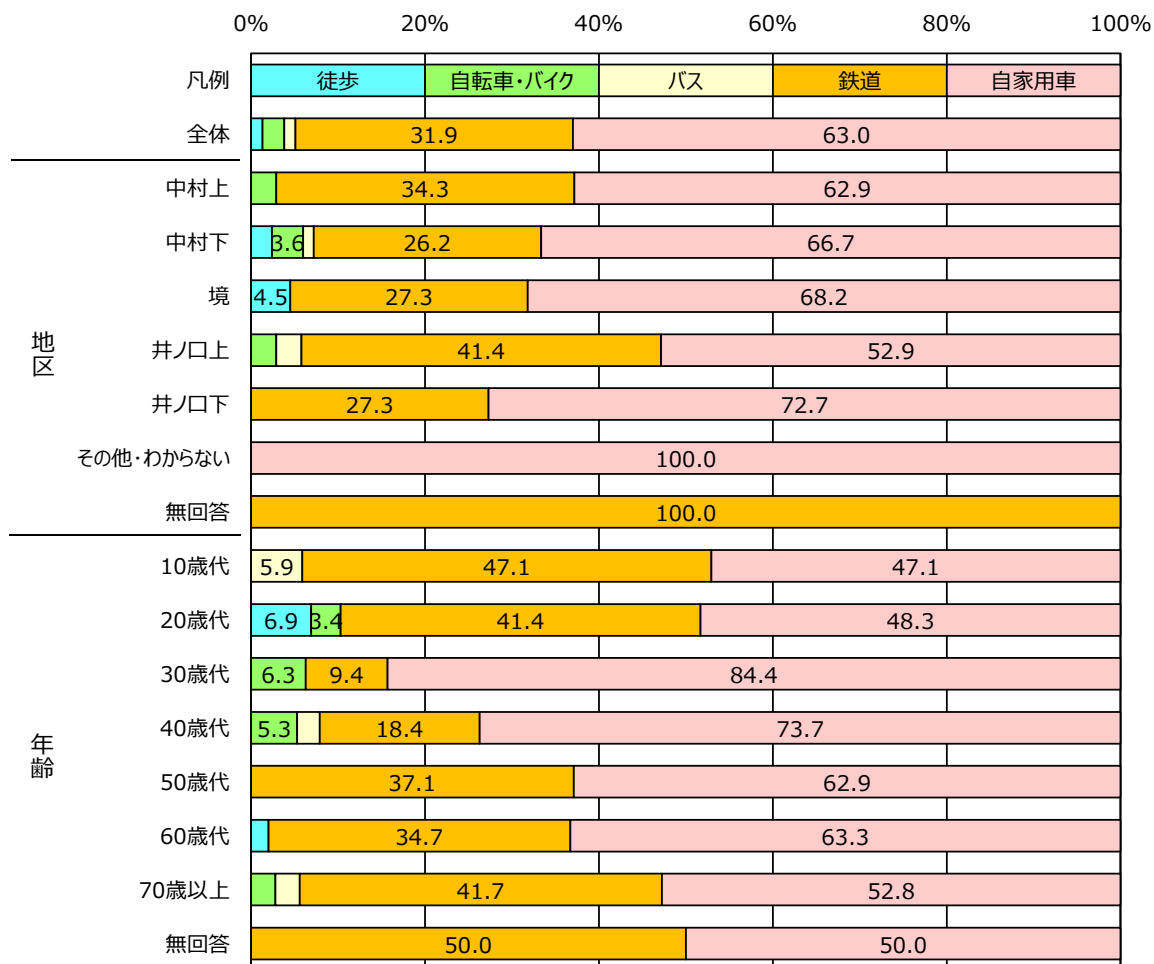


■美術館・博物館＜交通手段＞

- 町全体では、「自家用車」が23.0%で最も多く、「鉄道」が11.7%が続いています。
- 地区別にみると、いずれも「自家用車」の比率が高くなっていますが、行き先が「その他県内」や「県外」が大半を占めることから、「鉄道」の比率も高くなっています。
- 年齢別にみると、10歳代、20歳代及び70歳以上で「鉄道」が40%を超える一方で、30歳代では10%未満となっています。

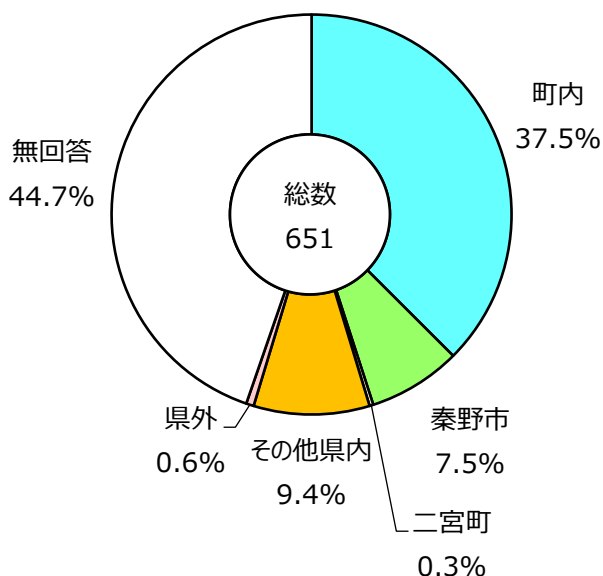


【年齢・居住地区とのクロス集計（無回答を除く）】

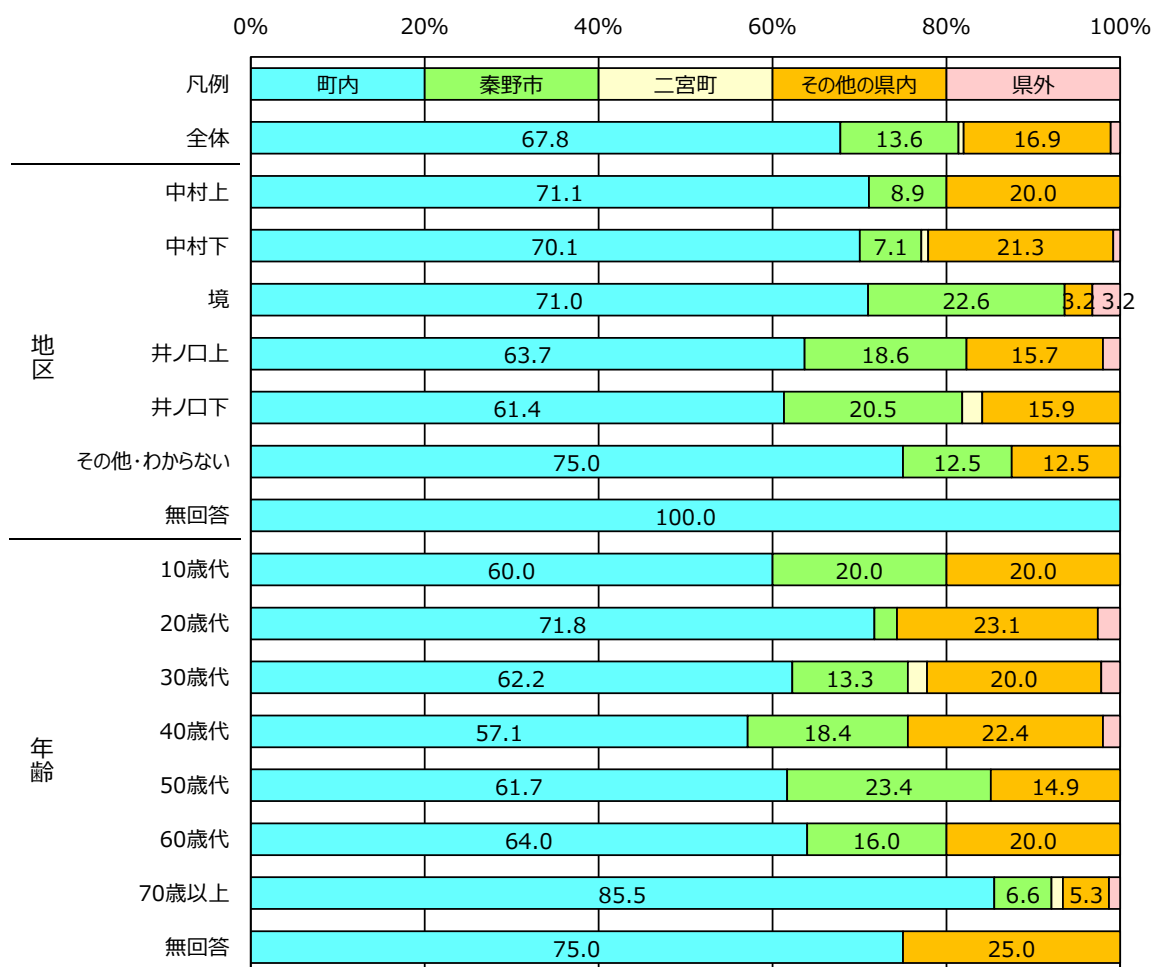


■公園・広場＜行き先＞

- 町全体では、「町内」が37.5%で最も多く、「その他県内」が9.4%、「秦野市」が7.5%が続いています。
- 地区別にみると、いずれの地区も「町内」とする比率が高くなっていますが、中村上・中村下地区では「その他県内」、境地区及び井ノ口上・井ノ口下地区では「秦野市」とする比率がやや高くなっています。
- 年齢別にみると、いずれの年齢層も「町内」とする比率が高くなっています。

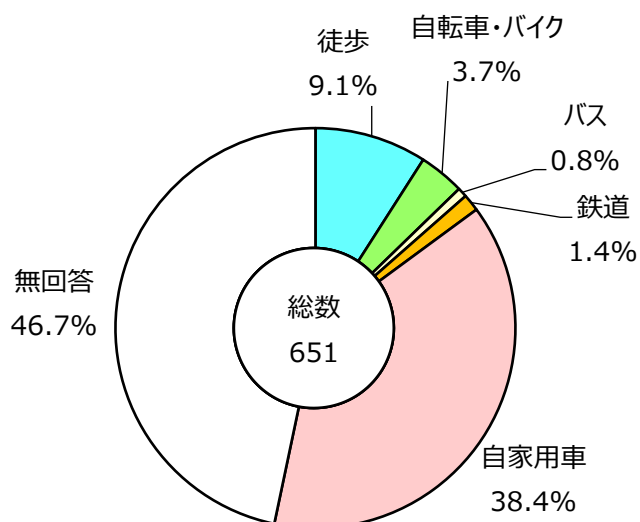


【年齢・居住地区とのクロス集計（無回答を除く）】

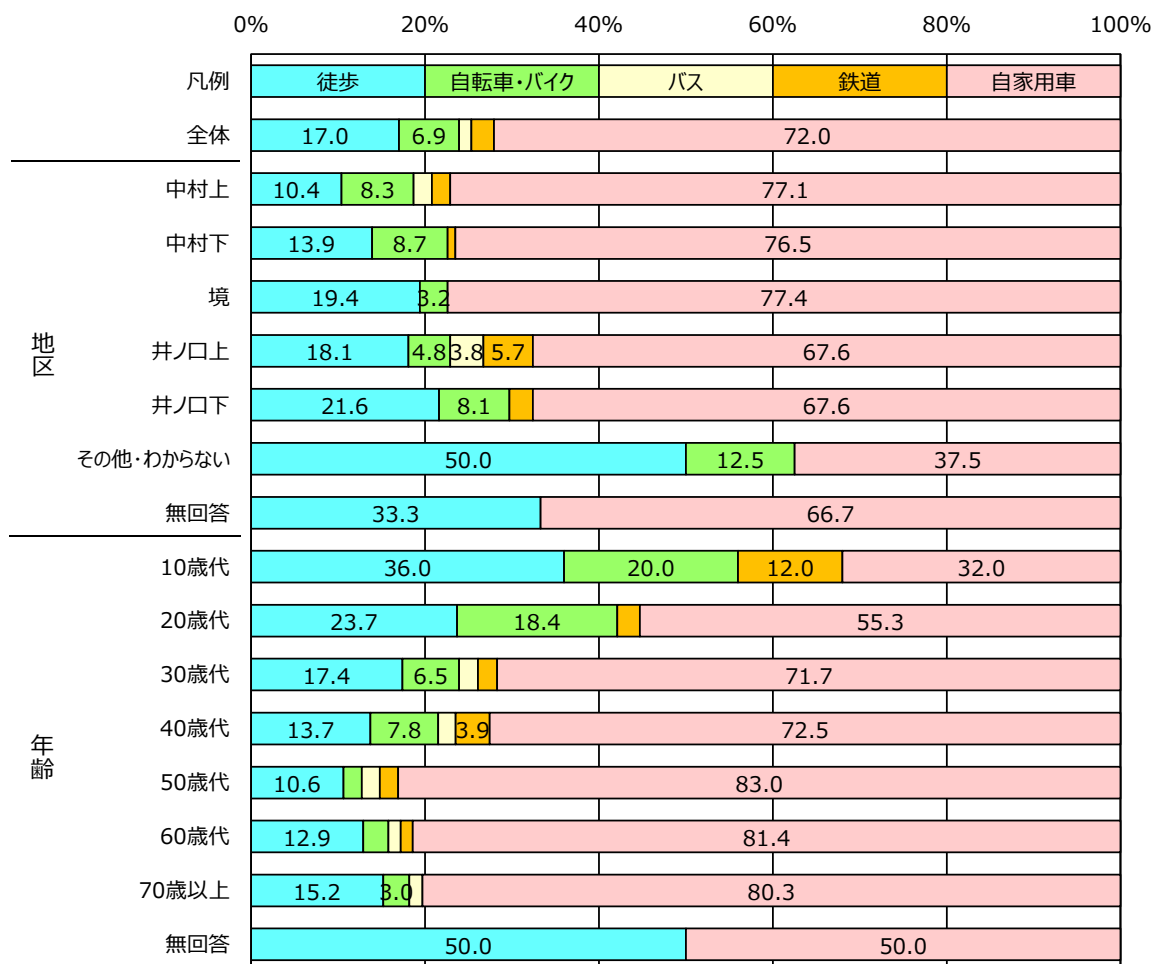


■公園・広場＜交通手段＞

- 町全体では、「自家用車」が38.4%で最も多く、「徒歩」が9.1%、「自転車・バイク」が3.7%が続いています。
- 地区別にみると、いずれの地区も「自家用車」が60%を超えています。「徒歩」についても10%を超えています。
- 年齢別にみると、「自家用車」は10歳代で約30%、20歳代で約60%にとどまっていますが、30歳代以上では70%を超えています。

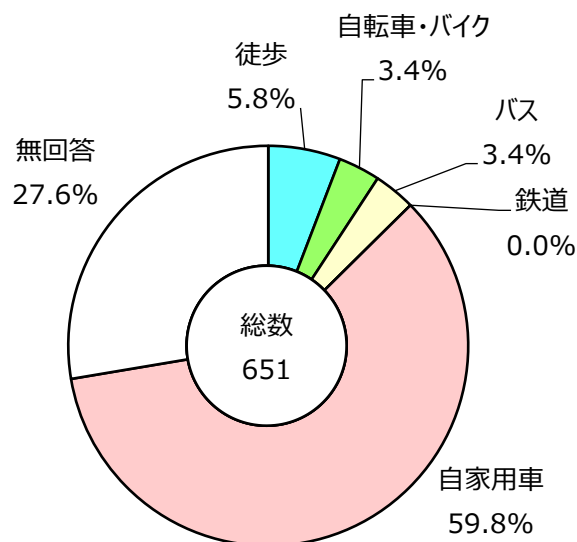


【年齢・居住地区とのクロス集計(無回答を除く)】

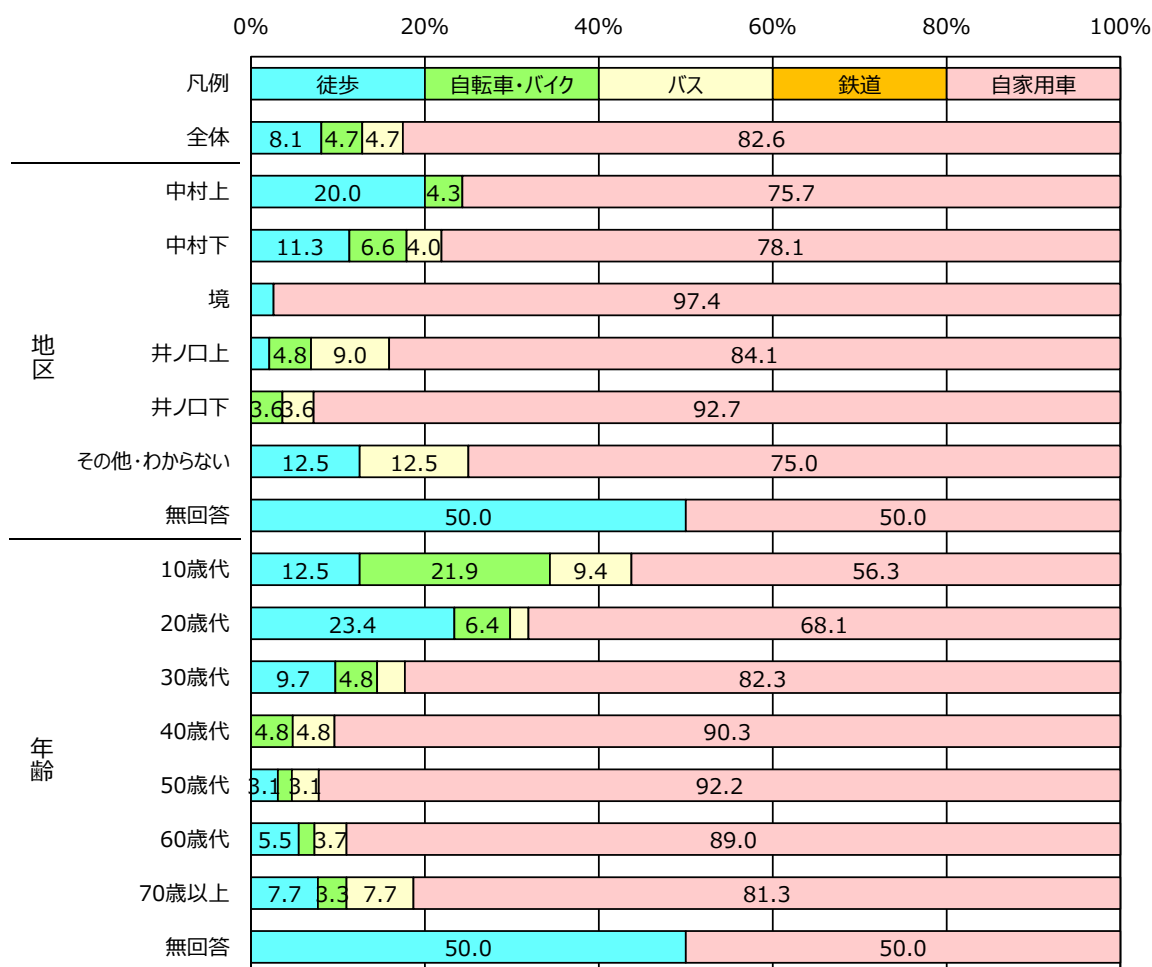


■町役場＜交通手段＞

- 町全体では、「自家用車」が59.8%で最も多く、「徒歩」が5.8%、「自転車・バイク」及び「バス」が3.4%が続いています。
- 地区別にみると、中村上・中村下地区で「徒歩」の比率がやや高くなっている一方、他の地区では「自家用車」が約90%となっています。また、井ノ口上地区では「バス」の比率が他の地区と比較してやや高くなっています。
- 年齢別にみると、いずれの年齢層も「自家用車」の比率が高くなっており、30歳代以上では80%を超えています。

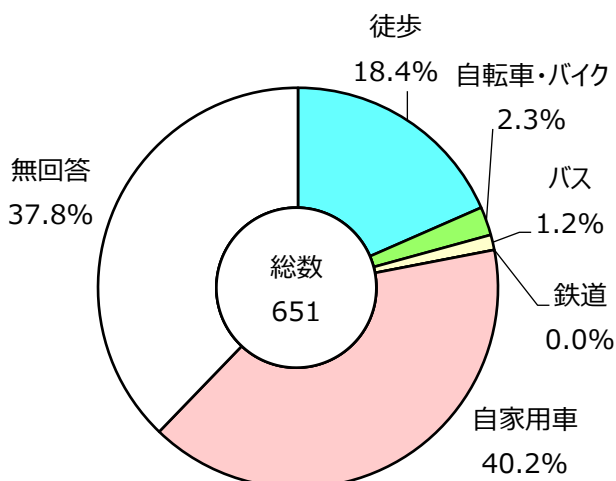


【年齢・居住地区とのクロス集計(無回答を除く)】

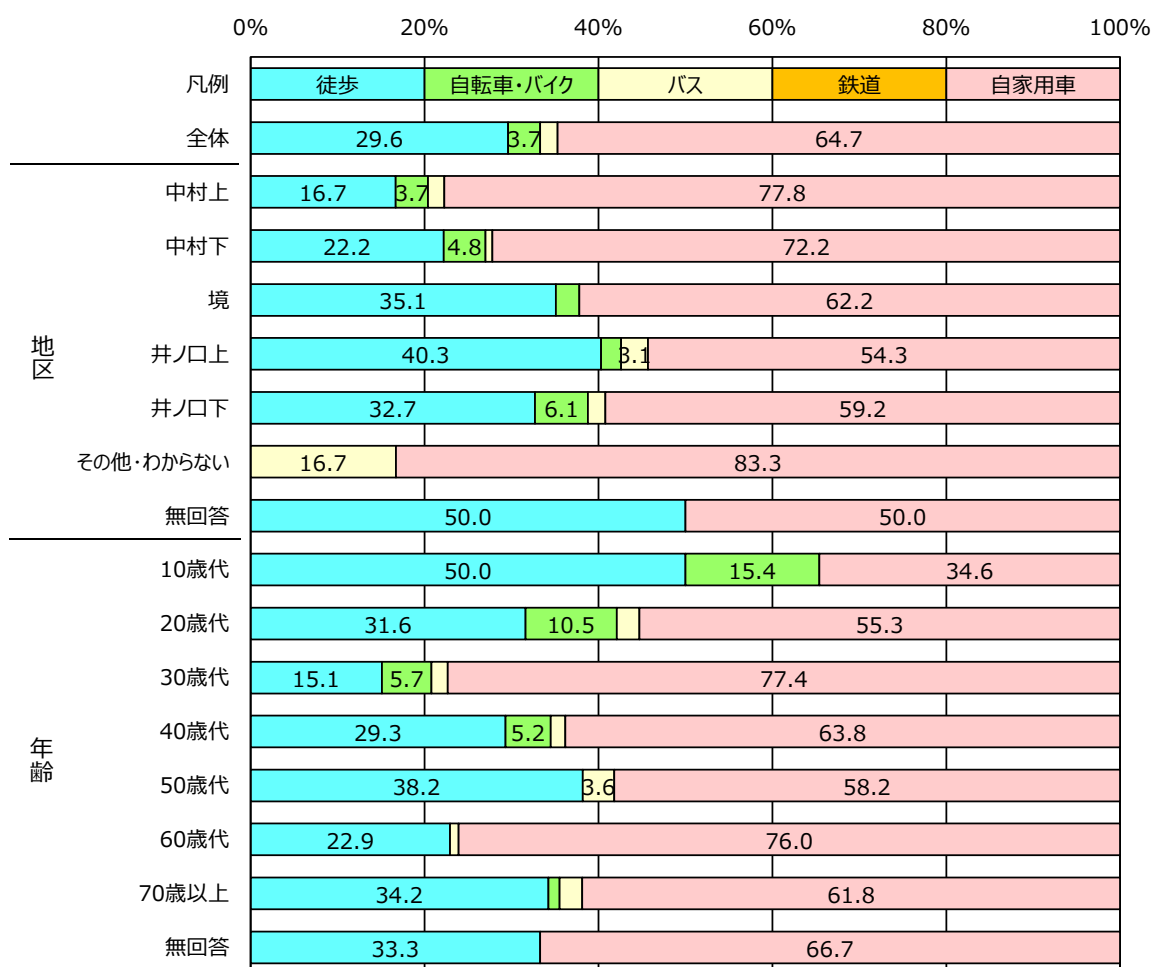


■コミュニティセンター、公民館＜交通手段＞

- 町全体では、「自家用車」が40.2%で最も多く、「徒歩」が18.4%、「自転車・バイク」が2.3%が続いています。
- 地区別にみると、中村上・中村下地区で「自家用車」の比率がやや高くなっている一方、境地区及び井ノ口上・井ノ口下地区では「徒歩」の比率が約30～40%と他の地区と比較して高くなっています。
- 年齢別にみると、いずれの年齢層も「自家用車」の比率が高くなっており、特に30歳代及び60歳代で70%を超えています。



【年齢・居住地区とのクロス集計(無回答を除く)】



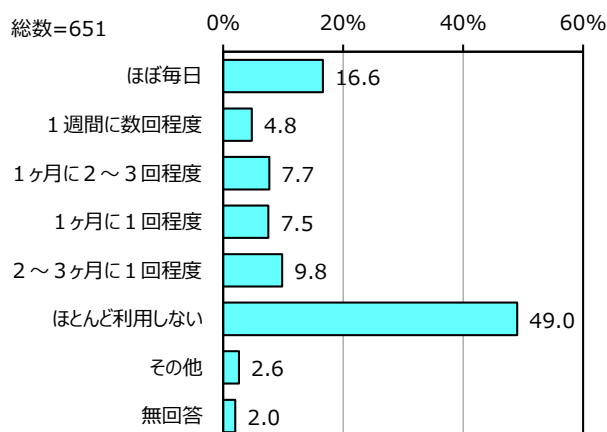
②公共交通の利用状況（問3）

<利用頻度>

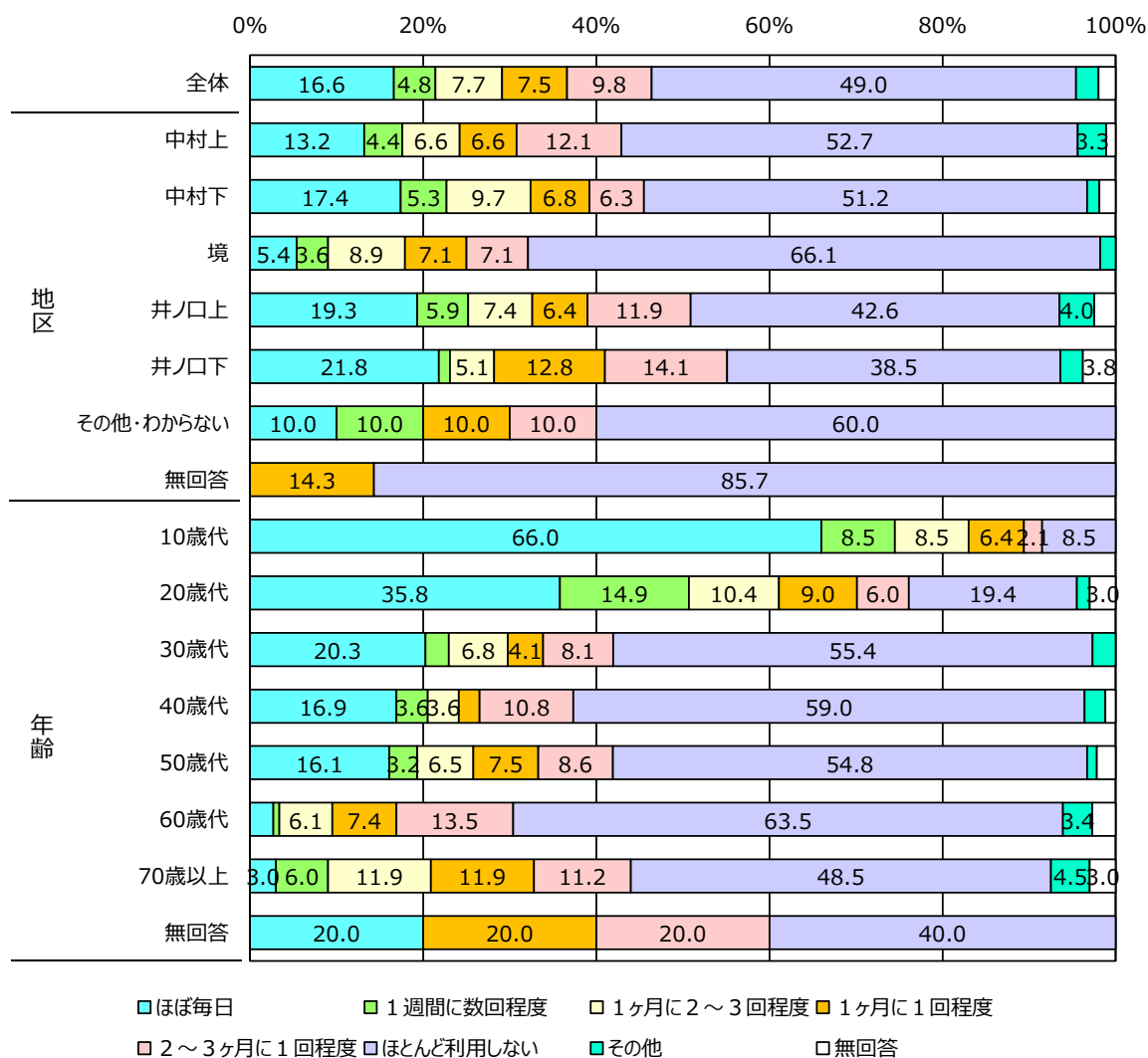
○ 町全体では「ほとんど利用しない」が49.0%で最も多く、「ほぼ毎日」が16.6%、「2～3ヶ月に1回程度」が9.8%で続いています。

○ 地区別にみると、中村上・中村下地区及び境地区で「ほとんど利用しない」が半数を超える一方、井ノ口上・井ノ口下地区では約20%が「ほぼ毎日」と回答しています。

○ 年齢別にみると、10歳代は66.0%、20歳代は35.8%が「ほぼ毎日」としているものの、60歳代までは年齢が高くなるにしたがって、利用頻度が低下する傾向がみられます。

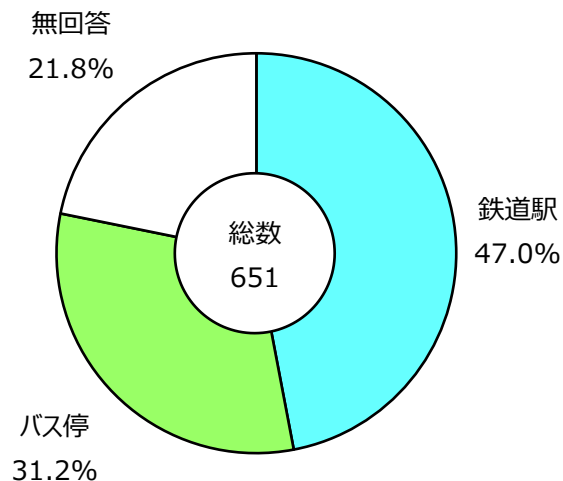


【年齢・居住地区とのクロス集計】

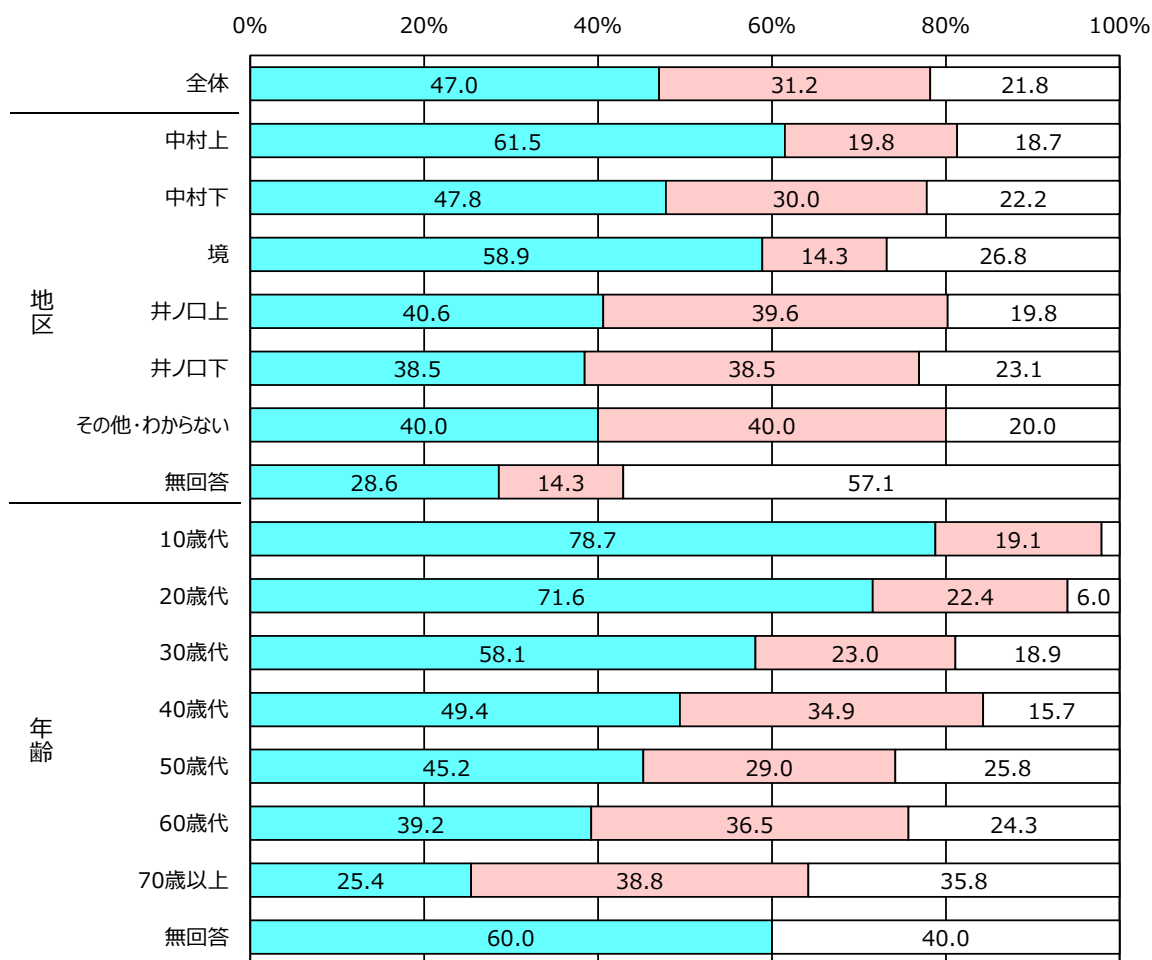


<主に利用する公共交通の乗り場>

- 町全体では「鉄道駅」が47.0%、「バス停」が31.2%となっています。
- 地区別にみると、中村上・中村下地区及び境地区で「鉄道駅」の比率が高く、井ノ口上・井ノ口下地区では「鉄道駅」と「バス停」の比率がほぼ同じとなっています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるほど「鉄道駅」の比率の低下と「バス停」の比率の上昇がみられ、70歳以上では、「鉄道駅」の比率を「バス停」が上回っています。



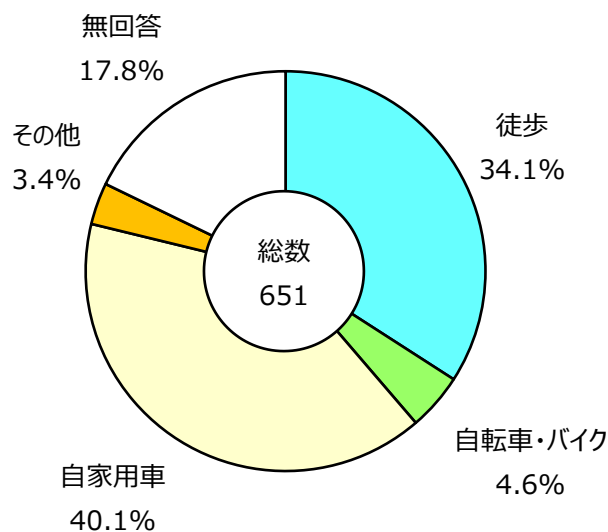
【年齢・居住地区とのクロス集計】



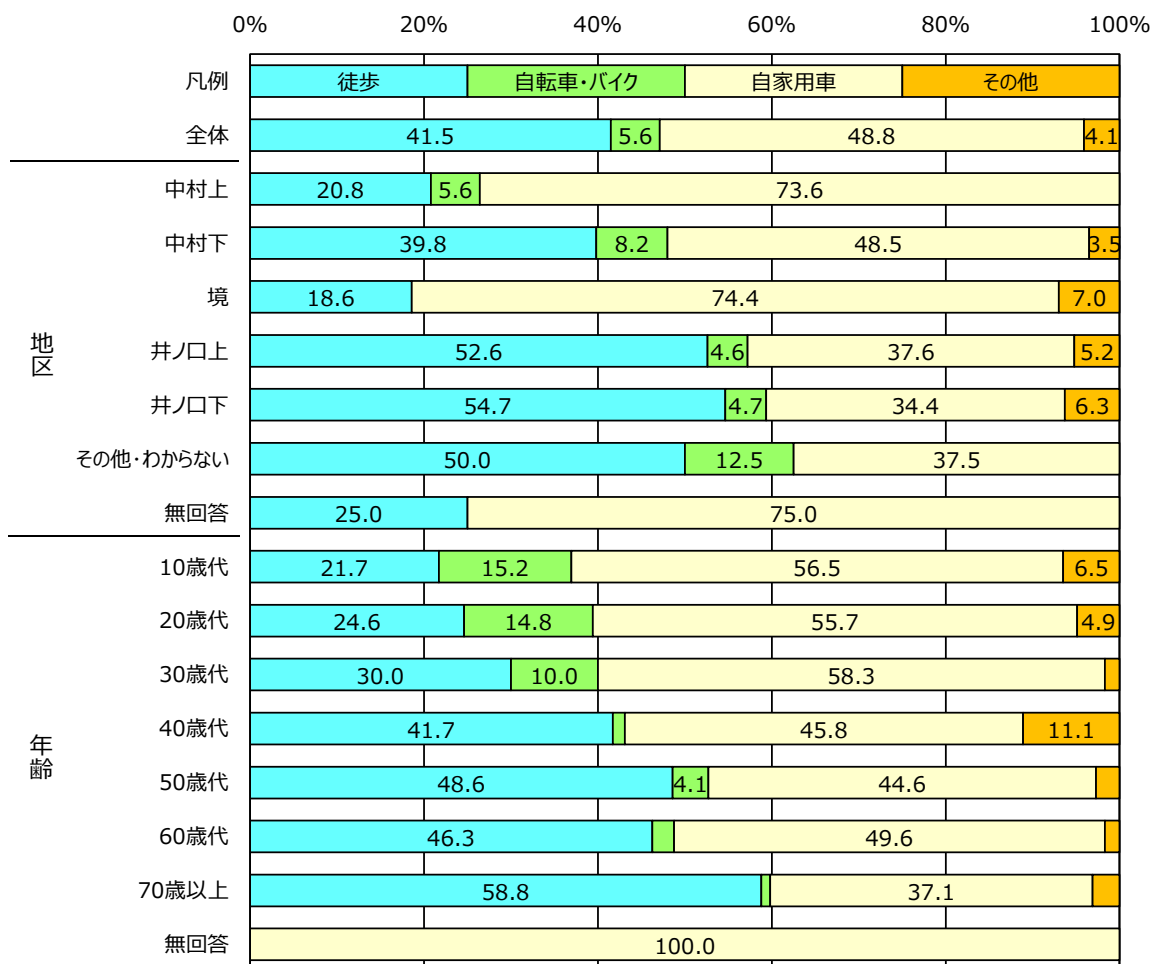
■ 鉄道駅 ■ バス停 □ 無回答

<主に利用する公共交通の乗り場までの移動手段>

- 町全体では「自家用車」が40.1%、「徒歩」が34.1%、「自転車・バイク」が4.6%となっています。
- 地区別にみると、中村上・中村下地区及び境地区では「自家用車」が、井ノ口上・井ノ口下地区では「徒歩」が概ね半数を超えています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるほど「徒歩」の比率が高くなる傾向にあります。



【年齢・居住地区とのクロス集計】

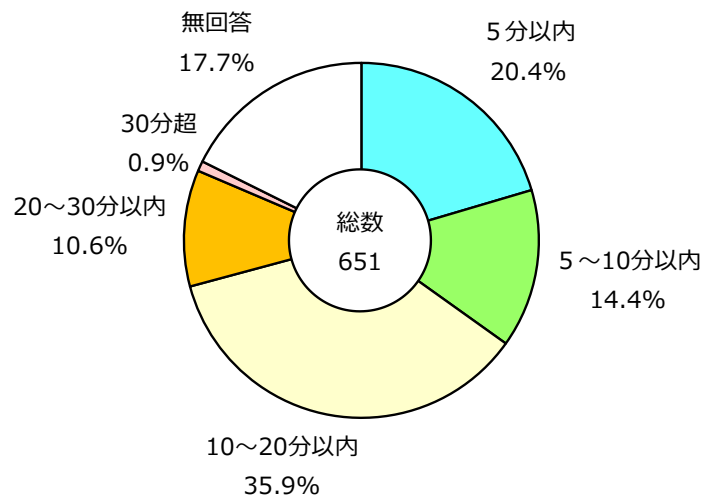


<主に利用する公共交通の乗り場までの所要時間>

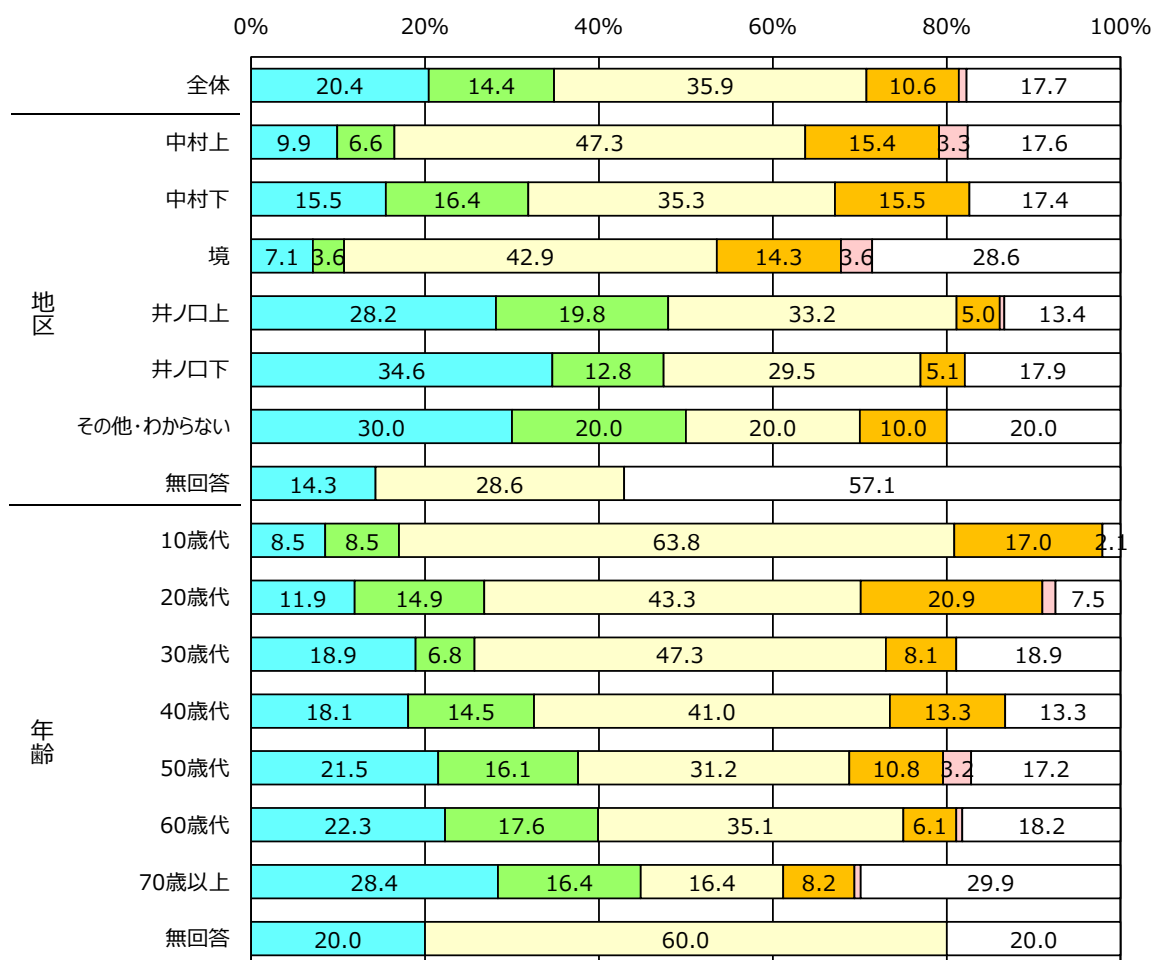
○ 町全体では「10～20分以内」が35.9%で最も多く、「5分以内」が20.4%、「5～10分以内」が14.4%で続いています。

○ 地区別にみると、最寄りの乗り場で「バス停」の比率が高かった井ノ口上・井ノ口下地区では「5分以内」、「鉄道」の比率が高かった中村上・中村下地区及び境地区では「10～20分以内」の比率が高くなっています。

○ 年齢別にみると、「鉄道駅」を利用する比率の高い、若い年齢層ほど所要時間が長くなり、「バス停」を利用する比率の高い、高い年齢層ほど所要時間が短くなる傾向がみられます。



【年齢・居住地区とのクロス集計】



■ 5分以内 ■ 5～10分以内 ■ 10～20分以内 ■ 20～30分以内 ■ 30分超 □ 無回答

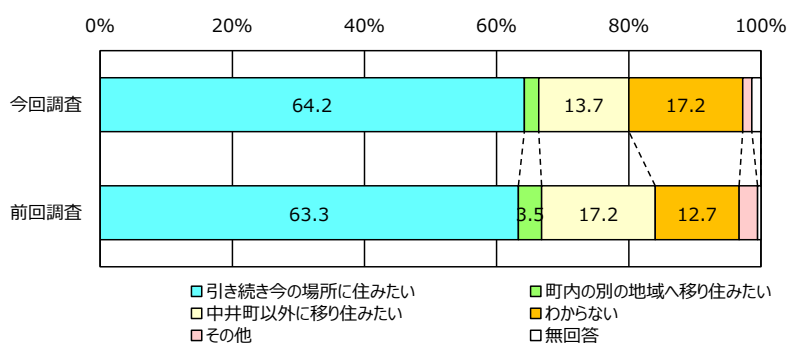
(2) 定住意向について

①定住意向（問4）

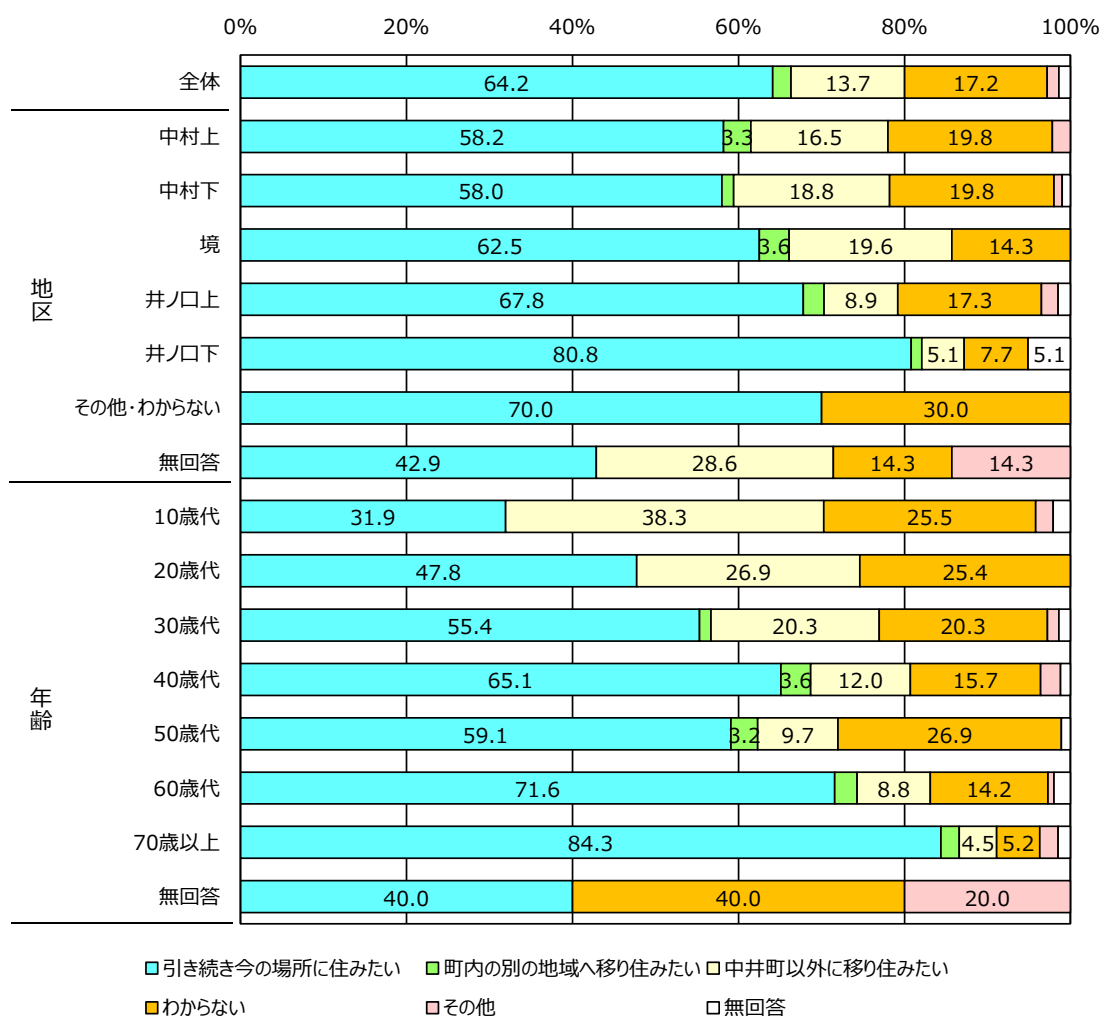
○ 「引き続き今の場所に住みたい」が64.2%で最も多く、「わからない」が17.2%、「中井町以外に移り住みたい」が13.7%、「町内の別の地域へ移り住みたい」が2.2%が続いています。また、前回調査結果と比較すると、「引き続き今の場所に住みたい」が約1ポイント増加し、「中井町以外に移り住みたい」が3.5ポイント低下するなど、定住意向が若干高まっています。

○ 地区別にみると、町全体と比較し、中村上・中村下地区及び境地区で「中井町以外に移り住みたい」の比率が高くなっています。

○ 年齢別にみると、年齢が高いほど「引き続き今の場所に住みたい」の比率が高くなる傾向がみられますが、10歳代は、「中井町以外に移り住みたい」の38.3%が、「引き続き今の場所に住みたい」の31.9%を上回っています。

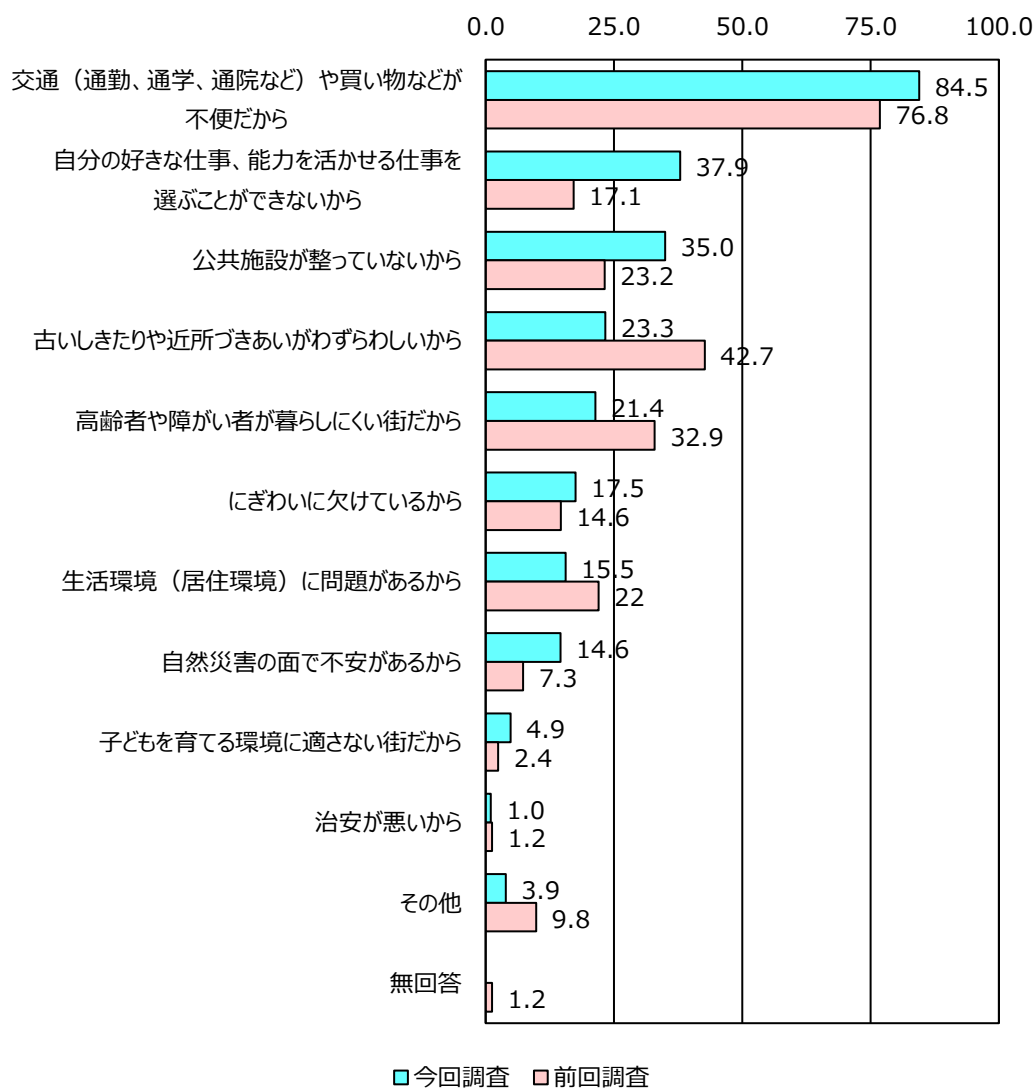


【年齢・居住地区とのクロス集計】



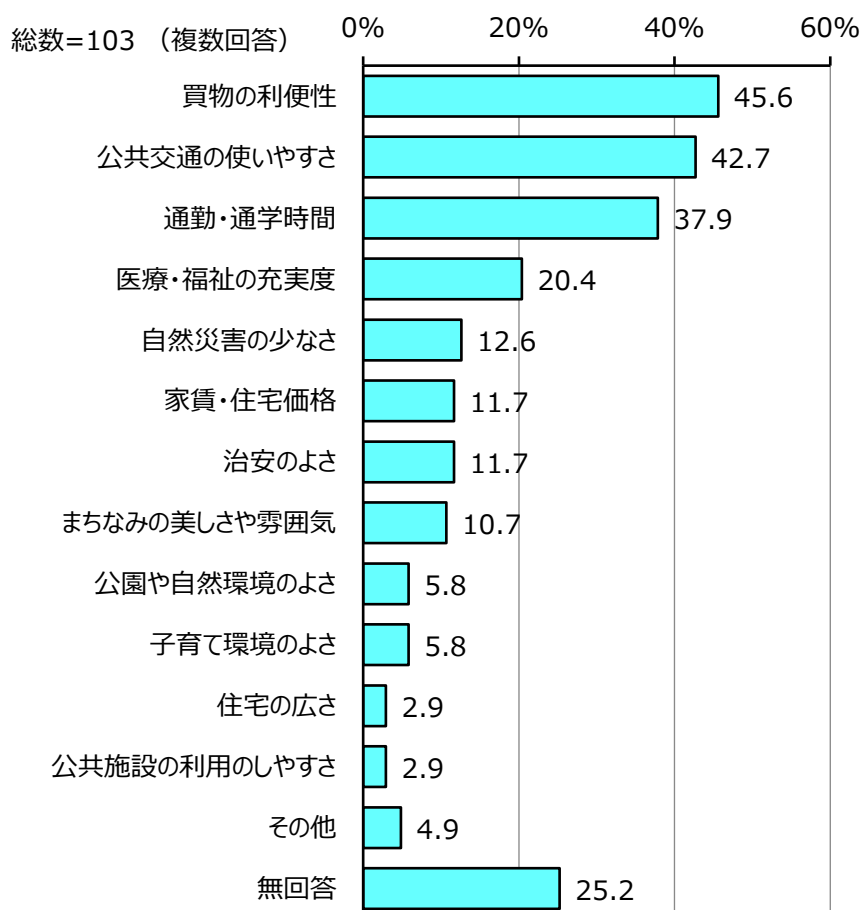
②移り住みたい理由（問5）

- 問4で「町内の別の地域へ移り住みたい」または「中井町以外に移り住みたい」と答えた方の理由は、「交通（通勤、通学、通院など）や買い物などが不便だから」が84.5%で最も多く、「自分の好きな仕事、能力を活かせる仕事を選ぶことができないから」が37.9%、「公共施設が整っていないから」が35.0%、「古いしきたりや近所づきあいがわずらわしいから」が23.3%が続いています。
- 前回調査結果と比較すると、「古いしきたりや近所づきあいがわずらわしいから」、「高齢者や障がい者が暮らしにくい街だから」、「生活環境（居住環境）に問題があるから」、「治安が悪いから」の比率が低下しています。一方で、「自分の好きな仕事、能力を活かせる仕事を選ぶことができないから」、「公共施設が整っていないから」、「自然災害の面で不安があるから」などの比率が上昇しています。



③移り住みたい場所を選ぶ際に重視する条件（問6）

○ 問4で「町内の別の地域へ移り住みたい」または「中井町以外に移り住みたい」と答えた方が移り住みたい場所を選ぶ際に重視する条件は、「買物の利便性」が45.6%で最も多く、「公共交通の使いやすさ」が42.7%、「通勤・通学時間」が37.9%、「医療・福祉の充実度」が20.4%が続いています。



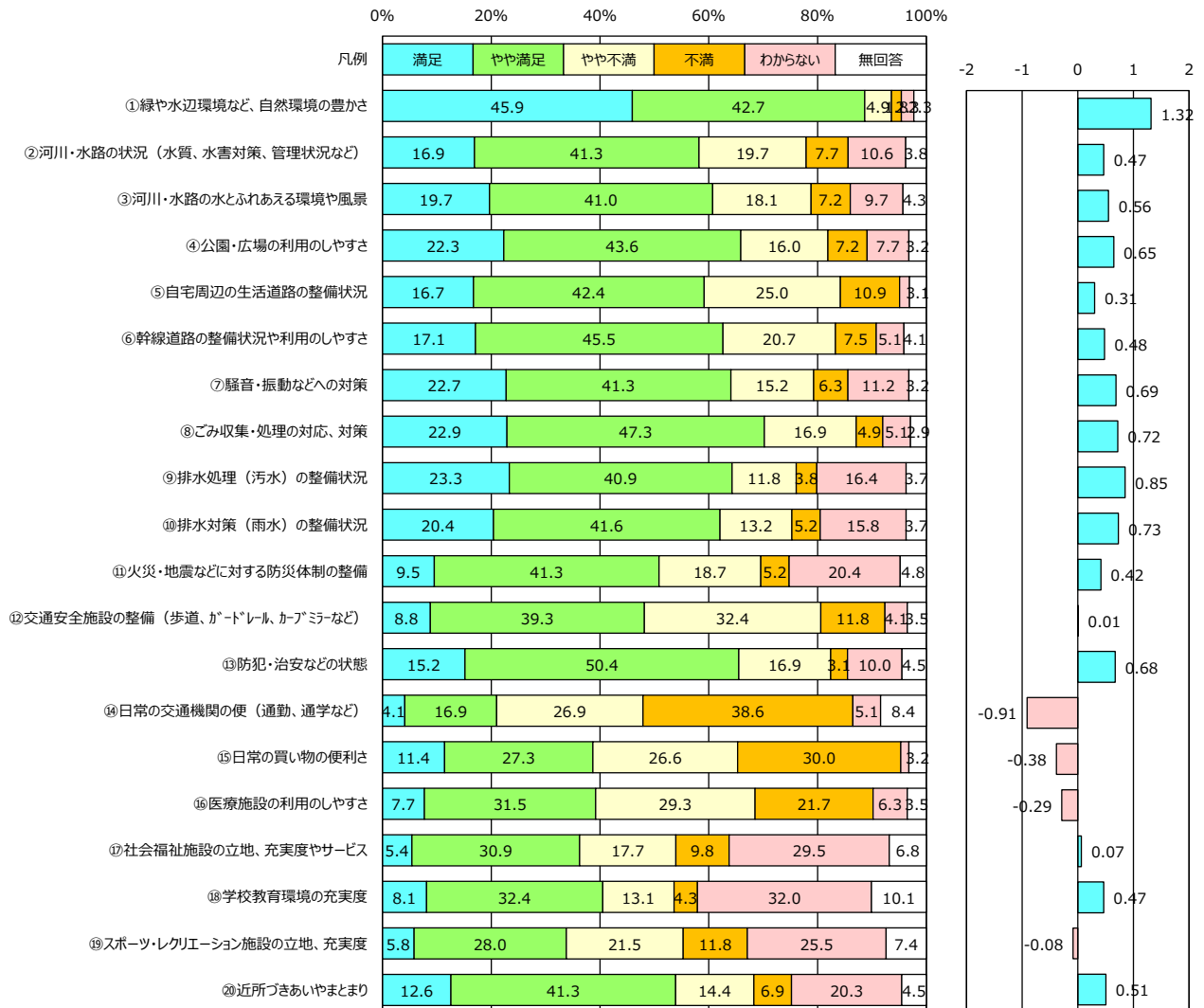
(3) 生活環境について

①生活環境の満足度・重要度（問7）

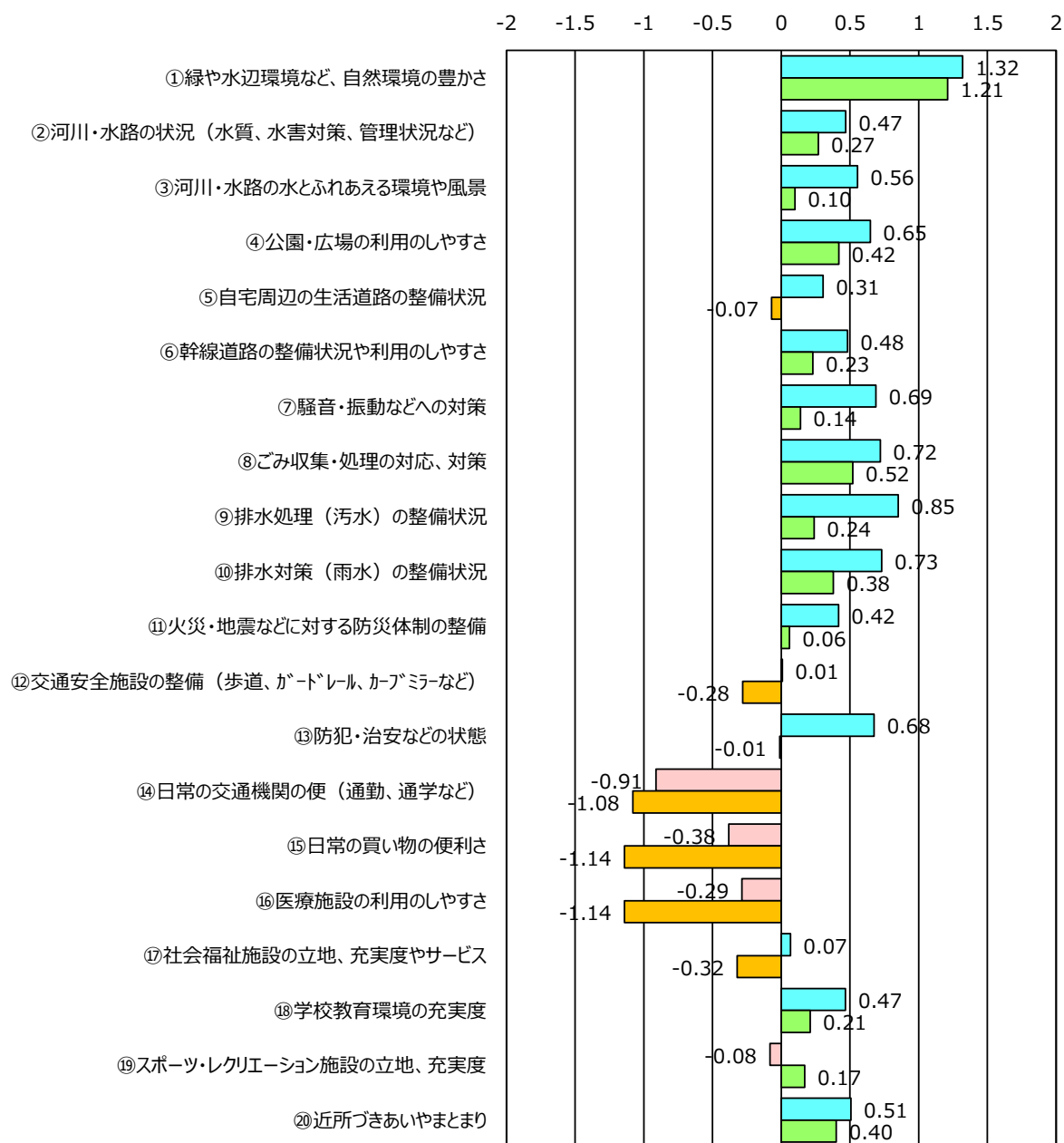
■町全体

<満足度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する現状の満足度を町全体でみると、「①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ（1.320）」、「⑨排水処理（污水）の整備状況（0.852）」、「⑩排水対策（雨水）の整備状況（0.731）」、「⑧ごみ収集・処理の対応、対策（0.721）」、「⑦騒音・振動などへの対策（0.689）」の順で高くなっています。
- 満足度の評価点を低い順にみると、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）（-0.911）」、「⑮日常の買い物の便利さ（-0.382）」、「⑯医療施設の利用のしやすさ（-0.286）」、「⑰スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（-0.082）」、「⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）（0.008）」の順となっています。



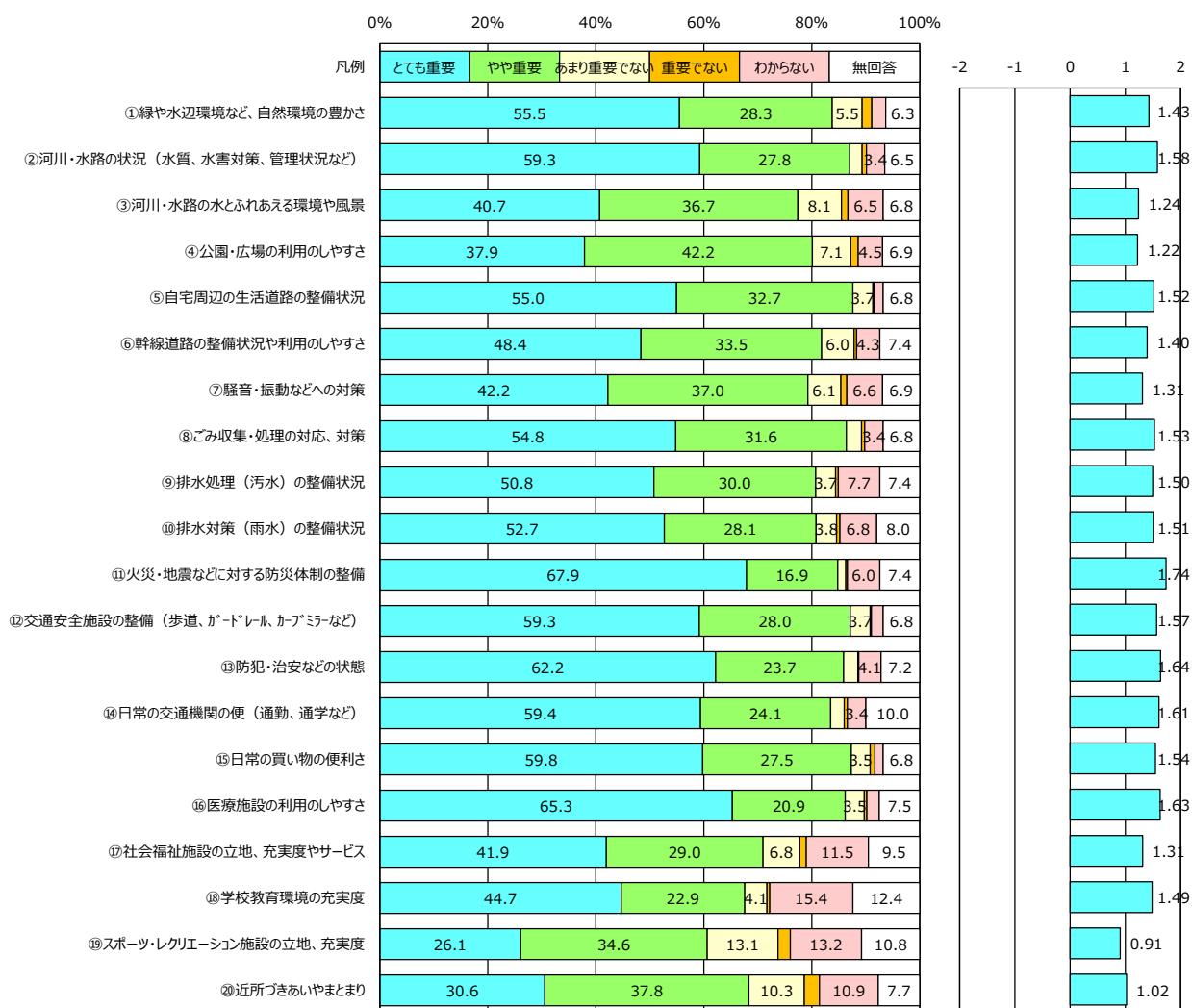
- 前回調査の評価点と比較すると、全体的に満足度は高まっており、特に、「⑩医療施設の利用のしやすさ (0.854ポイント増)」、「⑭日常の買い物の便利さ (0.758ポイント増)」、「⑬防犯・治安などの状態 (0.685ポイント増)」で評価点が上昇しています。
- 一方、「⑩スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度」は前回調査の0.170から今回調査では-0.082へとマイナス評価に転じています。



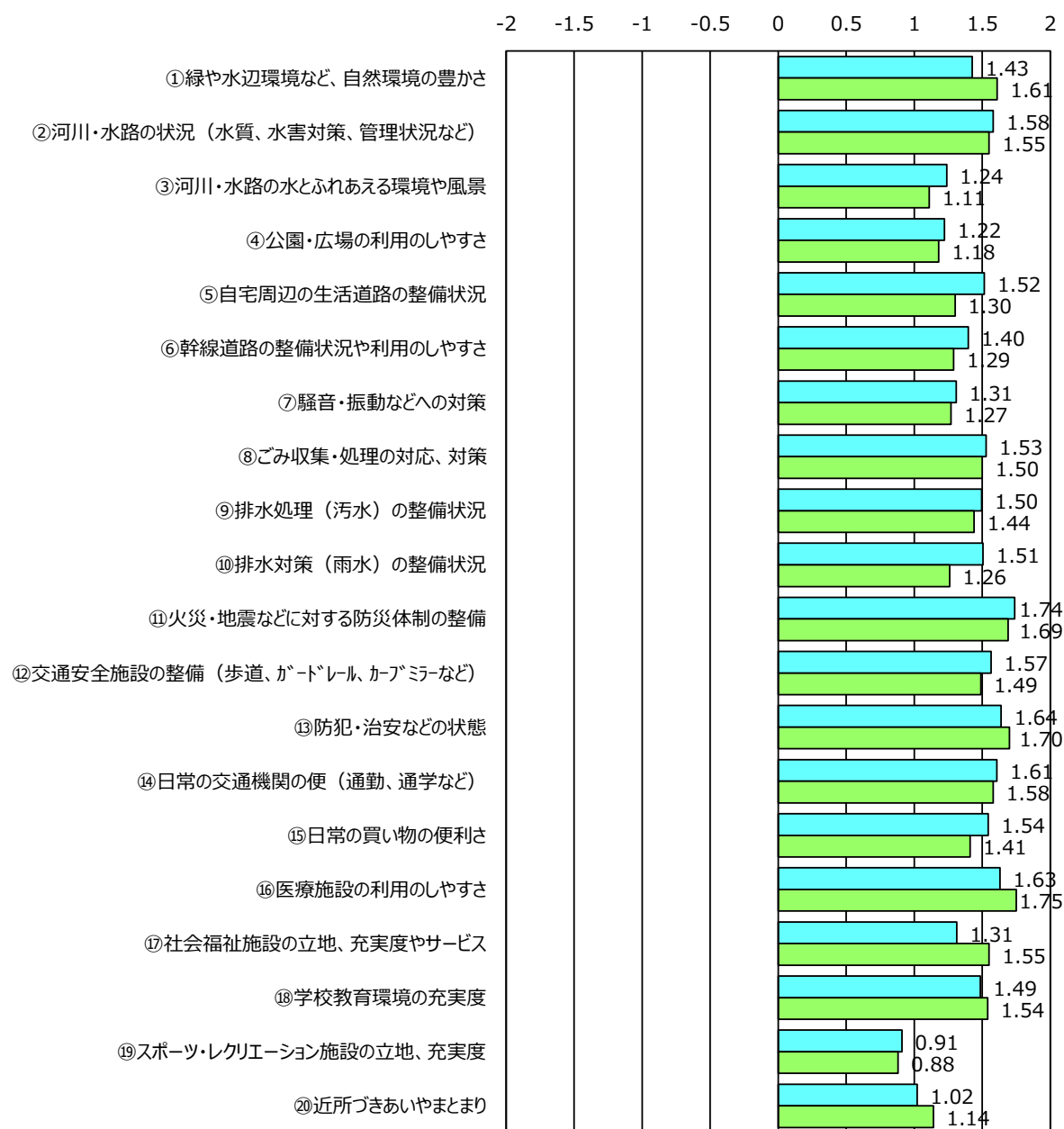
今回調査 : ■ プラス評価 ■ マイナス評価
 前回調査 : ■ プラス評価 ■ マイナス評価

<重要度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する今後の重要度を町全体でみると、「⑪火災・地震」などに対する防災体制の整備（1.738）、「⑬防犯・治安などの状態（1.638）」、「⑯医療施設の利用のしやすさ（1.630）」、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）（1.608）」、「②河川・水路の状況（水質、水害対策、管理状況など）（1.581）」の順で高くなっています。
- 重要度の評価点を低い順にみると、「⑲スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（0.909）」、「⑳近所づきあいやまとまり（1.021）」、「④公園・広場の利用のしやすさ（1.222）」、「③河川・水路の水とふれあえる環境や風景（1.239）」、「⑦騒音・振動などへの対策（1.309）」の順となっています。



- 前回調査の評価点と比較すると、「⑩排水対策（雨水）の整備状況（0.246ポイント増）」、「⑤自宅周辺の生活道路の整備状況（0.215ポイント増）」、「⑮日常の買い物の便利さ（0.134ポイント増）」などで重要度の評価点が上昇しています。
- 一方、「⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス（0.237ポイント減）」、「①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ（0.183ポイント減）」、「⑯医療施設の利用のしやすさ（0.120ポイント減）」などは前回調査から重要度の評価点が低下しています。

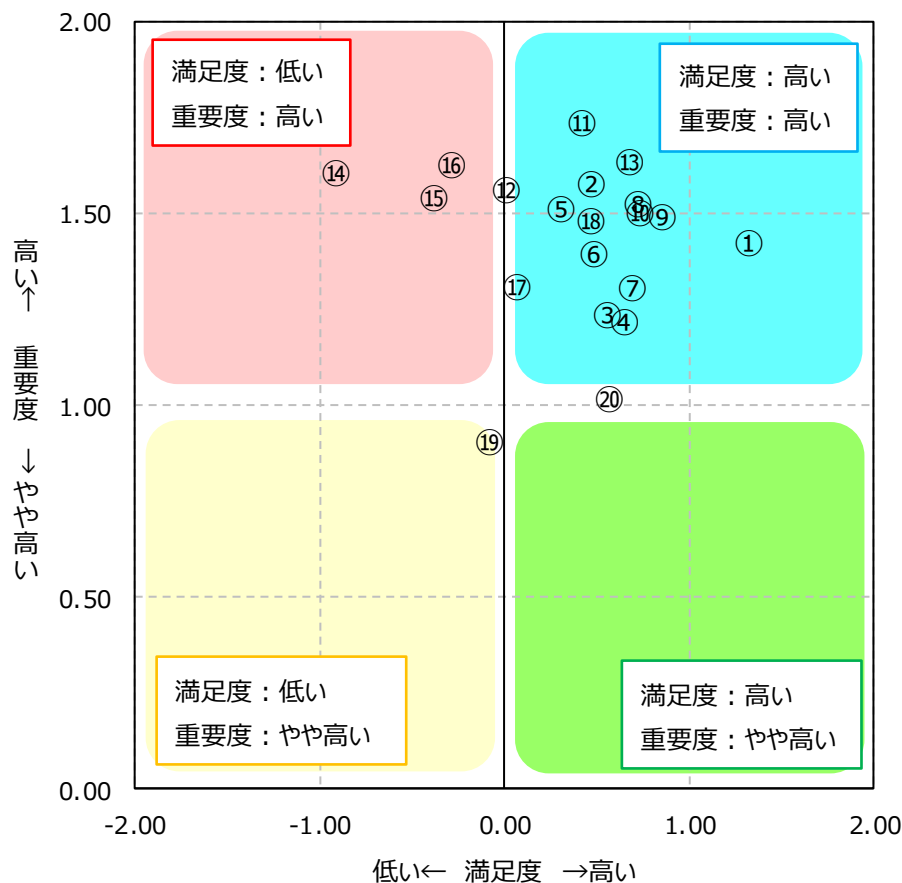


今回調査： ■ プラス評価 ■ マイナス評価

前回調査： ■ プラス評価 ■ マイナス評価

<取組の優先性>

- 満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い環境要素は、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）」、「⑮日常の買い物の便利さ」、「⑯医療施設の利用のしやすさ」となっており、満足度を高めるため、重点的な取り組みが求められる事項と位置づけられます。



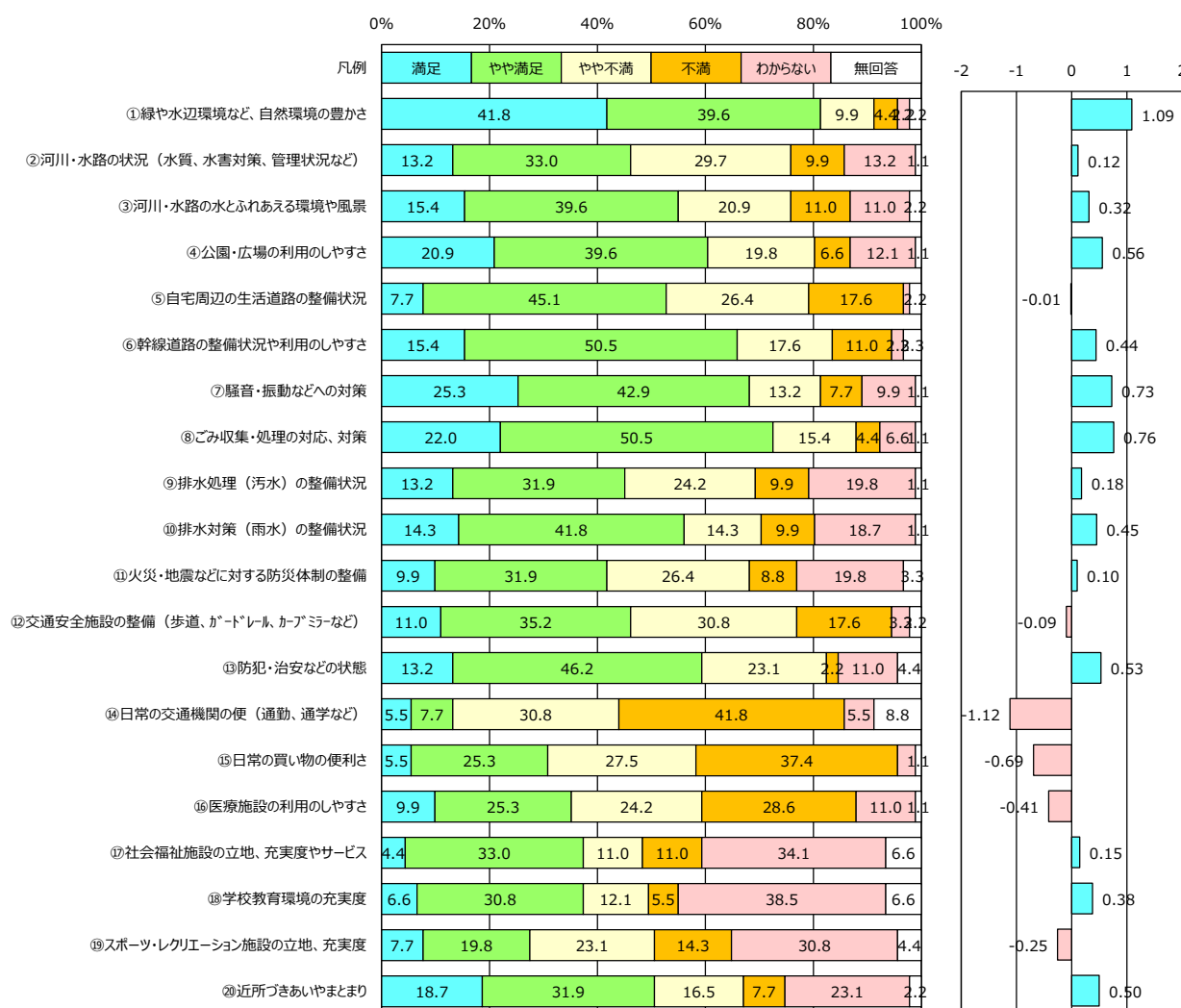
- ①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ
- ③河川・水路の水とふれあえる環境や風景
- ⑤自宅周辺の生活道路の整備状況
- ⑦騒音・振動などへの対策
- ⑨排水処理（污水）の整備状況
- ⑪火災・地震などに対する防災体制の整備
- ⑬防犯・治安などの状態
- ⑮日常の買い物の便利さ
- ⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス
- ⑲スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度

- ②河川・水路の状況（水質、水害対策、管理状況など）
- ④公園・広場の利用のしやすさ
- ⑥幹線道路の整備状況や利用のしやすさ
- ⑧ごみ収集・処理の対応、対策
- ⑩排水対策（雨水）の整備状況
- ⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）
- ⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）
- ⑯医療施設の利用のしやすさ
- ⑰学校教育環境の充実度
- ⑲近所づきあいやまとまり

■中村上地区

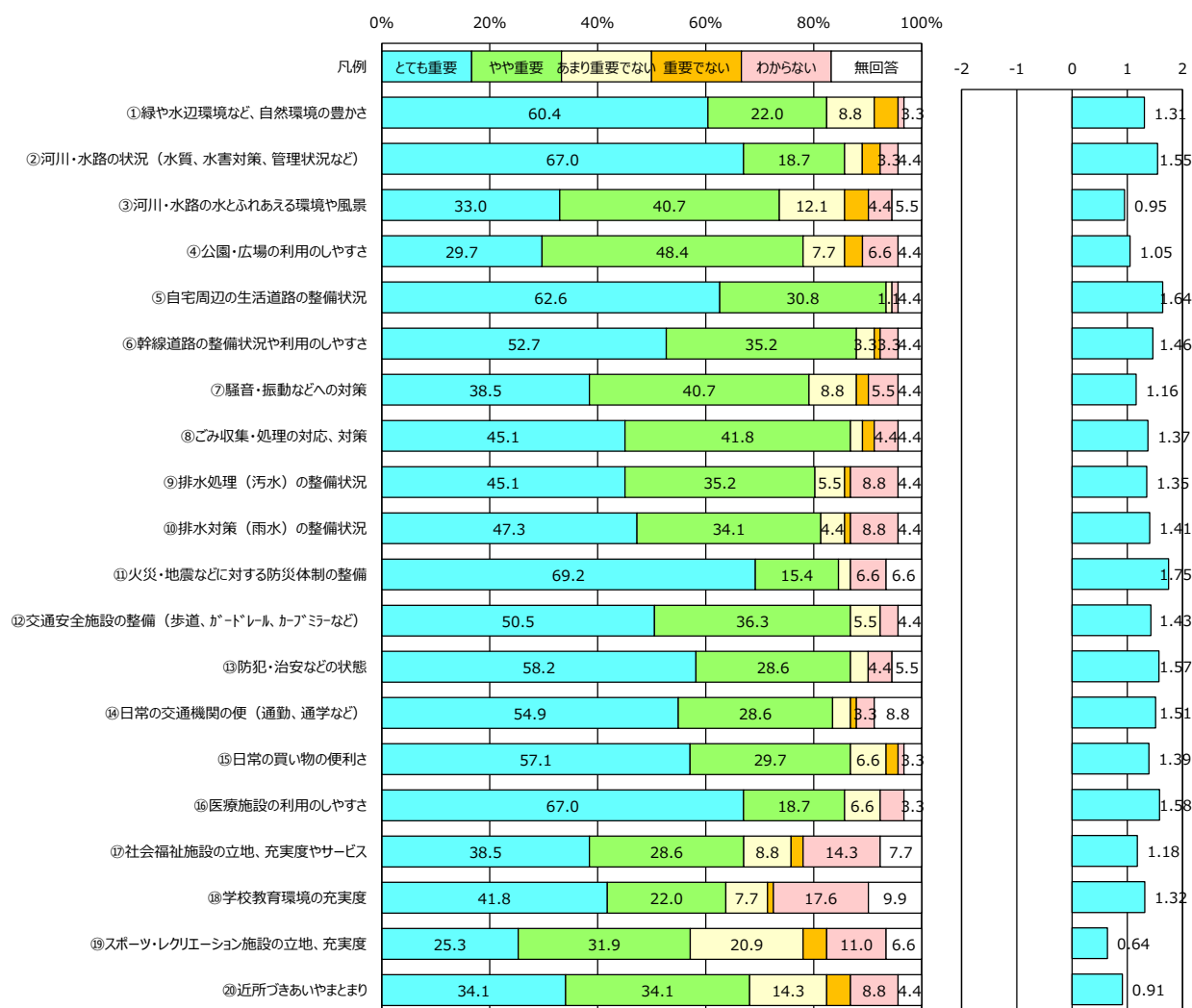
<満足度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する現状の満足度を中村上地区でみると、「①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ(1.092)」、「⑧ごみ収集・処理の対応、対策(0.762)」、「⑦騒音・振動などへの対策(0.728)」、「④公園・広場の利用のしやすさ(0.557)」、「⑬防犯・治安などの状態(0.532)」の順で高くなっています。
- 満足度の評価点を低い順にみると、「⑭日常の交通機関の便(通勤、通学など)(-1.115)」、「⑮日常の買い物の便利さ(-0.690)」、「⑯医療施設の利用のしやすさ(-0.413)」、「⑰スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度(-0.254)」、「⑫交通安全施設の整備(歩道、ガードレール、カーブミラーなど)(-0.093)」の順となっています。



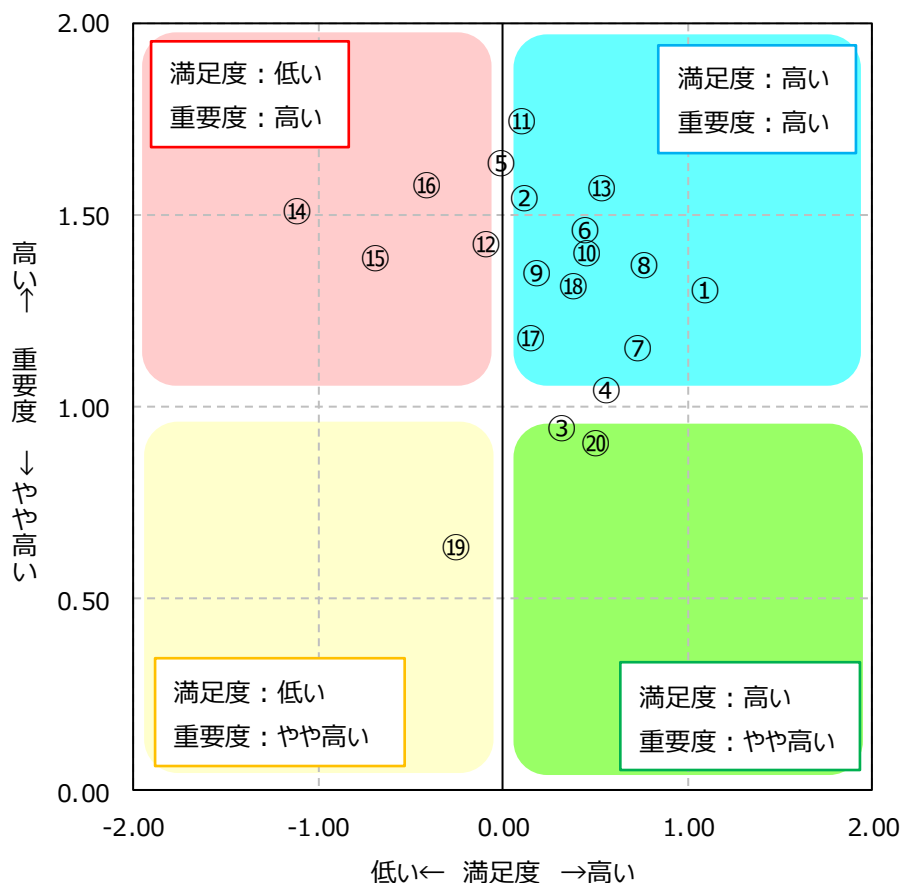
<重要度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する今後の重要度を中村上地区でみると、「⑪火災・地震などに対する防災体制の整備（1.747）」、「⑤自宅周辺の生活道路の整備状況（1.640）」、「⑩医療施設の利用のしやすさ（1.583）」、「⑬防犯・治安などの状態（1.573）」、「②河川・水路の状況（水質、水害対策、管理状況など）（1.548）」の順で高くなっています。
- 重要度の評価点を低い順にみると、「⑨スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（0.640）」、「②近所づきあいやまとまり（0.911）」、「③河川・水路の水とふれあえる環境や風景（0.951）」、「④公園・広場の利用のしやすさ（1.049）」、「⑦騒音・振動などへの対策（1.159）」の順となっています。



<取組の優先性>

- 満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い環境要素は、「⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）」、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）」、「⑮日常の買い物の便利さ」、「⑯医療施設の利用のしやすさ」となっており、満足度を高めるため、重点的な取り組みが求められる事項と位置づけられます。



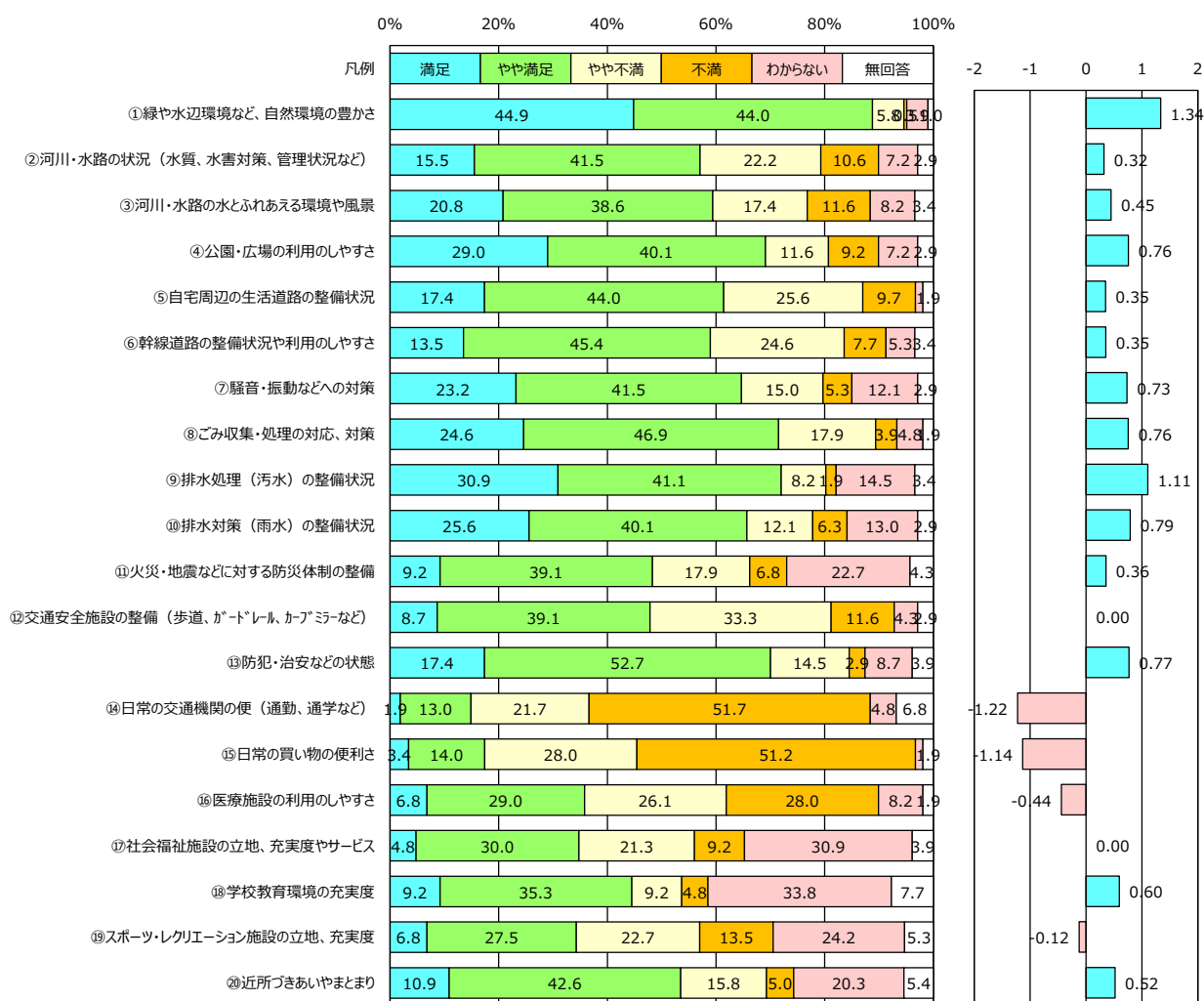
- ①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ
- ③河川・水路の水とふれあえる環境や風景
- ⑤自宅周辺の生活道路の整備状況
- ⑦騒音・振動などへの対策
- ⑨排水処理（污水）の整備状況
- ⑪火災・地震などに対する防災体制の整備
- ⑬防犯・治安などの状態
- ⑮日常の買い物の便利さ
- ⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス
- ⑲スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度

- ②河川・水路の状況（水質、水害対策、管理状況など）
- ④公園・広場の利用のしやすさ
- ⑥幹線道路の整備状況や利用のしやすさ
- ⑧ごみ収集・処理の対応、対策
- ⑩排水対策（雨水）の整備状況
- ⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）
- ⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）
- ⑯医療施設の利用のしやすさ
- ⑰学校教育環境の充実度
- ⑲近所づきあいやまとまり

■中村下地区

<満足度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する現状の満足度を中村下地区でみると、「①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ（1.335）」、「⑨排水処理（污水）の整備状況（1.106）」、「⑩排水対策（雨水）の整備状況（0.793）」、「⑬防犯・治安などの状態（0.768）」、「④公園・広場の利用のしやすさ（0.758）」の順で高くなっています。
- 満足度の評価点を低い順にみると、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）（-1.224）」、「⑮日常の買い物の便利さ（-1.135）」、「⑯医療施設の利用のしやすさ（-0.441）」、「⑰スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（-0.123）」、「⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）（0.000）」及び「⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス（0.000）」の順となっています。



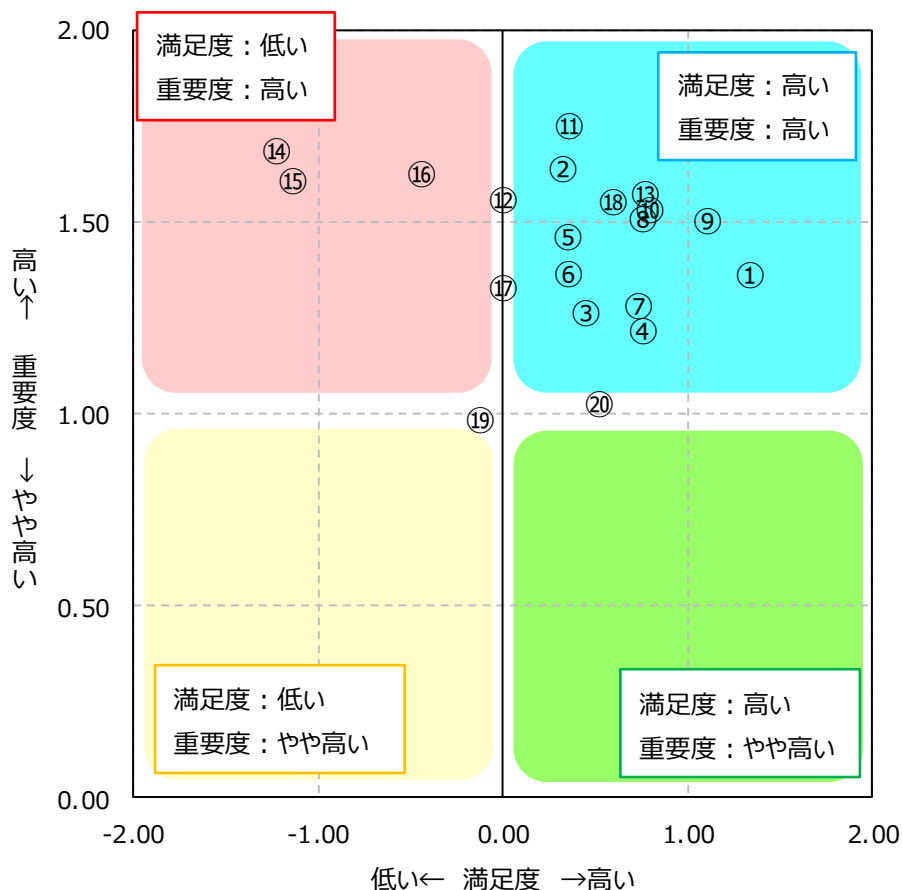
<重要度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する今後の重要度を中村下地区でみると、「⑪火災・地震などに対する防災体制の整備（1.753）」、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）（1.687）」、「②河川・水路の状況（水質、水害対策、管理状況など）（1.642）」、「⑩医療施設の利用のしやすさ（1.628）」、「⑮日常の買い物の便利さ（1.611）」の順で高くなっています。
- 重要度の評価点を低い順にみると、「⑲スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（0.988）」、「⑳近所づきあいやまとまり（1.030）」、「④公園・広場の利用のしやすさ（1.220）」、「③河川・水路の水とふれあえる環境や風景（1.268）」、「⑦騒音・振動などへの対策（1.285）」の順となっています。



<取組の優先性>

- 満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い環境要素は、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）」、「⑮日常の買い物の便利さ」、「⑯医療施設の利用のしやすさ」となっており、満足度を高めるため、重点的な取り組みが求められる事項と位置づけられます。



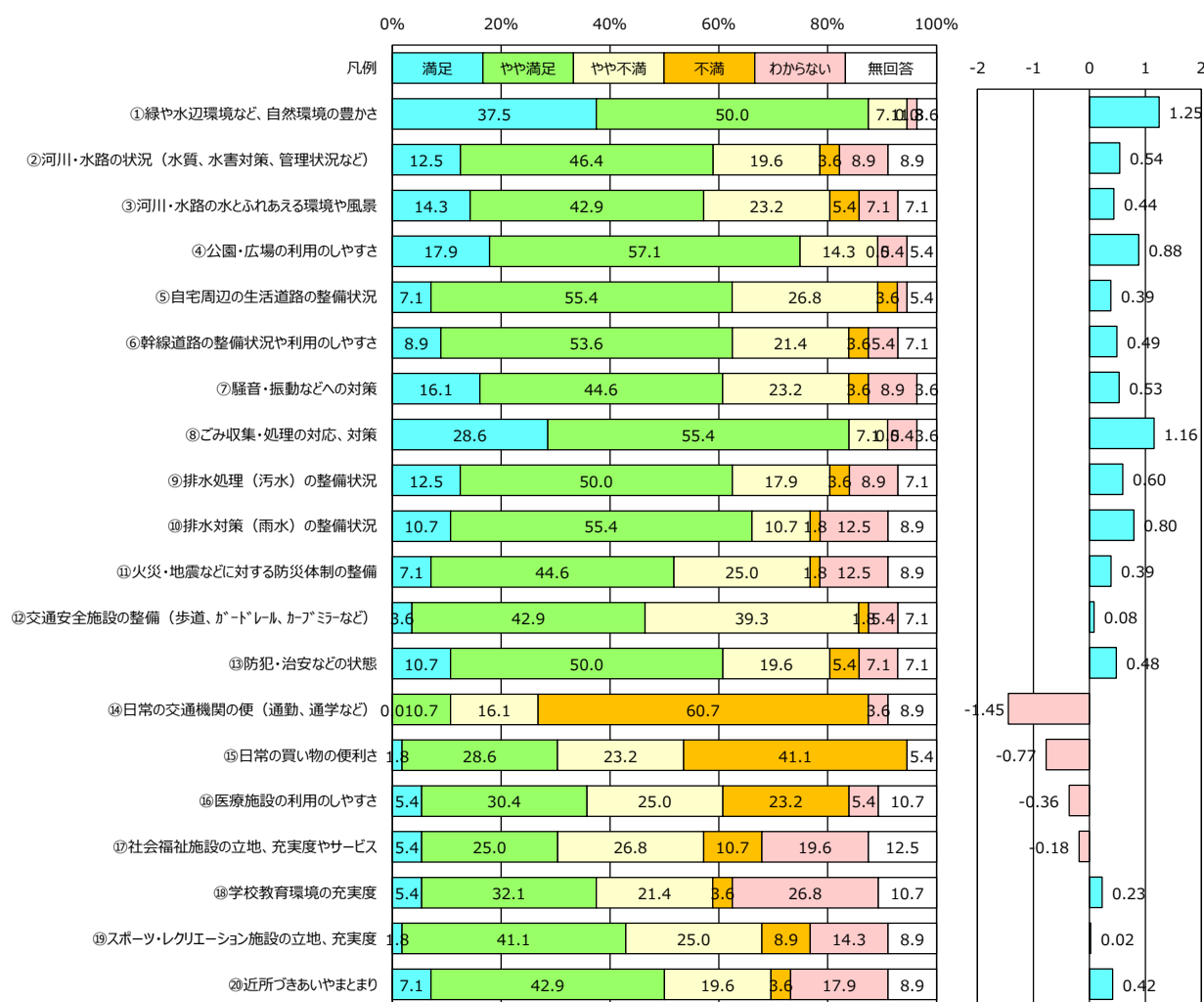
- ①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ
- ③河川・水路の水とふれあえる環境や風景
- ⑤自宅周辺の生活道路の整備状況
- ⑦騒音・振動などへの対策
- ⑨排水処理（污水）の整備状況
- ⑪火災・地震などに対する防災体制の整備
- ⑬防犯・治安などの状態
- ⑮日常の買い物の便利さ
- ⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス
- ⑲スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度

- ②河川・水路の状況（水質、水害対策、管理状況など）
- ④公園・広場の利用のしやすさ
- ⑥幹線道路の整備状況や利用のしやすさ
- ⑧ごみ収集・処理の対応、対策
- ⑩排水対策（雨水）の整備状況
- ⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）
- ⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）
- ⑯医療施設の利用のしやすさ
- ⑰学校教育環境の充実度
- ⑲近所づきあいやまとまり

■境地区

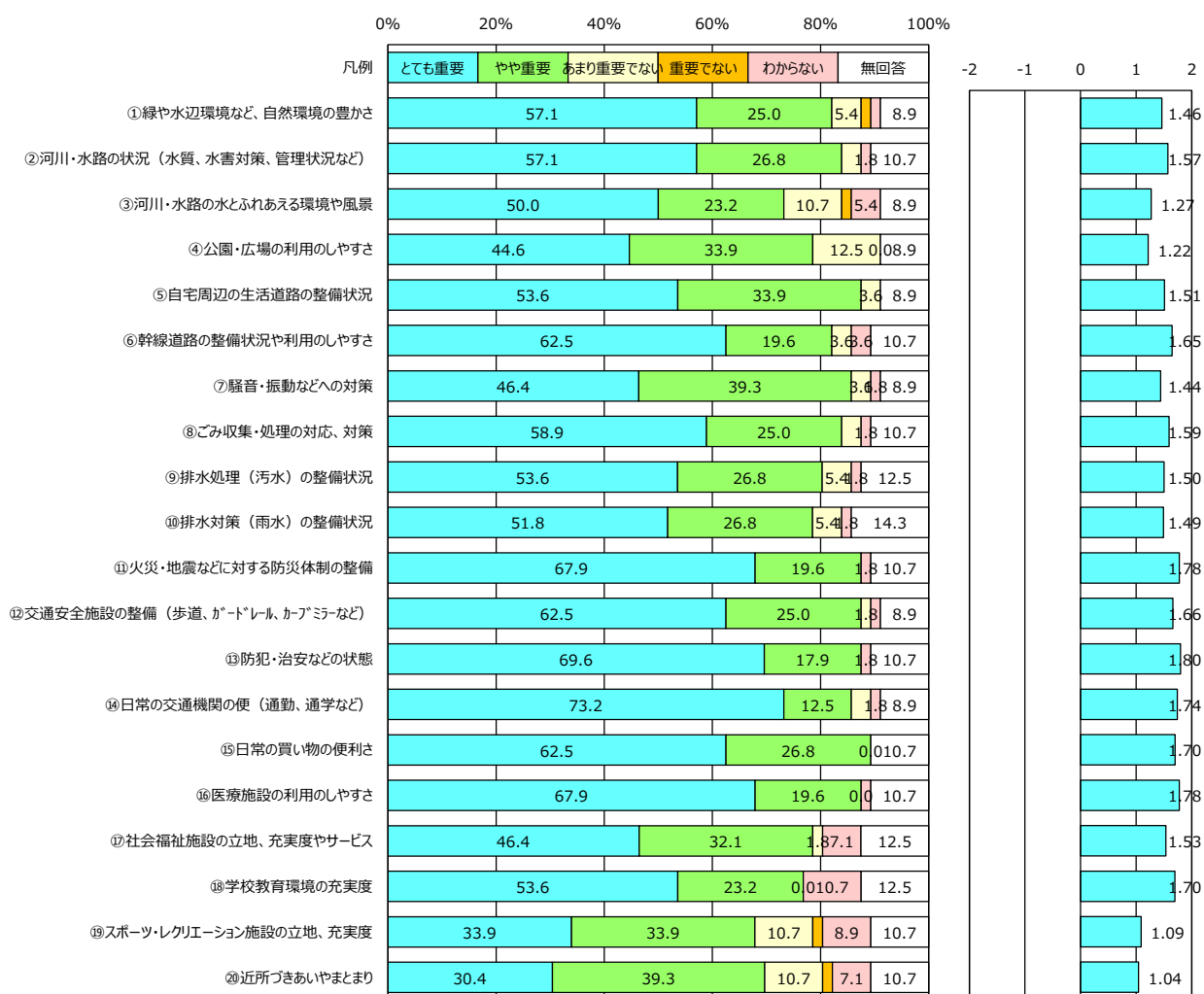
<満足度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する現状の満足度を境地区でみると、「①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ（1.245）」、「⑧ごみ収集・処理の対応、対策（1.157）」、「④公園・広場の利用のしやすさ（0.880）」、「⑩排水処理（雨水）の整備状況（0.795）」、「⑨排水対策（污水）の整備状況（0.596）」の順で高くなっています。
- 満足度の評価点を低い順にみると、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）（-1.449）」、「⑮日常の買い物の便利さ（-0.774）」、「⑯医療施設の利用のしやすさ（-0.362）」、「⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス（-0.184）」、「⑱スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（0.023）」の順となっています。



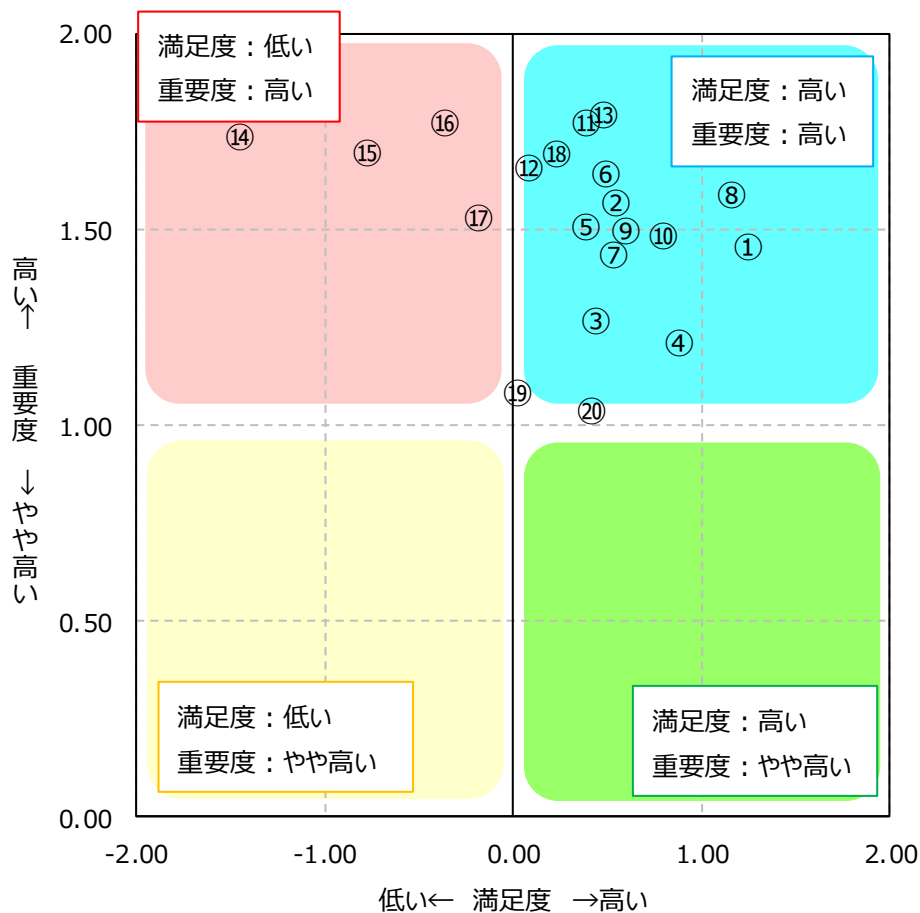
<重要度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する今後の重要度を境地区でみると、「⑬防犯・治安などの状態（1.796）」、「⑪火災・地震などに対する防災体制の整備（1.776）」及び「⑩医療施設の利用のしやすさ（1.776）」、「⑮日常の交通機関の便（通勤、通学など）（1.740）」、「⑮日常の買い物の便利さ（1.700）」の順で高くなっています。
- 重要度の評価点を低い順にみると、「㉑近所づきあいやまとまり（1.043）」、「⑲スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（1.089）」、「④公園・広場の利用のしやすさ（1.216）」、「③河川・水路の水とふれあえる環境や風景（1.271）」、「⑦騒音・振動などへの対策（1.440）」の順となっています。



<取組の優先性>

- 満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い環境要素は、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）」、「⑮日常の買い物の便利さ」、「⑯医療施設の利用のしやすさ」、「⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス」となっており、満足度を高めるため、重点的な取り組みが求められる事項と位置づけられます。



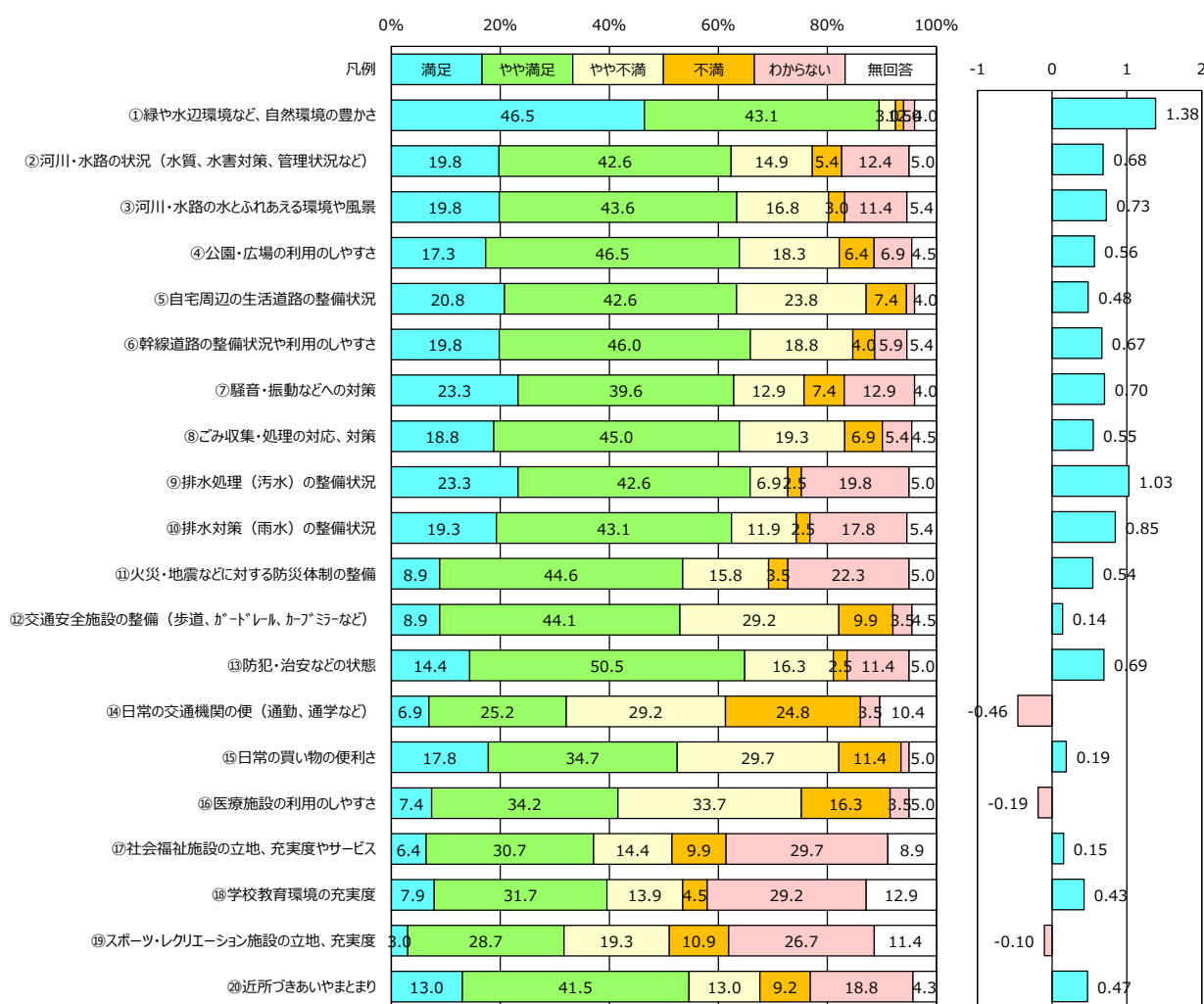
- ①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ
- ③河川・水路の水とふれあえる環境や風景
- ⑤自宅周辺の生活道路の整備状況
- ⑦騒音・振動などへの対策
- ⑨排水処理（污水）の整備状況
- ⑪火災・地震などに対する防災体制の整備
- ⑬防犯・治安などの状態
- ⑮日常の買い物の便利さ
- ⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス
- ⑲スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度

- ②河川・水路の状況（水質、水害対策、管理状況など）
- ④公園・広場の利用のしやすさ
- ⑥幹線道路の整備状況や利用のしやすさ
- ⑧ごみ収集・処理の対応、対策
- ⑩排水対策（雨水）の整備状況
- ⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）
- ⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）
- ⑯医療施設の利用のしやすさ
- ⑰学校教育環境の充実度
- ⑲近所づきあいやまとまり

■井ノ口上地区

<満足度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する現状の満足度を井ノ口上地区でみると、「①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ (1.384)」、「⑨排水対策 (污水) の整備状況 (1.026)」、「⑩排水処理 (雨水) の整備状況 (0.845)」、「③河川・水路の水とふれあえる環境や風景 (0.726)」、「⑦騒音・振動などへの対策 (0.702)」の順で高くなっています。
- 満足度の評価点を低い順にみると、「⑭日常の交通機関の便 (通勤、通学など) (-0.460)」、「⑯医療施設の利用のしやすさ (-0.189)」、「⑰スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度 (-0.104)」、「⑫交通安全施設の整備 (歩道、ガードレール、カーブミラーなど) (0.140)」、「⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス (0.153)」の順となっています。



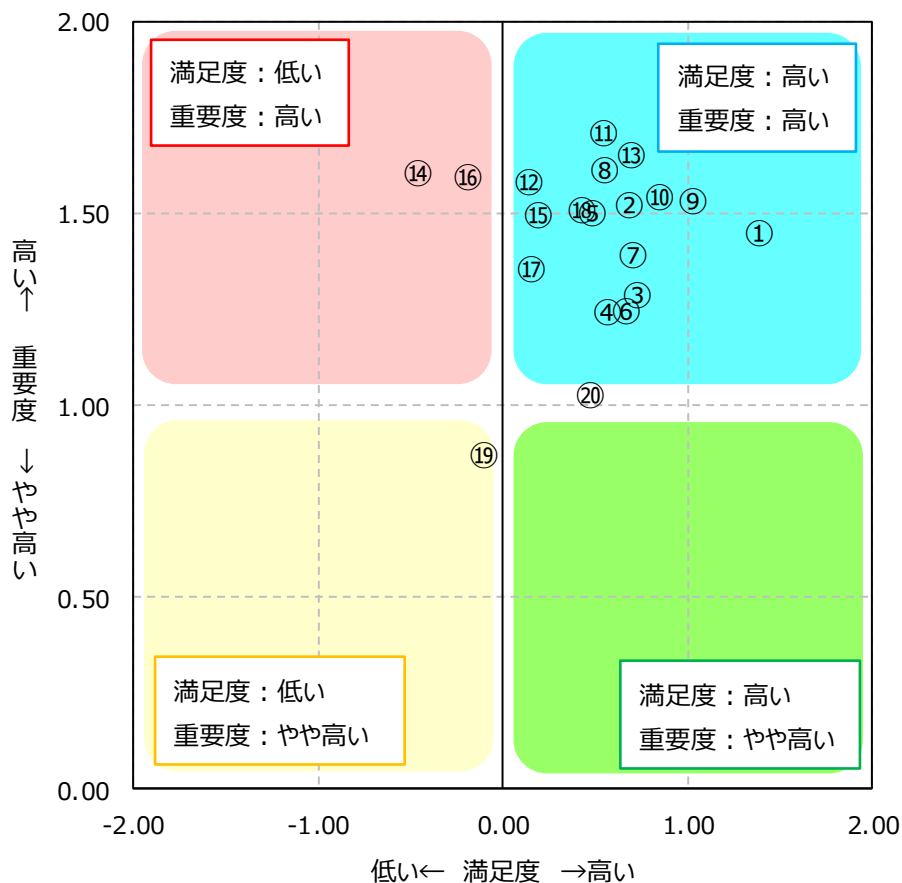
<重要度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する今後の重要度を井ノ口上地区でみると、「⑪火災・地震などに対する防災体制の整備（1.713）」、「⑬防犯・治安などの状態（1.655）」、「⑧ごみ収集・処理の対応、対策（1.616）」、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）（1.610）」、「⑩医療施設の利用のしやすさ（1.598）」の順で高くなっています。
- 重要度の評価点を低い順にみると、「⑲スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（0.876）」、「⑳近所づきあいやまとまり（1.031）」、「④公園・広場の利用のしやすさ（1.247）」、「⑥幹線道路の整備状況や利用のしやすさ（1.250）」、「③河川・水路の水とふれあえる環境や風景（1.291）」の順となっています。



<取組の優先性>

- 満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い環境要素は、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）」、「⑯医療施設の利用のしやすさ」となっており、満足度を高めるため、重点的な取り組みが求められる事項と位置づけられます。



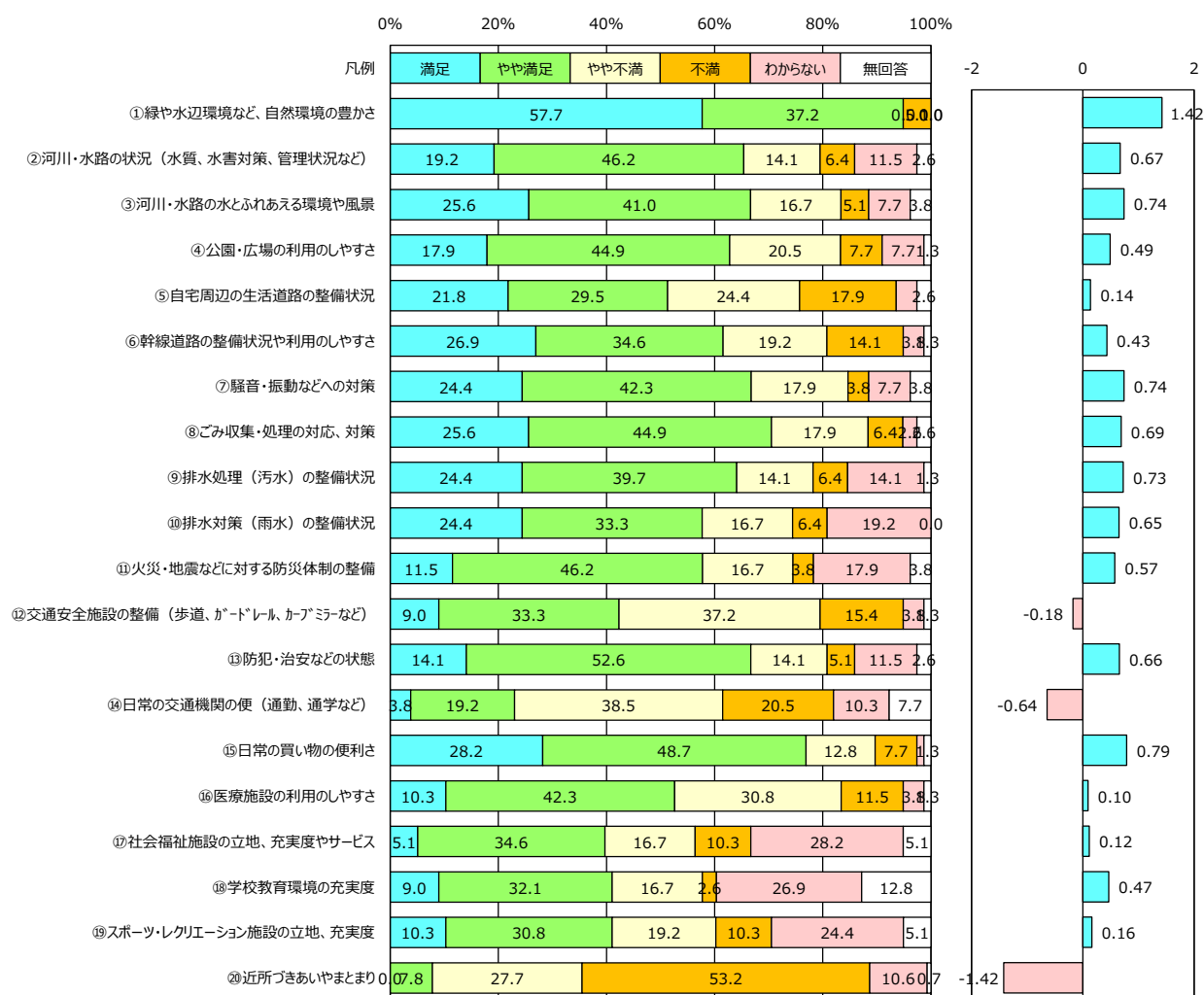
- ①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ
- ③河川・水路の水とふれあえる環境や風景
- ⑤自宅周辺の生活道路の整備状況
- ⑦騒音・振動などへの対策
- ⑨排水処理（污水）の整備状況
- ⑪火災・地震などに対する防災体制の整備
- ⑬防犯・治安などの状態
- ⑮日常の買い物の便利さ
- ⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス
- ⑲スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度

- ②河川・水路の状況（水質、水害対策、管理状況など）
- ④公園・広場の利用のしやすさ
- ⑥幹線道路の整備状況や利用のしやすさ
- ⑧ごみ収集・処理の対応、対策
- ⑩排水対策（雨水）の整備状況
- ⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）
- ⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）
- ⑯医療施設の利用のしやすさ
- ⑰学校教育環境の充実度
- ⑲近所づきあいやまとまり

■井ノ口下地区

<満足度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する現状の満足度を井ノ口下地区でみると、「①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ（1.423）」、「⑮日常の買い物の便利さ（0.789）」、「③河川・水路の水とふれあえる環境や風景（0.739）」及び「⑦騒音・振動などへの対策（0.739）」、「⑨排水対策（污水）の整備状況（0.727）」の順で高くなっています。
- 満足度の評価点を低い順にみると、「⑳近所づきあいやまとまり（-1.424）」、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）（-0.641）」、「⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）（-0.176）」、「⑩医療施設の利用のしやすさ（0.095）」、「⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス（0.115）」の順となっています。



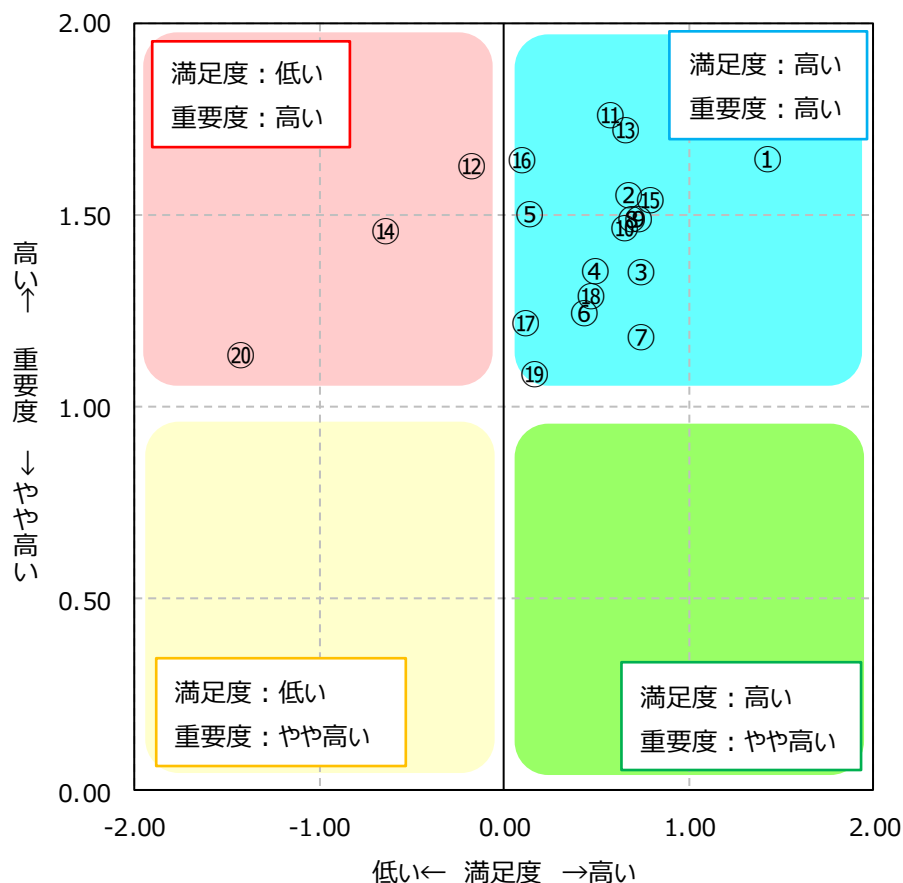
<重要度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する今後の重要度を井ノ口下地区でみると、「⑪火災・地震などに対する防災体制の整備（1.764）」、「⑬防犯・治安などの状態（1.725）」、「①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ（1.649）」、「⑯医療施設の利用のしやすさ（1.648）」、「⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）（1.630）」の順で高くなっています。
- 重要度の評価点を低い順にみると、「⑨スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（1.091）」、「⑳近所づきあいやまとまり（1.141）」、「⑦騒音・振動などへの対策（1.186）」、「⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス（1.222）」、「⑥幹線道路の整備状況や利用のしやすさ（1.250）」の順となっています。



<取組の優先性>

- 満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い環境要素は、「⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）」、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）」、「⑳近所づきあいやまとまり」となっており、満足度を高めるため、重点的な取り組みが求められる事項と位置づけられます。



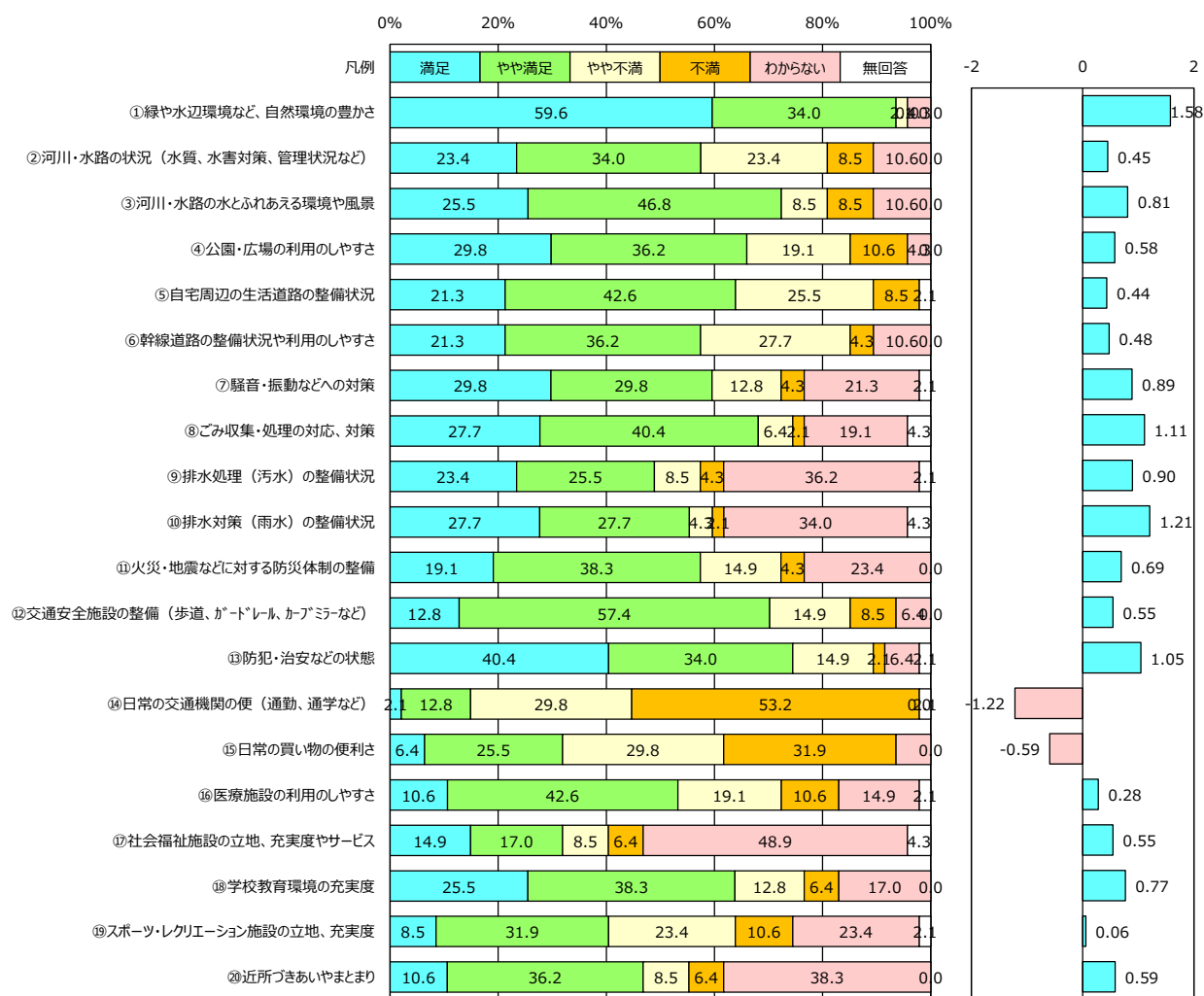
- ①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ
- ③河川・水路の水とふれあえる環境や風景
- ⑤自宅周辺の生活道路の整備状況
- ⑦騒音・振動などへの対策
- ⑨排水処理（污水）の整備状況
- ⑪火災・地震などに対する防災体制の整備
- ⑬防犯・治安などの状態
- ⑮日常の買い物の便利さ
- ⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス
- ⑲スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度

- ②河川・水路の状況（水質、水害対策、管理状況など）
- ④公園・広場の利用のしやすさ
- ⑥幹線道路の整備状況や利用のしやすさ
- ⑧ごみ収集・処理の対応、対策
- ⑩排水対策（雨水）の整備状況
- ⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）
- ⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）
- ⑯医療施設の利用のしやすさ
- ⑰学校教育環境の充実度
- ⑲近所づきあいやまとまり

■10歳代

<満足度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する現状の満足度を10歳代でみると、「①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ（1.578）」、「⑩排水対策（雨水）の整備状況（1.207）」、「⑧ごみ収集・処理の対応、対策（1.111）」、「⑬防犯・治安などの状態（1.047）」、「⑨排水処理（污水）の整備状況（0.897）」の順で高くなっています。
- 満足度の評価点を低い順にみると、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）（-1.217）」、「⑮日常の買い物の便利さ（-0.591）」、「⑰スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（0.057）」、「⑯医療施設の利用のしやすさ（0.282）」、「⑤自宅周辺の生活道路の整備状況（0.435）」の順となっています。



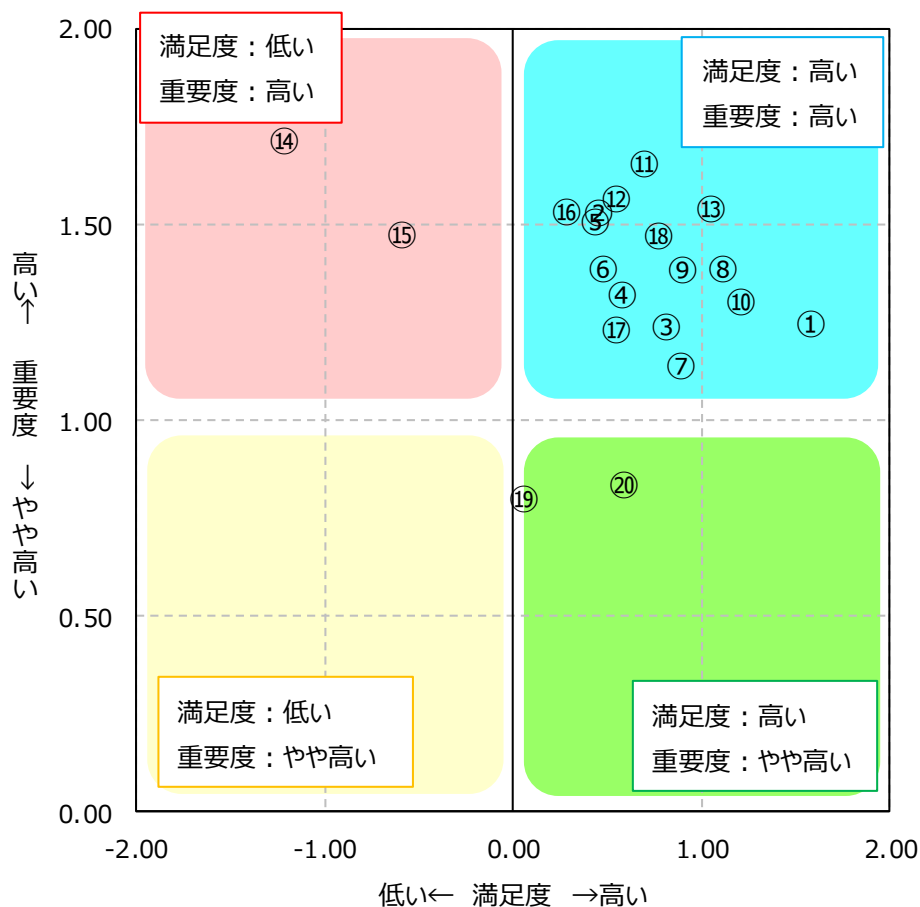
<重要度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する今後の重要度を10歳代でみると、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）（1.717）」、「⑪火災・地震などに対する防災体制の整備（1.659）」、「⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）（1.568）」、「⑬防犯・治安などの状態（1.545）」、「⑯医療施設の利用のしやすさ（1.535）」の順で高くなっています。
- 重要度の評価点を低い順にみると、「⑲スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（0.805）」、「⑳近所づきあいやまとまり（0.842）」、「⑦騒音・振動などへの対策（1.143）」、「⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス（1.235）」、「③河川・水路の水とふれあえる環境や風景（1.244）」の順となっています。



<取組の優先性>

- 満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い環境要素は、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）」、「⑮日常の買い物の便利さ」となっており、満足度を高めるため、重点的な取り組みが求められる事項と位置づけられます。

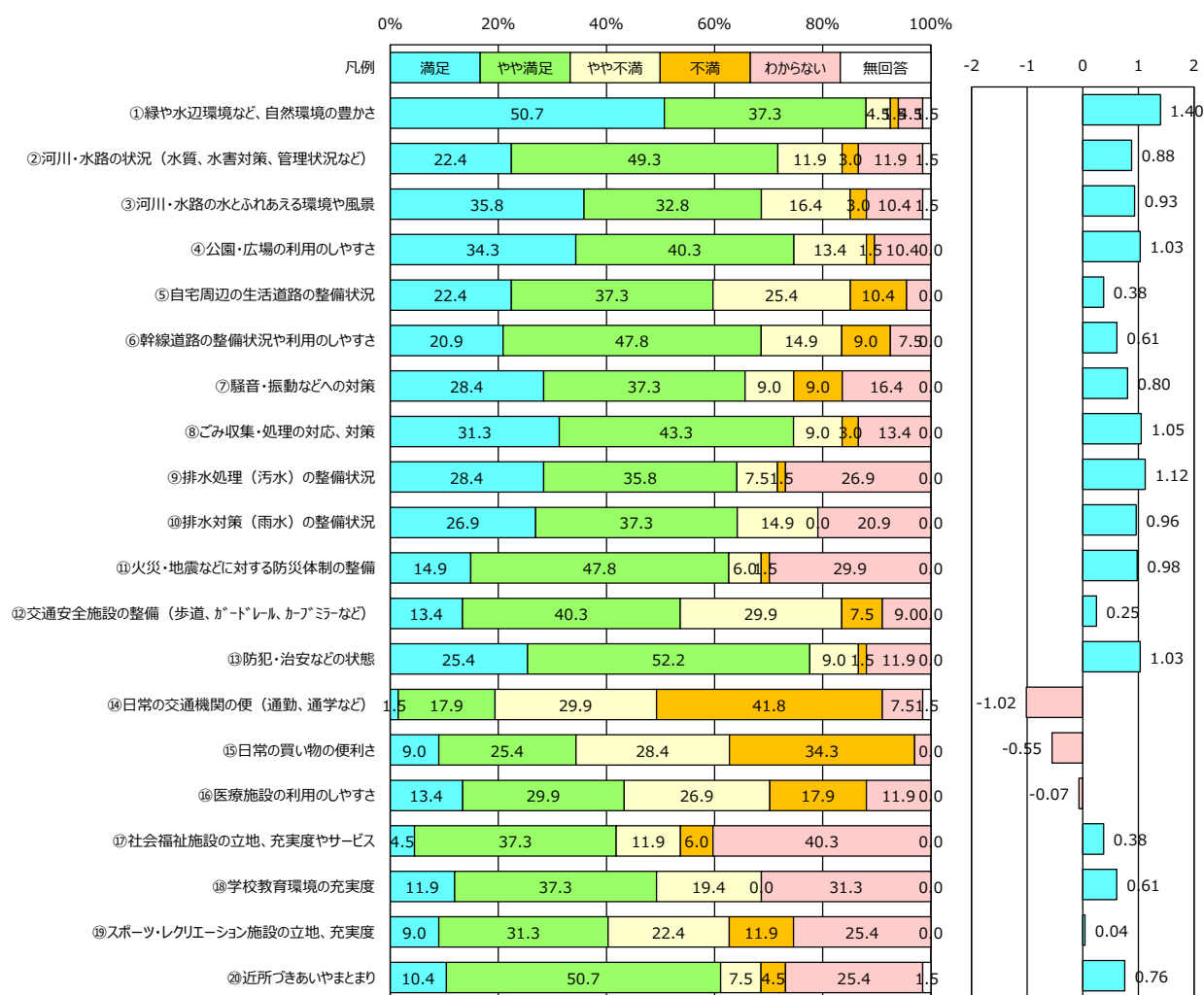


- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| ①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ | ②河川・水路の状況（水質、水害対策、管理状況など） |
| ③河川・水路の水とふれあえる環境や風景 | ④公園・広場の利用のしやすさ |
| ⑤自宅周辺の生活道路の整備状況 | ⑥幹線道路の整備状況や利用のしやすさ |
| ⑦騒音・振動などへの対策 | ⑧ごみ収集・処理の対応、対策 |
| ⑨排水処理（污水）の整備状況 | ⑩排水対策（雨水）の整備状況 |
| ⑪火災・地震などに対する防災体制の整備 | ⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど） |
| ⑬防犯・治安などの状態 | ⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など） |
| ⑮日常の買い物の便利さ | ⑯医療施設の利用のしやすさ |
| ⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス | ⑱学校教育環境の充実度 |
| ⑲スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度 | ⑳近所づきあいやまとまり |

■20歳代

<満足度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する現状の満足度を20歳代でみると、「①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ（1.397）」、「⑨排水処理（汚水）の整備状況（1.122）」、「⑧ごみ収集・処理の対応、対策（1.052）」、「⑬防犯・治安などの状態（1.034）」、「④公園・広場の利用のしやすさ（1.033）」の順で高くなっています。
- 満足度の評価点を低い順にみると、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）（-1.016）」、「⑮日常の買い物の便利さ（-0.554）」、「⑯医療施設の利用のしやすさ（-0.068）」、「⑰スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（0.040）」、「⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）（0.246）」の順となっています。



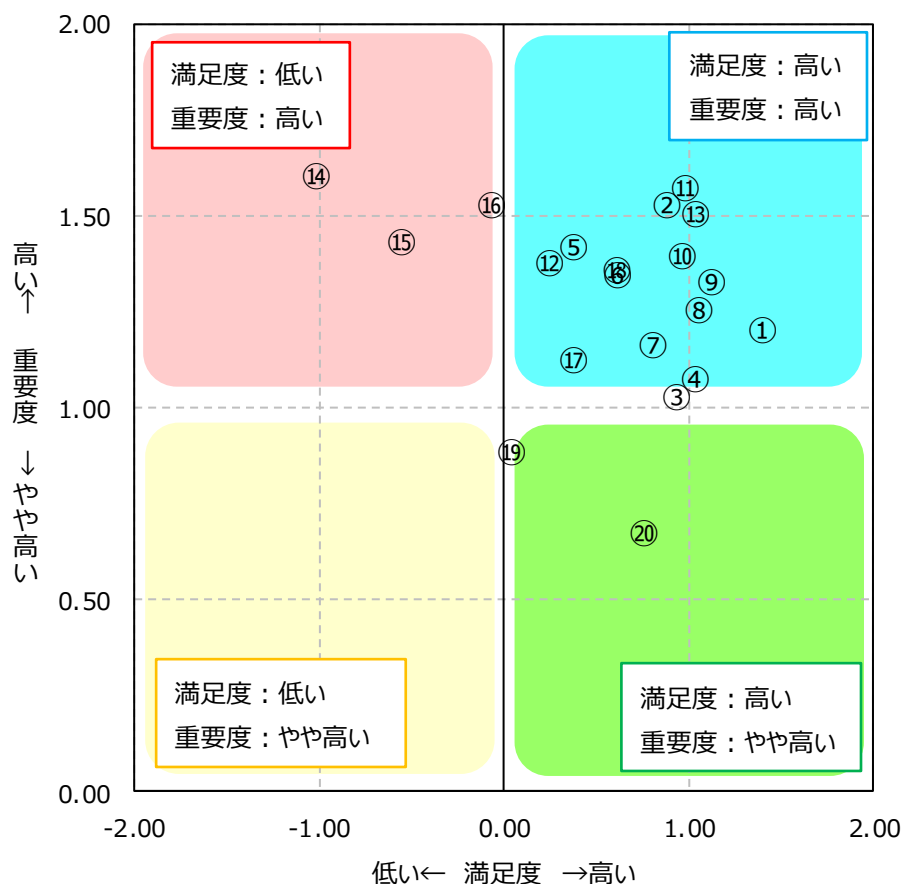
<重要度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する今後の重要度を20歳代でみると、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）（1.607）」、「⑪火災・地震などに対する防災体制の整備（1.576）」、「②河川・水路の状況（水質、水害対策、管理状況など）（1.532）」、「⑩医療施設の利用のしやすさ（1.532）」、「⑬防犯・治安などの状態（1.508）」の順で高くなっています。
- 重要度の評価点を低い順にみると、「⑳近所づきあいやまとまり（0.679）」、「⑲スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（0.889）」、「③河川・水路の水とふれあえる環境や風景（1.033）」、「④公園・広場の利用のしやすさ（1.079）」、「⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス（1.130）」の順となっています。



<取組の優先性>

- 満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い環境要素は、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）」、「⑮日常の買い物の便利さ」、「⑯医療施設の利用のしやすさ」となっており、満足度を高めるため、重点的な取り組みが求められる事項と位置づけられます。

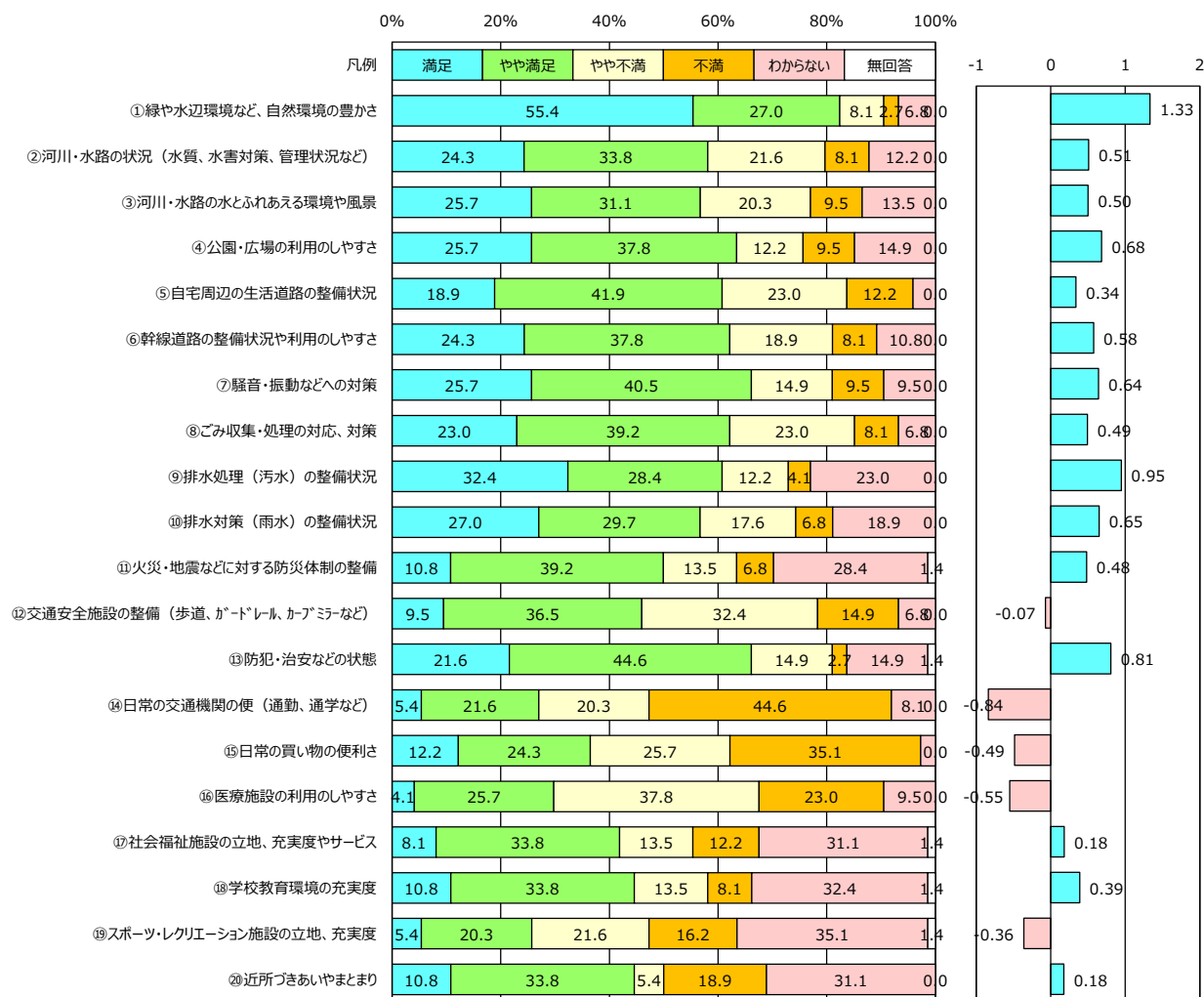


- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| ① 緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ | ② 河川・水路の状況（水質、水害対策、管理状況など） |
| ③ 河川・水路の水とふれあえる環境や風景 | ④ 公園・広場の利用のしやすさ |
| ⑤ 自宅周辺の生活道路の整備状況 | ⑥ 幹線道路の整備状況や利用のしやすさ |
| ⑦ 騒音・振動などへの対策 | ⑧ ごみ収集・処理の対応、対策 |
| ⑨ 排水処理（污水）の整備状況 | ⑩ 排水対策（雨水）の整備状況 |
| ⑪ 火災・地震などに対する防災体制の整備 | ⑫ 交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど） |
| ⑬ 防犯・治安などの状態 | ⑭ 日常の交通機関の便（通勤、通学など） |
| ⑮ 日常の買い物の便利さ | ⑯ 医療施設の利用のしやすさ |
| ⑰ 社会福祉施設の立地、充実度やサービス | ⑱ 学校教育環境の充実度 |
| ⑲ スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度 | ⑳ 近所づきあいやまとまり |

■30歳代

<満足度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する現状の満足度を30歳代でみると、「①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ（1.333）」、「⑨排水処理（污水）の整備状況（0.947）」、「⑬防犯・治安などの状態（0.806）」、「④公園・広場の利用のしやすさ（0.683）」、「⑩排水対策（雨水）の整備状況（0.650）」の順で高くなっています。
- 満足度の評価点を低い順にみると、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）（-0.838）」、「⑯医療施設の利用のしやすさ（-0.552）」、「⑮日常の買い物の便利さ（-0.486）」、「⑰スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（-0.362）」、「⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）（-0.072）」の順となっています。



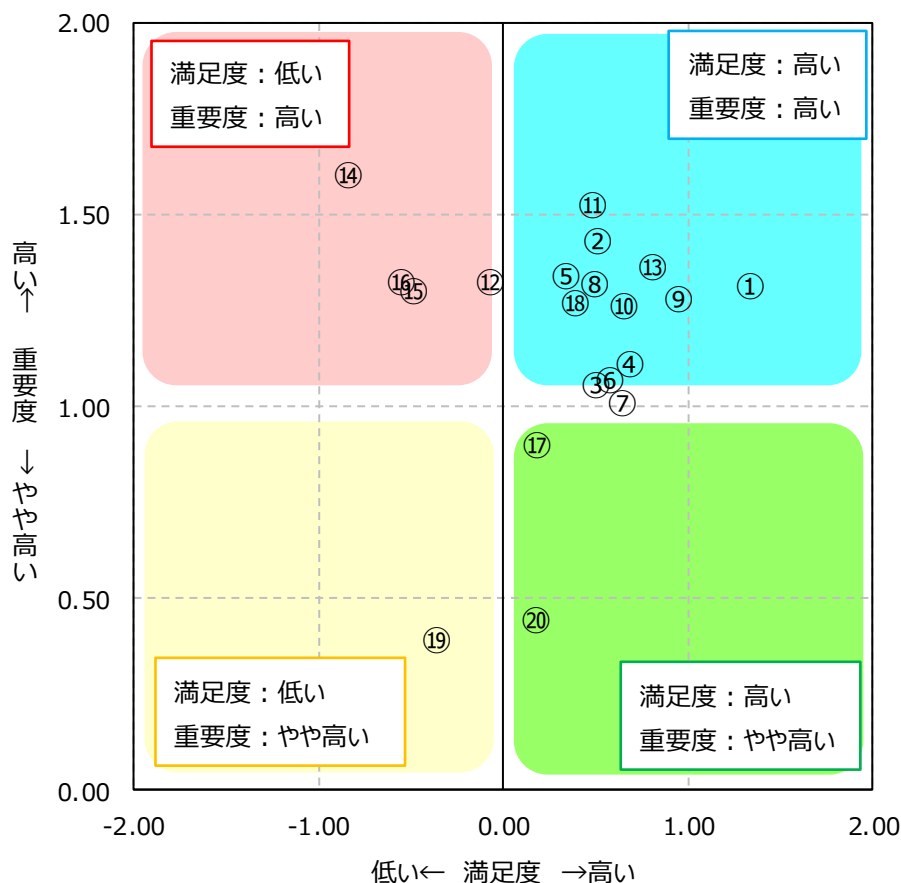
<重要度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する今後の重要度を30歳代でみると、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）（1.606）」、「⑪火災・地震などに対する防災体制の整備（1.529）」、「②河川・水路の状況（水質、水害対策、管理状況など）（1.435）」、「⑬防犯・治安などの状態（1.368）」、「⑤自宅周辺の生活道路の整備状況（1.343）」の順で高くなっています。
- 重要度の評価点を低い順にみると、「⑲スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（0.397）」、「⑳近所づきあいやまとまり（0.450）」、「⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス（0.905）」、「⑦騒音・振動などへの対策（1.015）」、「③河川・水路の水とふれあえる環境や風景（1.061）」の順となっています。



<取組の優先性>

- 満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い環境要素は、「⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）」、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）」、「⑮日常の買い物の便利さ」、「⑯医療施設の利用のしやすさ」となっており、満足度を高めるため、重点的な取り組みが求められる事項と位置づけられます。



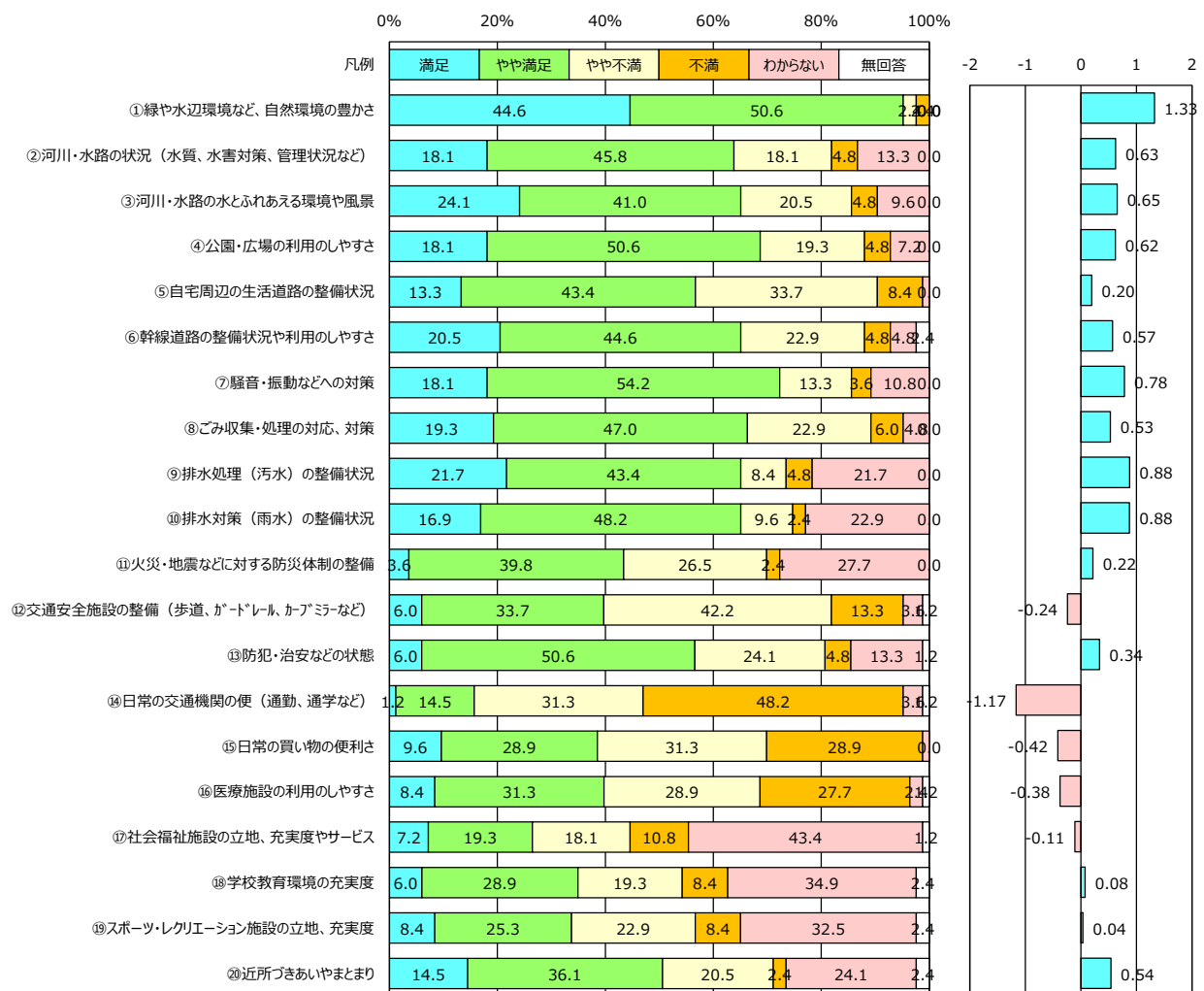
- ①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ
- ③河川・水路の水とふれあえる環境や風景
- ⑤自宅周辺の生活道路の整備状況
- ⑦騒音・振動などへの対策
- ⑨排水処理（污水）の整備状況
- ⑪火災・地震などに対する防災体制の整備
- ⑬防犯・治安などの状態
- ⑮日常の買い物の便利さ
- ⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス
- ⑲スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度

- ②河川・水路の状況（水質、水害対策、管理状況など）
- ④公園・広場の利用のしやすさ
- ⑥幹線道路の整備状況や利用のしやすさ
- ⑧ごみ収集・処理の対応、対策
- ⑩排水対策（雨水）の整備状況
- ⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）
- ⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）
- ⑯医療施設の利用のしやすさ
- ⑰学校教育環境の充実度
- ⑲近所づきあいやまとまり

■40歳代

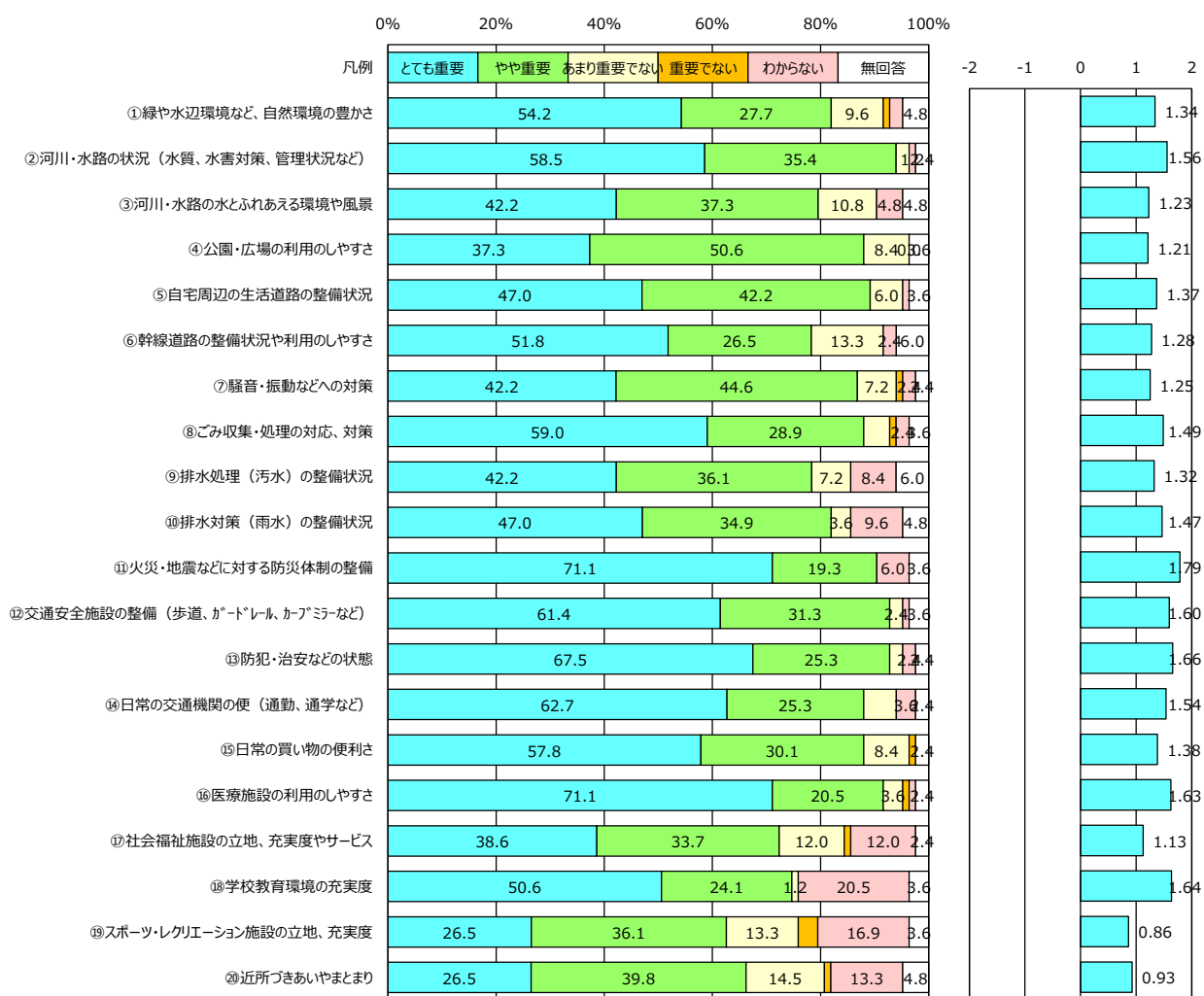
<満足度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する現状の満足度を40歳代でみると、「①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ（1.325）」、「⑨排水処理（污水）の整備状況（0.877）」、「⑩排水対策（雨水）の整備状況（0.875）」、「⑦騒音・振動などへの対策（0.784）」、「③河川・水路の水とふれあえる環境や風景（0.653）」の順で高くなっています。
- 満足度の評価点を低い順にみると、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）（-1.165）」、「⑮日常の買い物の便利さ（-0.415）」、「⑯医療施設の利用のしやすさ（-0.375）」、「⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）（-0.241）」、「⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス（-0.109）」の順となっています。



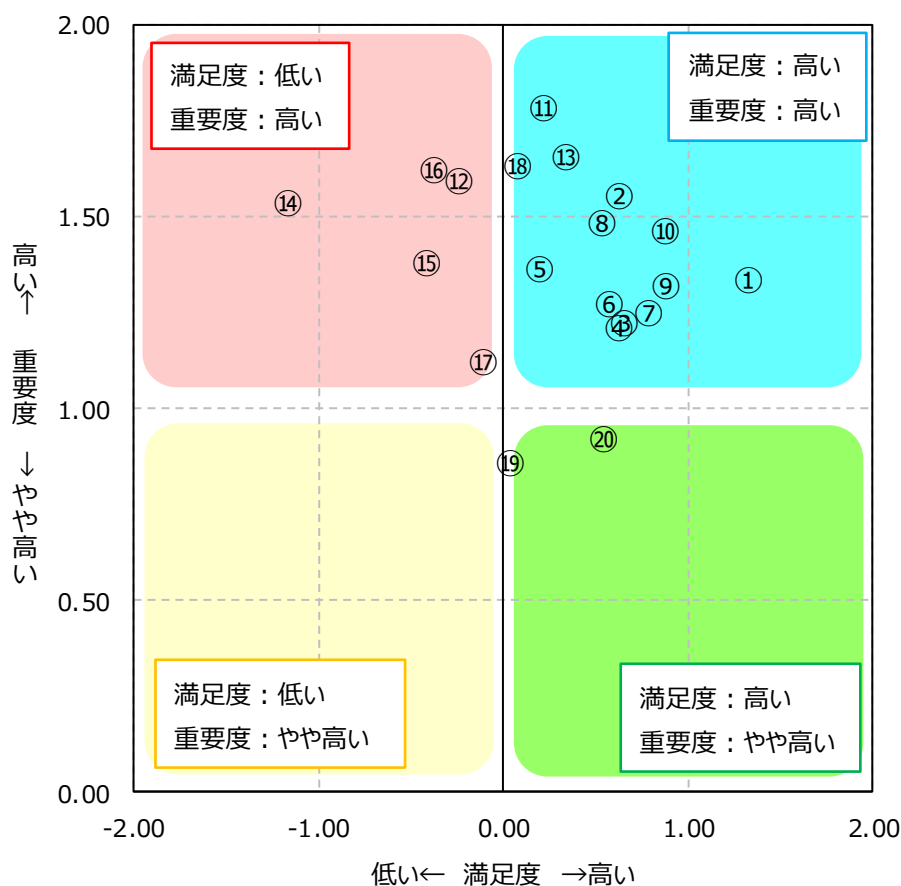
<重要度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する今後の重要度を40歳代でみると、「⑪火災・地震などに対する防災体制の整備（1.787）」、「⑬防犯・治安などの状態（1.658）」、「⑱学校教育環境の充実度（1.635）」、「⑩医療施設の利用のしやすさ（1.625）」、「⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）（1.595）」の順で高くなっています。
- 重要度の評価点を低い順にみると、「⑨スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（0.864）」、「⑳近所づきあいやまとまり（0.926）」、「⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス（1.127）」、「④公園・広場の利用のしやすさ（1.213）」、「③河川・水路の水とふれあえる環境や風景（1.227）」の順となっています。



<取組の優先性>

- 満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い環境要素は、「⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）」、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）」、「⑮日常の買い物の便利さ」、「⑯医療施設の利用のしやすさ」、「⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス」となっており、満足度を高めるため、重点的な取り組みが求められる事項と位置づけられます。

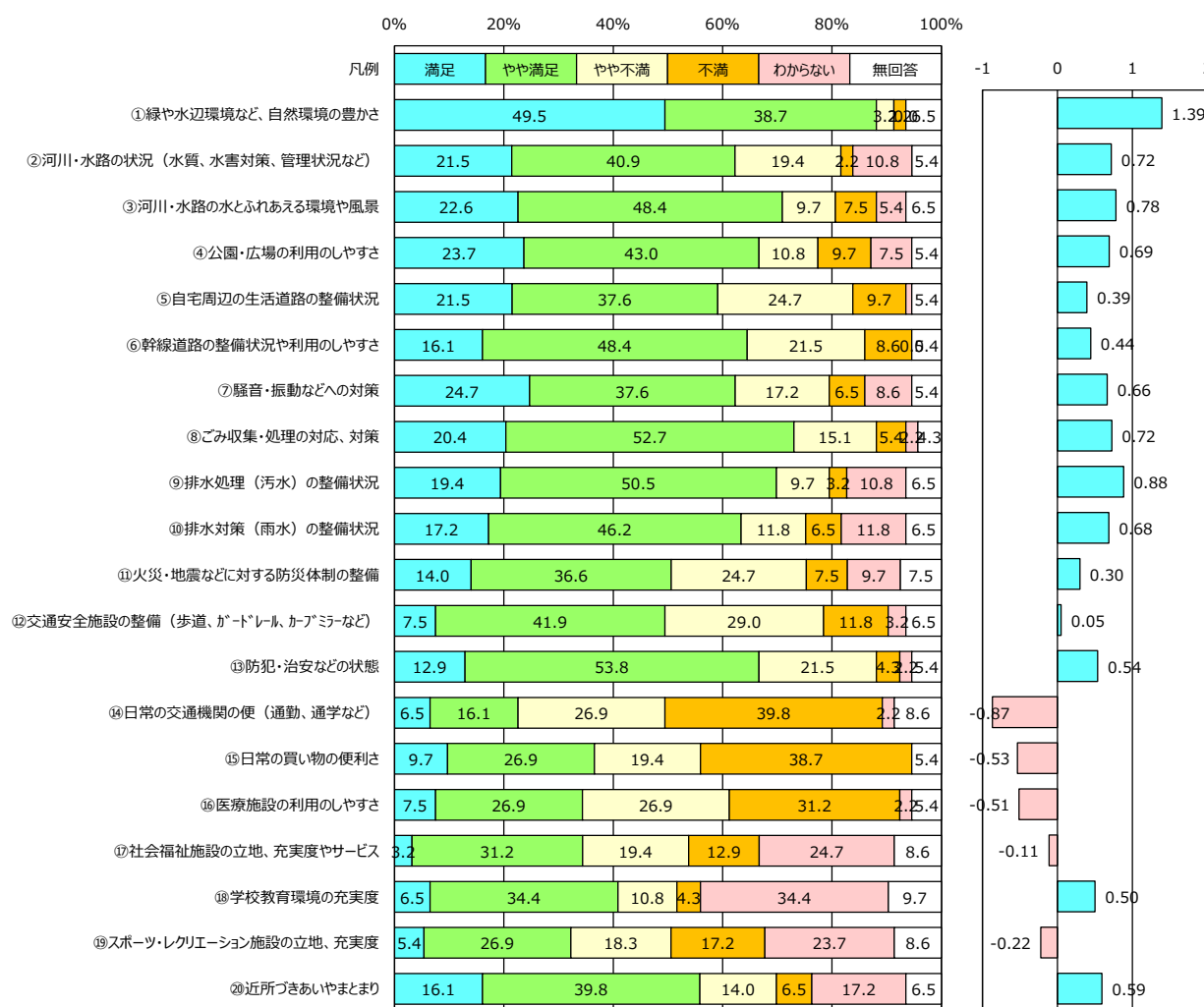


- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| ①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ | ②河川・水路の状況（水質、水害対策、管理状況など） |
| ③河川・水路の水とふれあえる環境や風景 | ④公園・広場の利用のしやすさ |
| ⑤自宅周辺の生活道路の整備状況 | ⑥幹線道路の整備状況や利用のしやすさ |
| ⑦騒音・振動などへの対策 | ⑧ごみ収集・処理の対応、対策 |
| ⑨排水処理（污水）の整備状況 | ⑩排水対策（雨水）の整備状況 |
| ⑪火災・地震などに対する防災体制の整備 | ⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど） |
| ⑬防犯・治安などの状態 | ⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など） |
| ⑮日常の買い物の便利さ | ⑯医療施設の利用のしやすさ |
| ⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス | ⑱学校教育環境の充実度 |
| ⑲スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度 | ⑳近所づきあいやまとまり |

■50歳代

<満足度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する現状の満足度を50歳代でみると、「①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ（1.391）」、「⑨排水処理（污水）の整備状況（0.883）」、「③河川・水路の水とふれあえる環境や風景（0.780）」、「⑧ごみ収集・処理の対応、対策（0.724）」、「②河川・水路の状況（水質、水害対策、管理状況など）（0.718）」の順で高くなっています。
- 満足度の評価点を低い順にみると、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）（-0.867）」、「⑮日常の買い物の便利さ（-0.534）」、「⑯医療施設の利用のしやすさ（-0.512）」、「⑰スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（-0.222）」、「⑱社会福祉施設の立地、充実度やサービス（-0.113）」の順となっています。



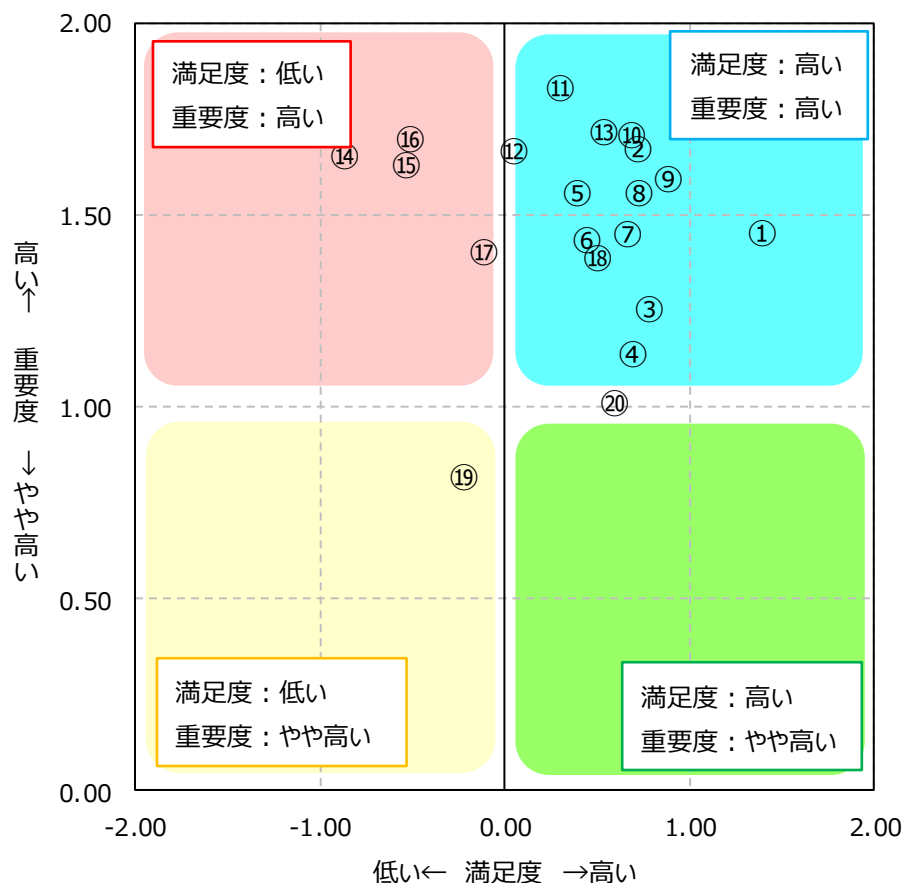
<重要度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する今後の重要度を50歳代でみると、「⑪火災・地震」などに対する防災体制の整備（1.835）、「⑬防犯・治安などの状態（1.720）」、「⑩排水対策（雨水）の整備状況（1.711）」、「⑯医療施設の利用のしやすさ（1.702）」、「②河川・水路の状況（水質、水害対策、管理状況など）（1.675）」の順で高くなっています。
- 重要度の評価点を低い順にみると、「⑨スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（0.824）」、「⑳近所づきあいやまとまり（1.014）」、「④公園・広場の利用のしやすさ（1.143）」、「③河川・水路の水とふれあえる環境や風景（1.260）」、「⑱学校教育環境の充実度（1.391）」の順となっています。



<取組の優先性>

- 満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い環境要素は、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）」、「⑮日常の買い物の便利さ」、「⑯医療施設の利用のしやすさ」、「⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス」となっており、満足度を高めるため、重点的な取り組みが求められる事項と位置づけられます。



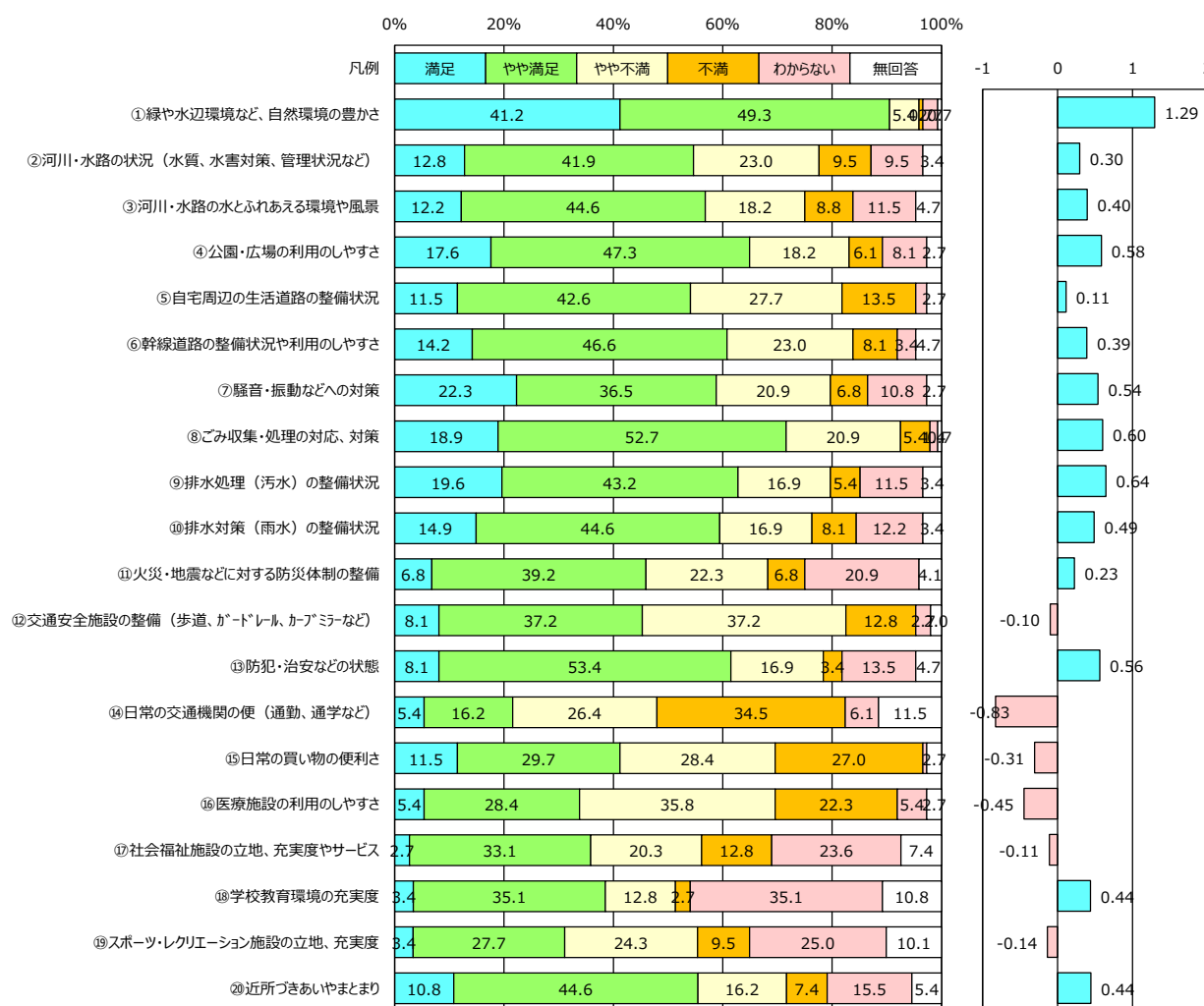
- ①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ
- ③河川・水路の水とふれあえる環境や風景
- ⑤自宅周辺の生活道路の整備状況
- ⑦騒音・振動などへの対策
- ⑨排水処理（污水）の整備状況
- ⑪火災・地震などに対する防災体制の整備
- ⑬防犯・治安などの状態
- ⑮日常の買い物の便利さ
- ⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス
- ⑲スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度

- ②河川・水路の状況（水質、水害対策、管理状況など）
- ④公園・広場の利用のしやすさ
- ⑥幹線道路の整備状況や利用のしやすさ
- ⑧ごみ収集・処理の対応、対策
- ⑩排水対策（雨水）の整備状況
- ⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）
- ⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）
- ⑯医療施設の利用のしやすさ
- ⑰学校教育環境の充実度
- ⑲近所づきあいやまとまり

■60歳代

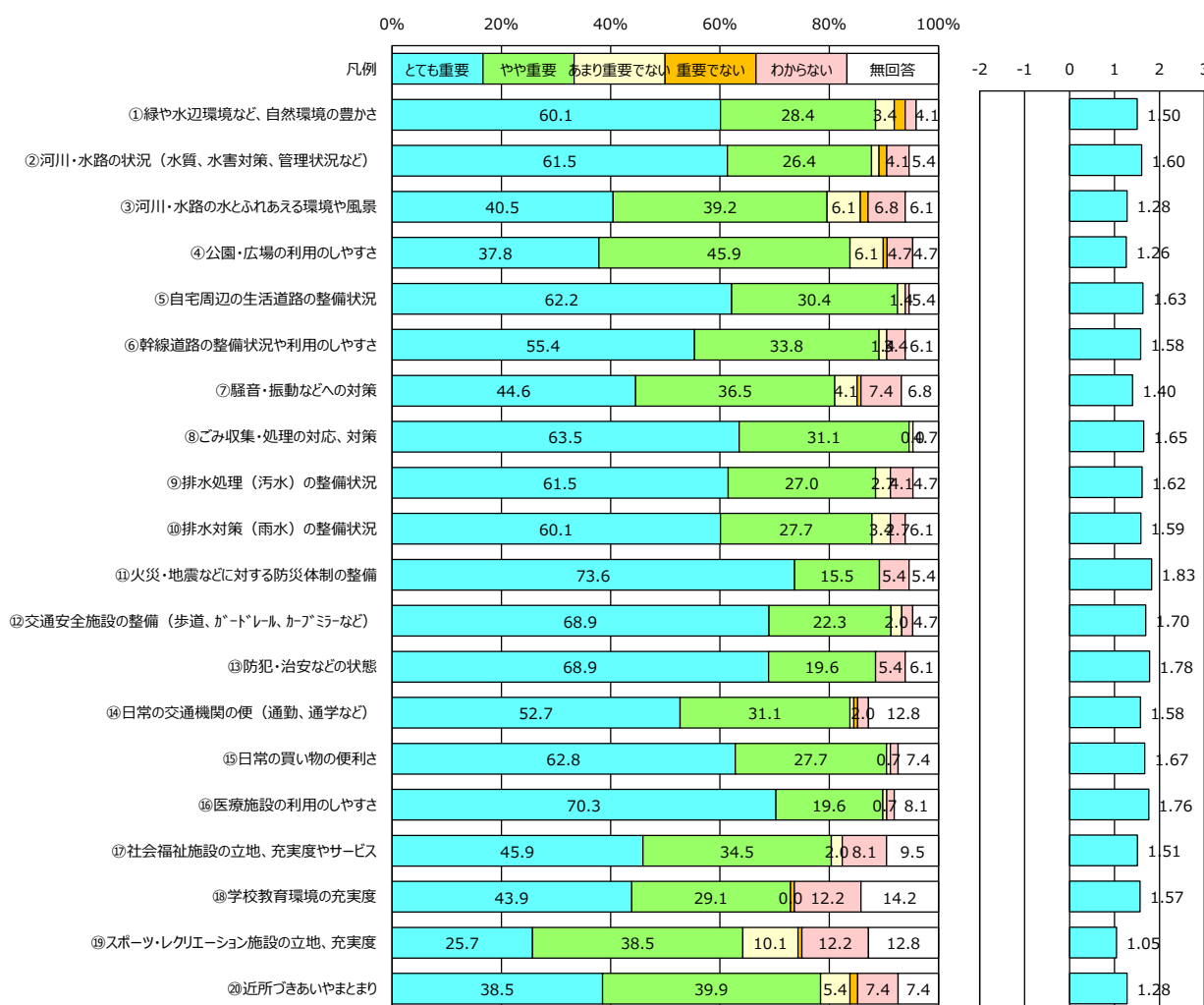
<満足度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する現状の満足度を60歳代でみると、「①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ（1.294）」、「⑨排水処理（汚水）の整備状況（0.643）」、「⑧ごみ収集・処理の対応、対策（0.600）」、「④公園・広場の利用のしやすさ（0.583）」、「⑬防犯・治安などの状態（0.562）」の順で高くなっています。
- 満足度の評価点を低い順にみると、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）（-0.828）」、「⑯医療施設の利用のしやすさ（-0.449）」、「⑮日常の買い物の便利さ（-0.308）」、「⑰スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（-0.135）」、「⑱社会福祉施設の立地、充実度やサービス（-0.108）」の順となっています。



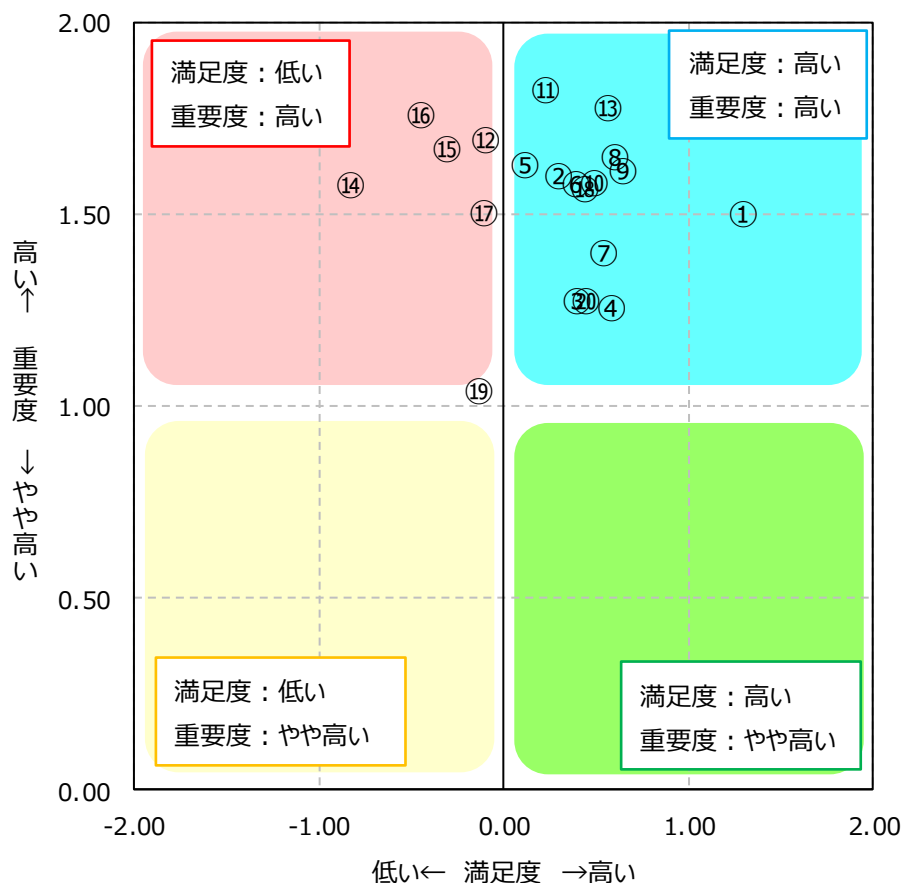
<重要度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する今後の重要度を60歳代でみると、「⑪火災・地震」などに対する防災体制の整備（1.826）、「⑬防犯・治安などの状態（1.779）」、「⑯医療施設の利用のしやすさ（1.761）」、「⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）（1.696）」、「⑮日常の買い物の便利さ（1.674）」の順で高くなっています。
- 重要度の評価点を低い順にみると、「⑨スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（1.045）」、「④公園・広場の利用のしやすさ（1.261）」、「⑫近所づきあいやまとまり（1.278）」、「③河川・水路の水とふれあえる環境や風景（1.279）」、「⑦騒音・振動などへの対策（1.402）」の順となっています。



<取組の優先性>

- 満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い環境要素は、「⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）」、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）」、「⑮日常の買い物の便利さ」、「⑯医療施設の利用のしやすさ」、「⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス」となっており、満足度を高めるため、重点的な取り組みが求められる事項と位置づけられます。



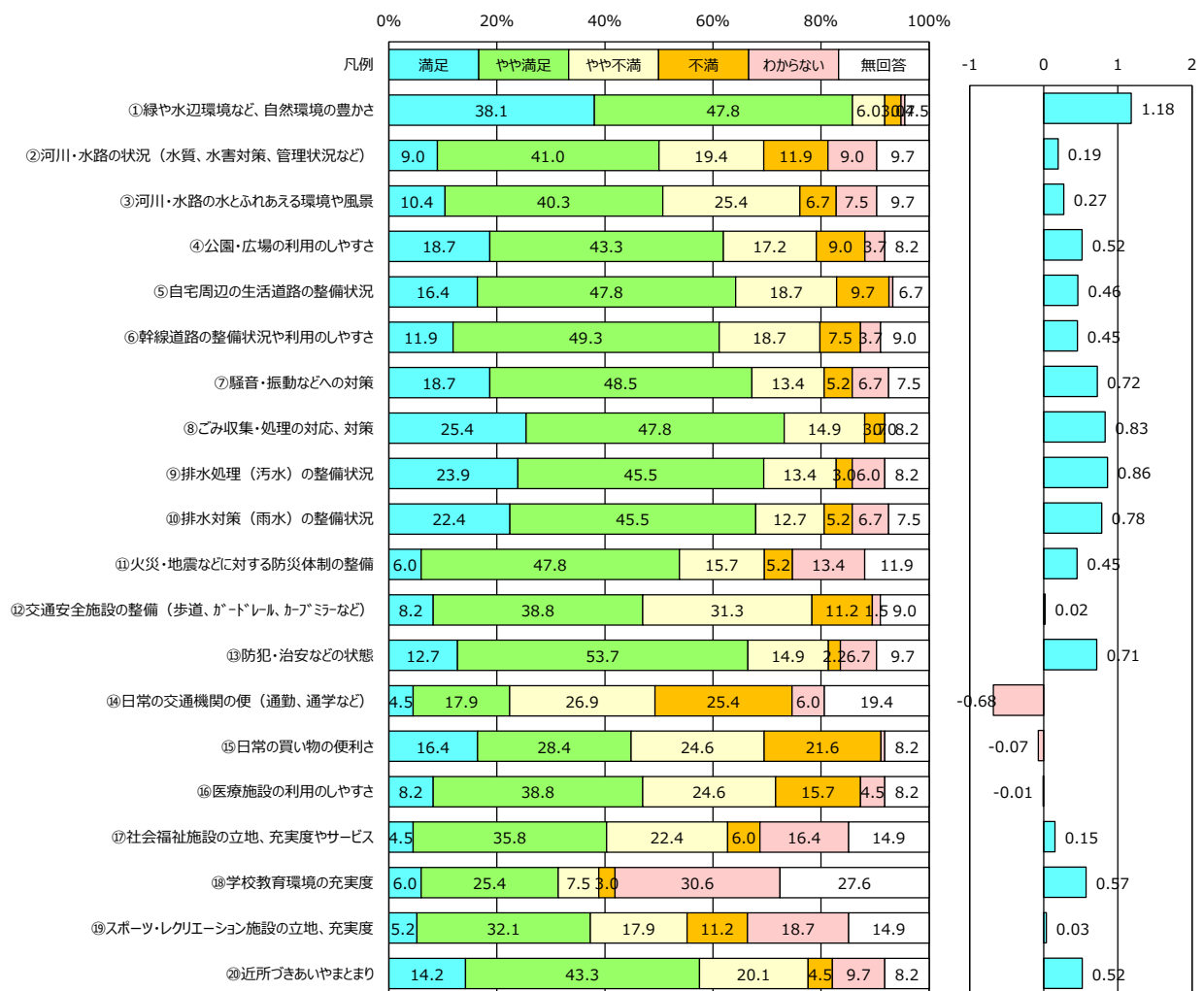
- ①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ
- ③河川・水路の水とふれあえる環境や風景
- ⑤自宅周辺の生活道路の整備状況
- ⑦騒音・振動などへの対策
- ⑨排水処理（污水）の整備状況
- ⑪火災・地震などに対する防災体制の整備
- ⑬防犯・治安などの状態
- ⑮日常の買い物の便利さ
- ⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス
- ⑲スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度

- ②河川・水路の状況（水質、水害対策、管理状況など）
- ④公園・広場の利用のしやすさ
- ⑥幹線道路の整備状況や利用のしやすさ
- ⑧ごみ収集・処理の対応、対策
- ⑩排水対策（雨水）の整備状況
- ⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）
- ⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）
- ⑯医療施設の利用のしやすさ
- ⑰学校教育環境の充実度
- ⑲近所づきあいやまとまり

■70歳以上

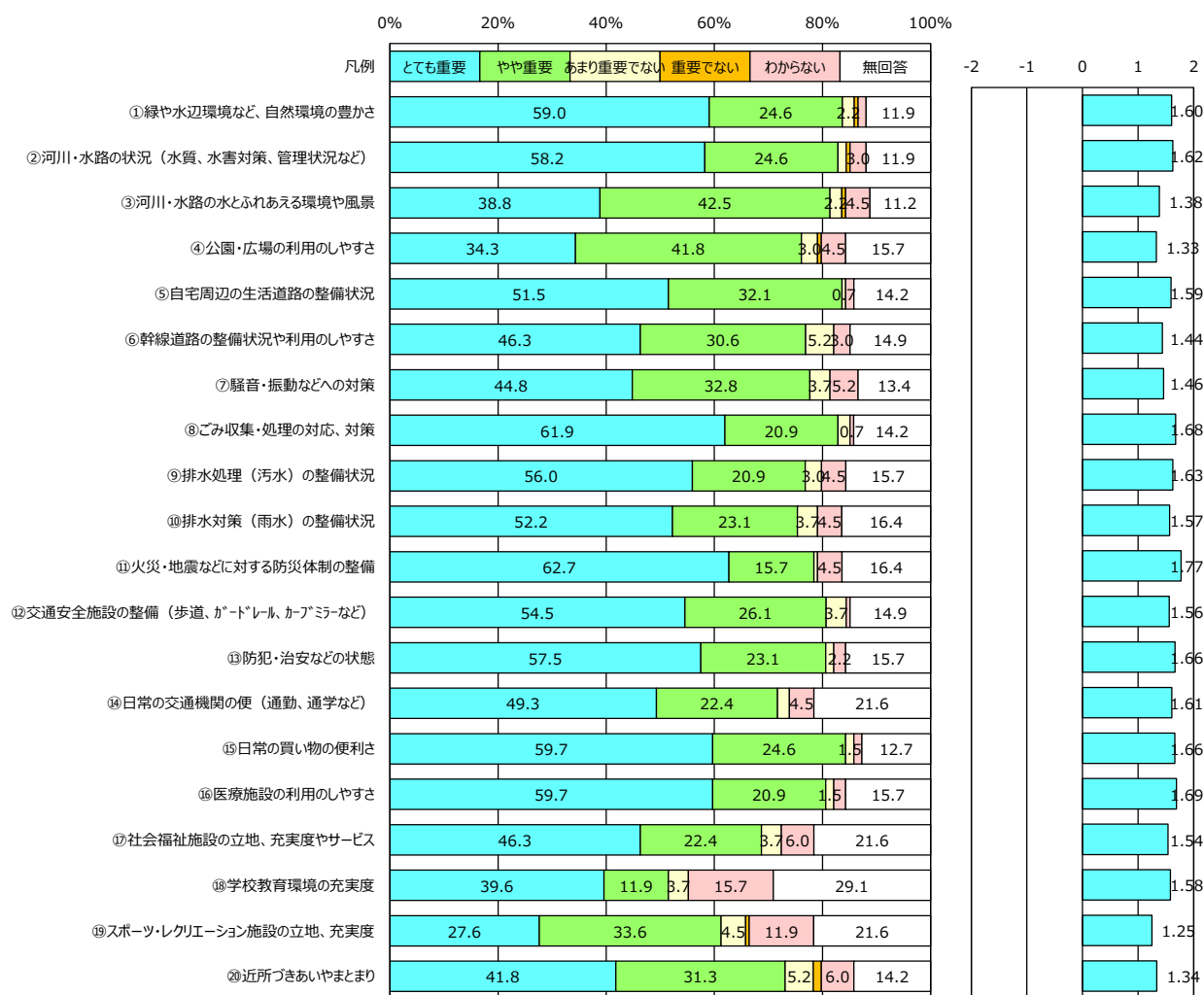
<満足度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する現状の満足度を70歳以上でみると、「①緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ（1.181）」、「⑨排水処理（汚水）の整備状況（0.861）」、「⑧ごみ収集・処理の対応、対策（0.829）」、「⑩排水対策（雨水）の整備状況（0.783）」、「⑦騒音・振動などへの対策（0.722）」の順で高くなっています。
- 満足度の評価点を低い順にみると、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）（-0.680）」、「⑮日常の買い物の便利さ（-0.074）」、「⑯医療施設の利用のしやすさ（-0.009）」、「⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）（0.017）」、「⑰スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（0.034）」の順となっています。



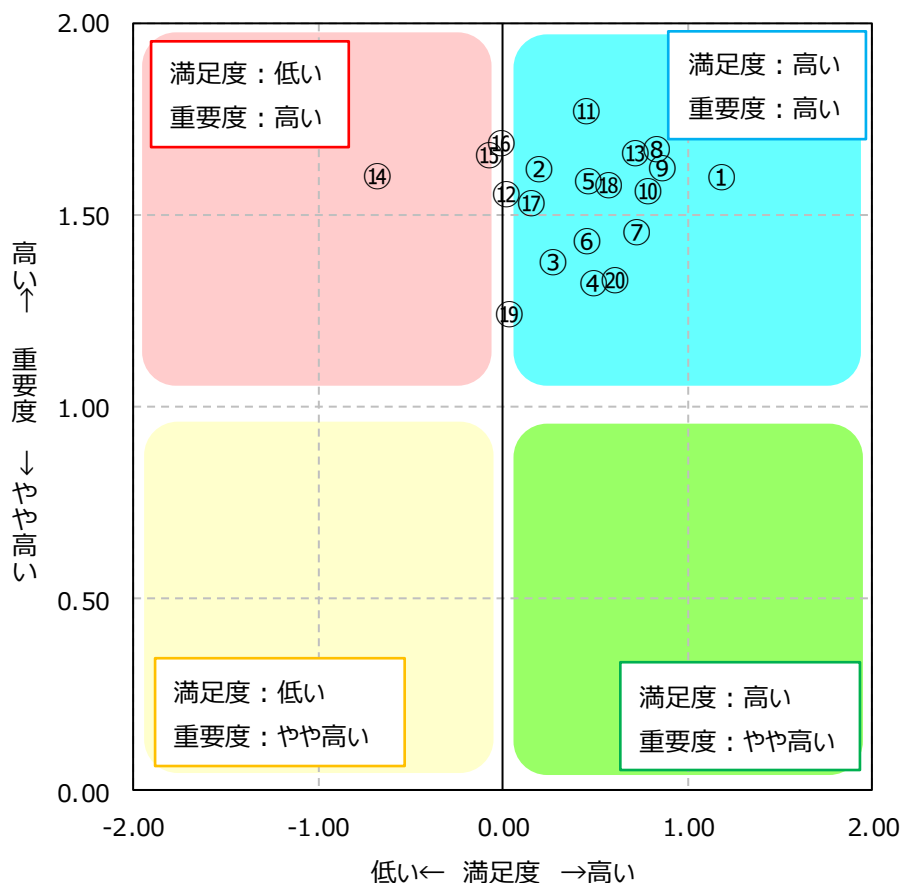
<重要度>

- 日常的な暮らしに関わる要素に対する今後の重要度を70歳以上でみると、「⑪火災・地震などに対する防災体制の整備（1.774）」、「⑫医療施設の利用のしやすさ（1.691）」、「⑧ごみ収集・処理の対応、対策（1.675）」、「⑬防犯・治安などの状態（1.664）」、「⑮日常の買い物の便利さ（1.661）」の順で高くなっています。
- 重要度の評価点を低い順にみると、「⑨スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度（1.247）」、「④公園・広場の利用のしやすさ（1.327）」、「⑩近所づきあいやまとまり（1.336）」、「③河川・水路の水とふれあえる環境や風景（1.381）」、「⑥幹線道路の整備状況や利用のしやすさ（1.436）」の順となっています。



<取組の優先性>

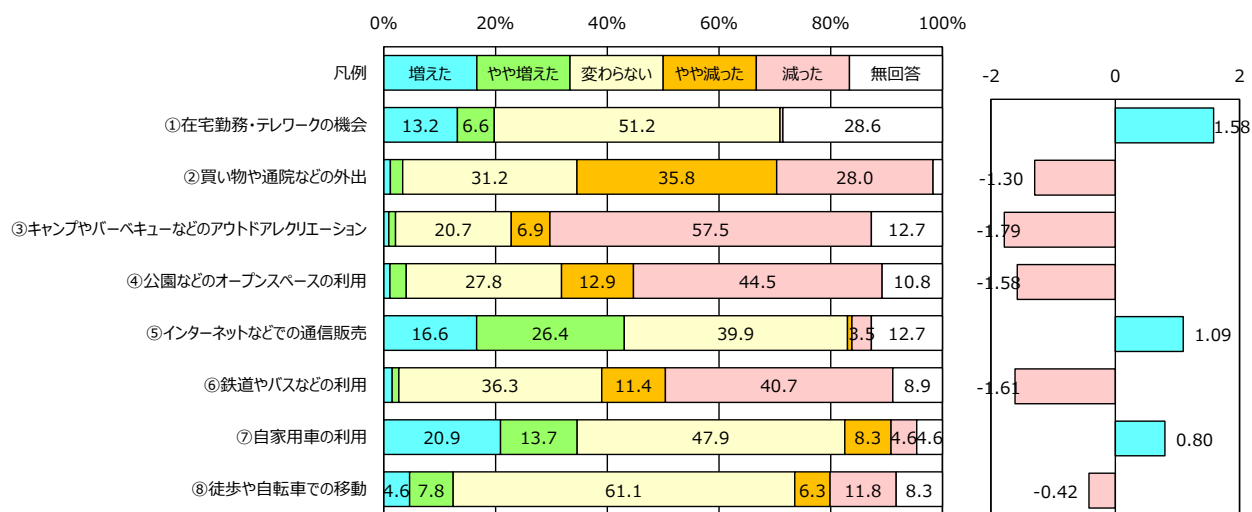
- 満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い環境要素は、「⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）」、「⑮日常の買い物の便利さ」、「⑯医療施設の利用のしやすさ」となっており、満足度を高めるため、重点的な取り組みが求められる事項と位置づけられます。



- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| ① 緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ | ② 河川・水路の状況（水質、水害対策、管理状況など） |
| ③ 河川・水路の水とふれあえる環境や風景 | ④ 公園・広場の利用のしやすさ |
| ⑤ 自宅周辺の生活道路の整備状況 | ⑥ 幹線道路の整備状況や利用のしやすさ |
| ⑦ 騒音・振動などへの対策 | ⑧ ごみ収集・処理の対応、対策 |
| ⑨ 排水処理（污水）の整備状況 | ⑩ 排水対策（雨水）の整備状況 |
| ⑪ 火災・地震などに対する防災体制の整備 | ⑫ 交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど） |
| ⑬ 防犯・治安などの状態 | ⑭ 日常の交通機関の便（通勤、通学など） |
| ⑮ 日常の買い物の便利さ | ⑯ 医療施設の利用のしやすさ |
| ⑰ 社会福祉施設の立地、充実度やサービス | ⑰ 学校教育環境の充実度 |
| ⑱ スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度 | ⑲ 近所づきあいやまとまり |

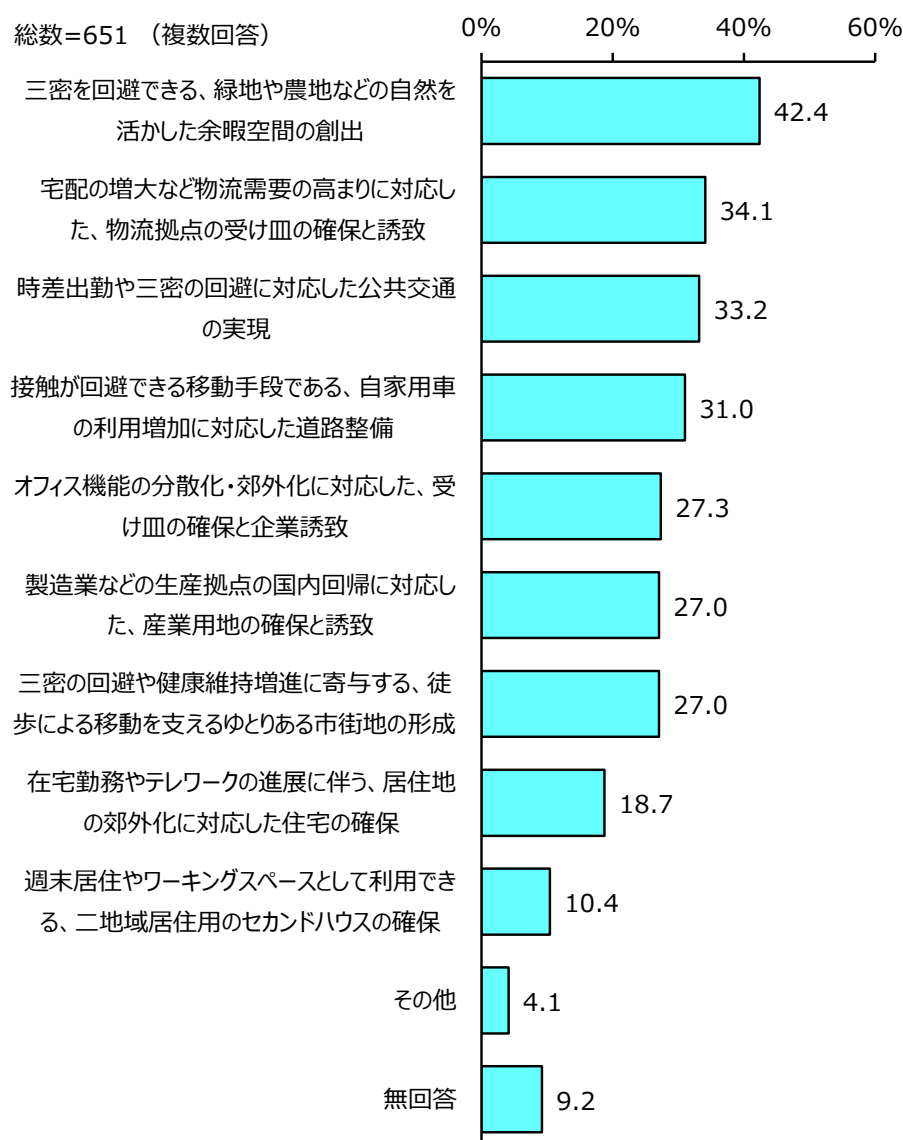
②新型コロナウイルス感染症流行の前後での生活行動比較（問8）

- 新型コロナウイルス感染症流行の前後の生活行動の変化を評価点でみると、「①在宅勤務・テレワークの機会」、「⑤インターネットなどでの通信販売」、「⑦自家用車の利用」がプラス評価（増えた）となっており、「⑧徒歩や自転車での移動」、「②買い物や通院などの外出」、「④公園などのオープンスペースの利用」、「⑥鉄道やバスなどの利用」、「③キャンプやバーベキューなどのアウトドアレクリエーション」はマイナス評価（減った）となりました。
- 個別の回答の構成比をみると、「①在宅勤務・テレワークの機会」は「変わらない」が半数を超えています、「減った」とする回答がほとんどないため、評価点が大きくプラスになっています。
- その他、「⑦自家用車の利用」や「⑧徒歩や自転車での移動」など、移動に関わる行動変化も「変わらない」とする回答がほぼ半数を超えており、近距離や人との接触が少ない手段に大きな変化は生じていないことがうかがわれます。
- 一方、鉄道やバスなど、人との接触が生じる移動やアウトドアレクリエーションを含めた外出の機会は、大きく減少していることがうかがわれます。



③今後の「新たな生活様式」を見据えたまちづくりのあり方（問9）

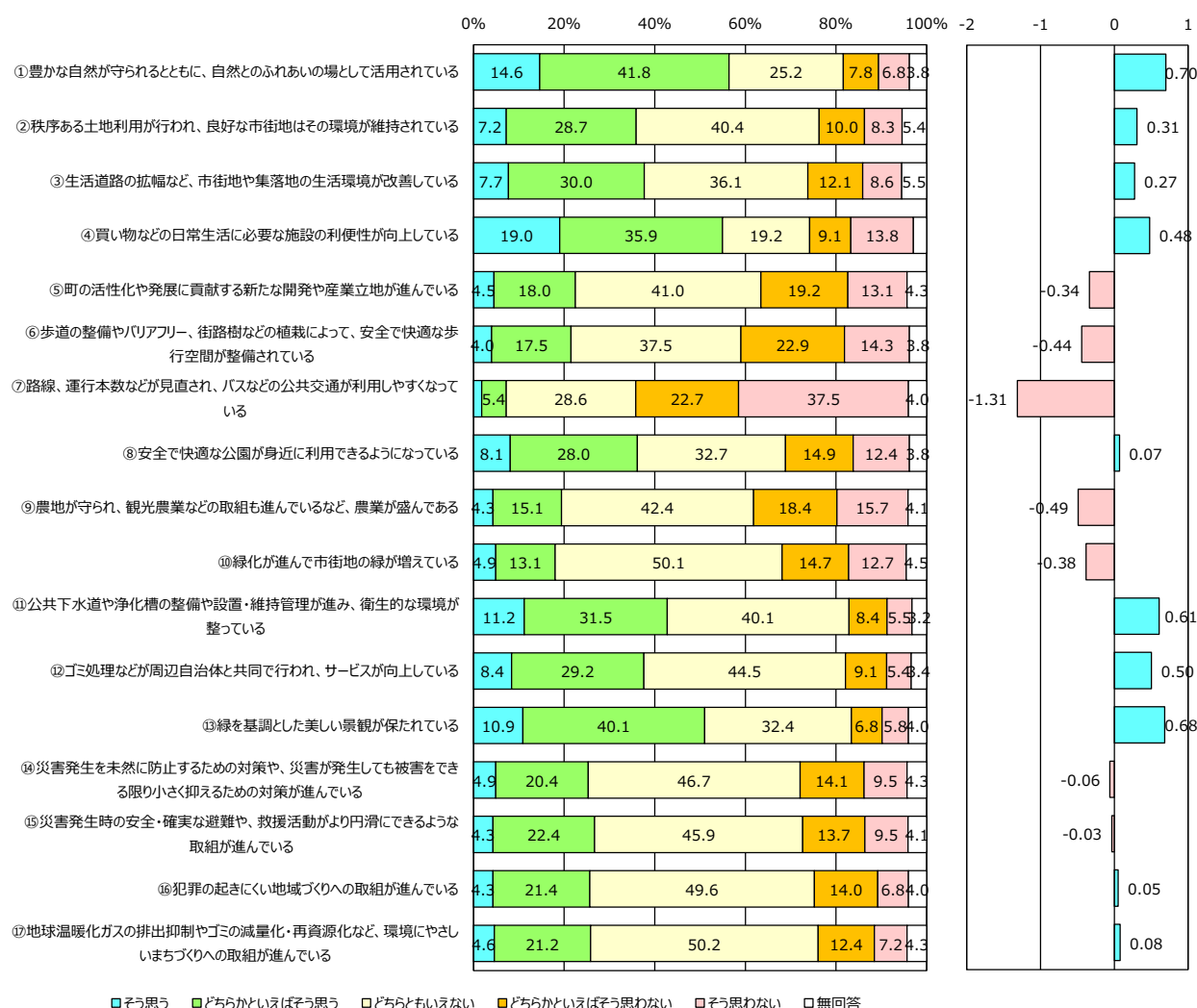
- アフターコロナやウィズコロナなど、今後の「新たな生活様式」を見据えたまちづくりとしては、「三密を回避できる、緑地や農地などの自然を活かした余暇空間の創出」が42.4%で最も多く、「宅配の増大など物流需要の高まりに対応した、物流拠点の受け皿の確保と誘致」の34.1%、「時差出勤や三密の回避に対応した公共交通の実現」の33.2%、「接触が回避できる移動手段である、自家用車の利用増加に対応した道路整備」の31.0%、「オフィス機能の分散化・郊外化に対応した、受け皿の確保と企業誘致」の27.3%が続いているなど、豊かな自然や良好な交通アクセスなどの本町の強みを「新たな生活様式」への転換を契機に活かしていく方向が望まれています。



(4) まちづくりの取り組みについて

①まちづくりの取り組み評価（問10）

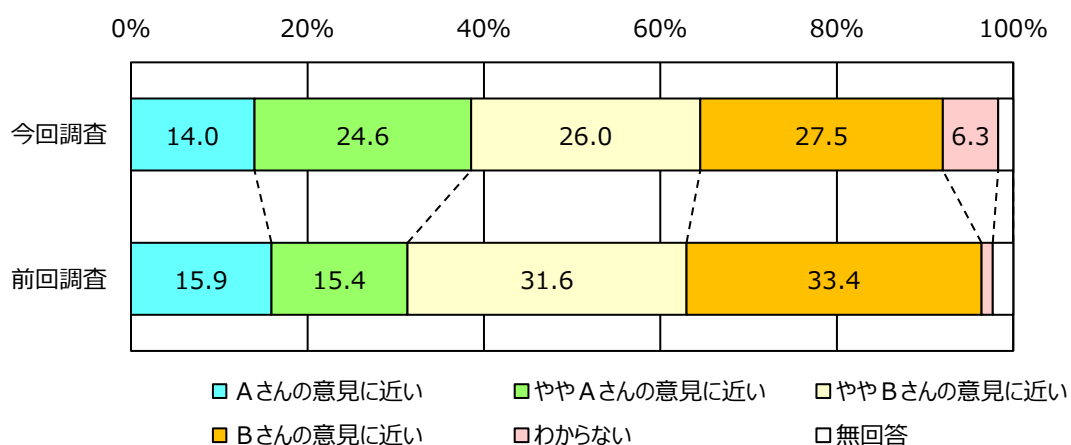
- これまでのまちづくりに対する評価を評価点でみると、「①豊かな自然が守られるとともに、自然とのふれあいの場として活用されている（0.699）」が最も高く、「⑬緑を基調とした美しい景観が保たれている（0.684）」、「⑪公共下水道や浄化槽の整備や設置・維持管理が進み、衛生的な環境が整っている（0.607）」、「⑫ゴミ処理などが周辺自治体と共同で行われ、サービスが向上している（0.504）」、「④買い物などの日常生活に必要な施設の利便性が向上している（0.479）」の順となっています。
- 一方、評価の低い項目は、「⑦路線、運行本数などが見直され、バスなどの公共交通が利用しやすくなっている（-1.314）」、「⑨農地が守られ、観光農業などの取組も進んでいるなど、農業が盛んである（-0.489）」、「⑥歩道の整備やバリアフリー、街路樹などの植栽によって、安全で快適な歩行空間が整備されている（-0.442）」、「⑩緑化が進んで市街地の緑が増えている（-0.382）」、「⑤町の活性化や発展に貢献する新たな開発や産業立地が進んでいる（-0.337）」の順となっています。



(5) 将来のまちづくりの取り組みについて

①まちづくりの指向性（問11）

- まちづくりの指向性について、Aさん、Bさんの意見のどちらに近いかなどを、
「やや」を含めた「Aさんの意見に近い」の比率は38.6%、「やや」を含めた「Bさん
の意見に近い」の比率は53.5%で、「成熟化に向けた取り組みを重視する」という考え方
が半数を超えました。
- しかしながら、前回調査と比較すると、「やや」を含めた「Aさんの意見に近い」の比
率は31.3%、「Bさんの意見に近い」の比率は65.0%で、「成熟化指向」から「拡大指向」
へと考え方が移行していることがうかがえます。
- 地区別にみると、中村上地区で「拡大」の指向が、他の地区と比較すると強くなってい
ます。
- 年齢による指向性には大きな違いが見いだしにくくなっていますが、年齢が低いほど
「拡大」、高いほど「成熟化」が指向されていることがうかがえます。



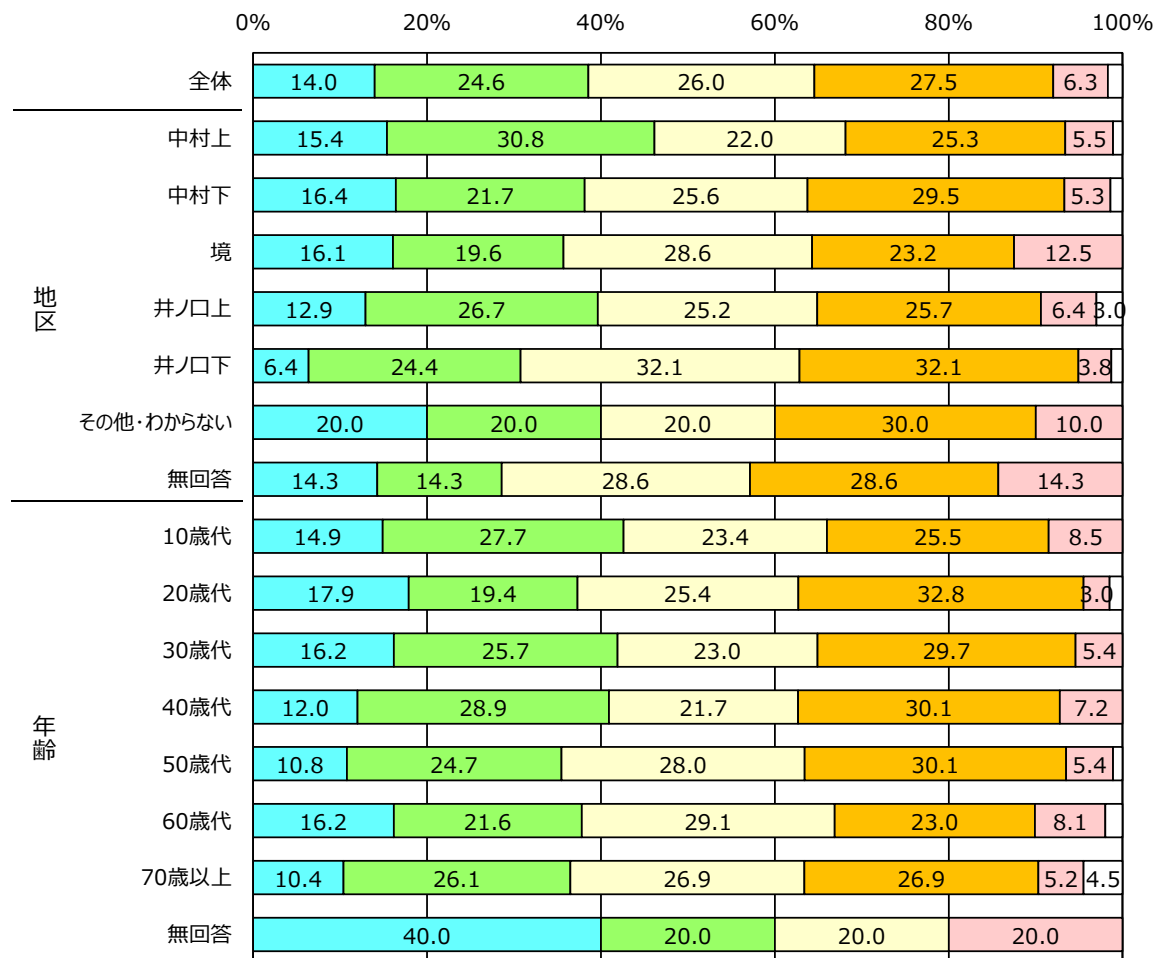
Aさんの意見

今後も活力やにぎわいが感じられ、一層の発展ができるように市街地を広げ、人口の受け皿となる住宅地開発や工場などの企業誘致を積極的に進めるほうがよい。

Bさんの意見

拡大志向のまちづくりを進めるのではなく今の市街地を維持し、自然環境の保全や良好なまちなみの形成など、うるおいや心地よさを感じられる町として、成熟化に向けた取り組みを重視した方がよい

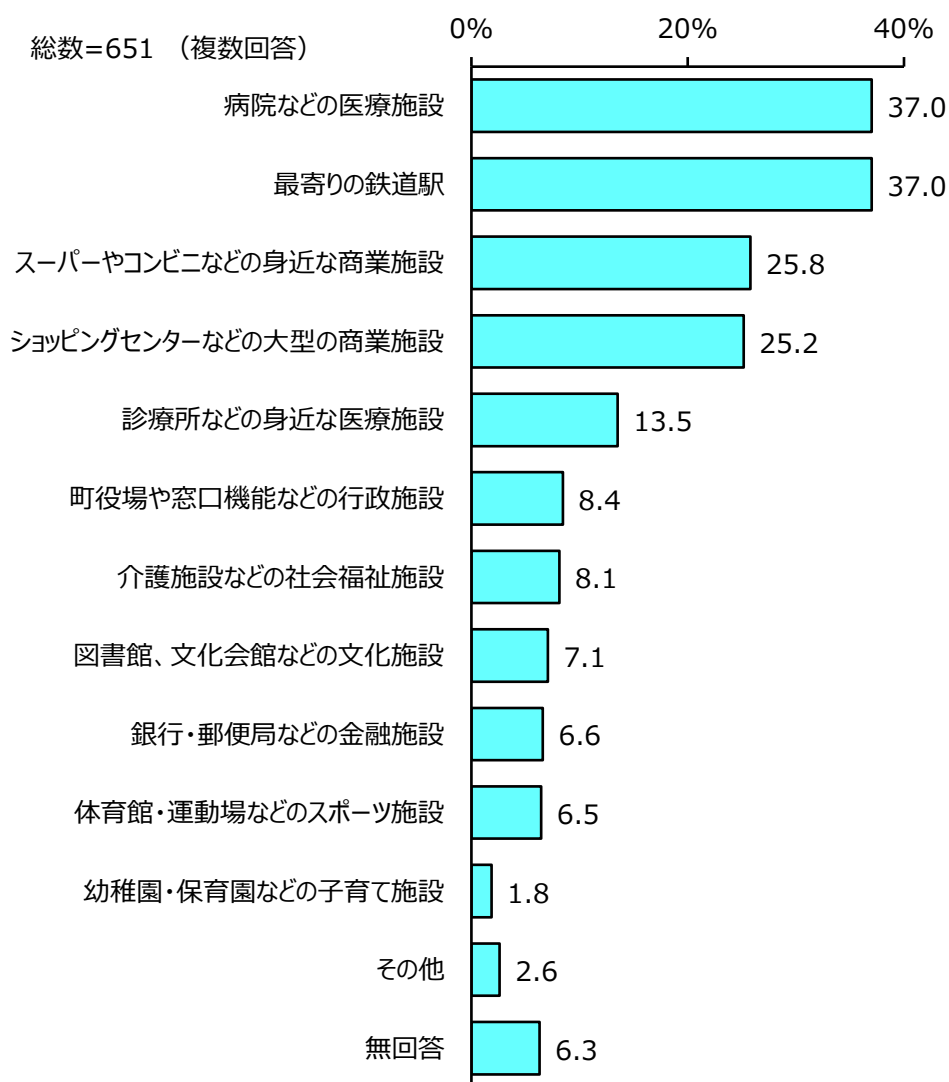
【年齢・居住地区とのクロス集計】



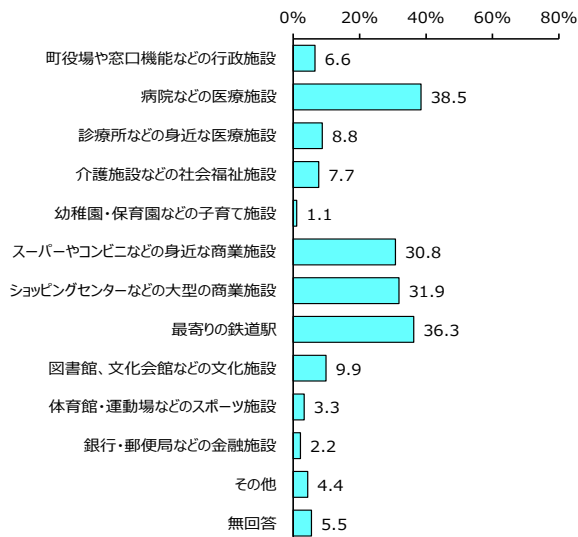
☐ Aさんの意見に近い
 ☐ ややAさんの意見に近い
 ☐ ややBさんの意見に近い
 ☐ Bさんの意見に近い
 ☐ わからない
 ☐ 無回答

②生活に必要な施設のうち、特に行きやすくしてほしい施設（問12）

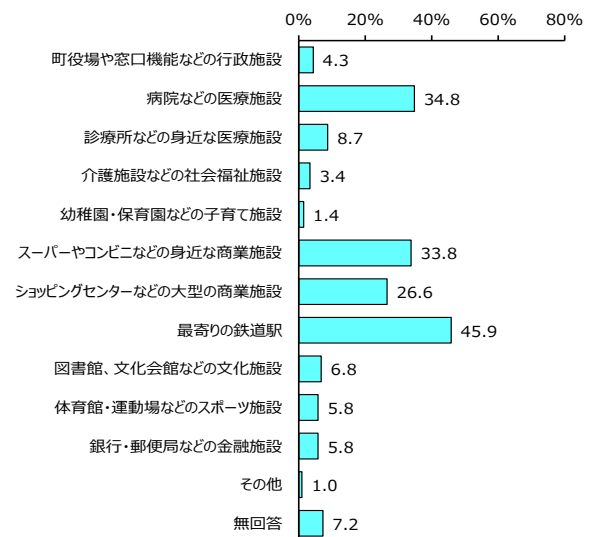
- 生活に必要な施設のうち、特に行きやすくしてほしい施設を町全体としてみると、「病院などの医療施設」と「最寄りの鉄道駅」が37.0%で最も多く、「スーパーやコンビニなどの身近な商業施設」の25.8%、「ショッピングセンターなどの大型の商業施設」の25.2%、「診療所などの身近な医療施設」の13.5%が続いています。
- 地区別にみると、中村下地区及び境地区では「最寄りの鉄道駅」、中村上地区、井ノ口上・井ノ口下地区では「病院などの医療施設」の比率が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、30歳代までは「最寄りの鉄道駅」、40歳代以上では「病院などの医療施設」の比率が最も高くなっています。



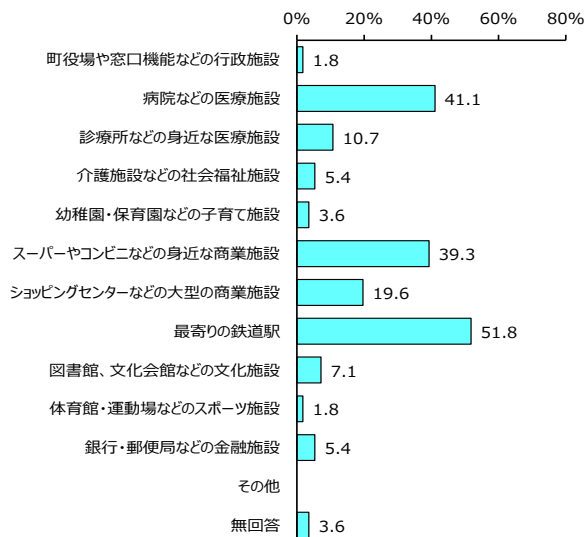
<中村上地区>



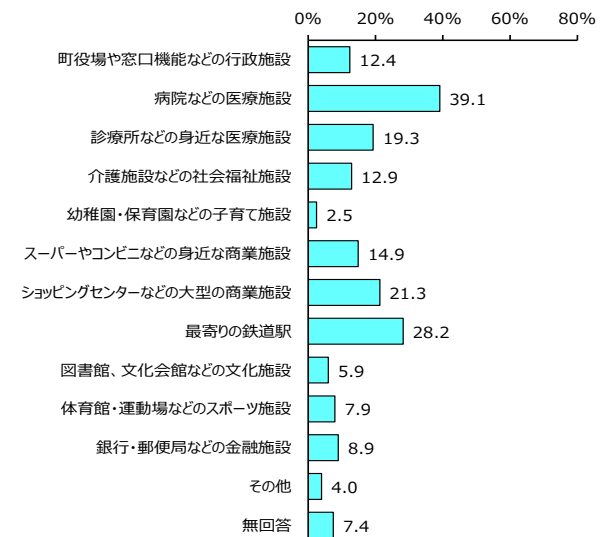
<中村下地区>



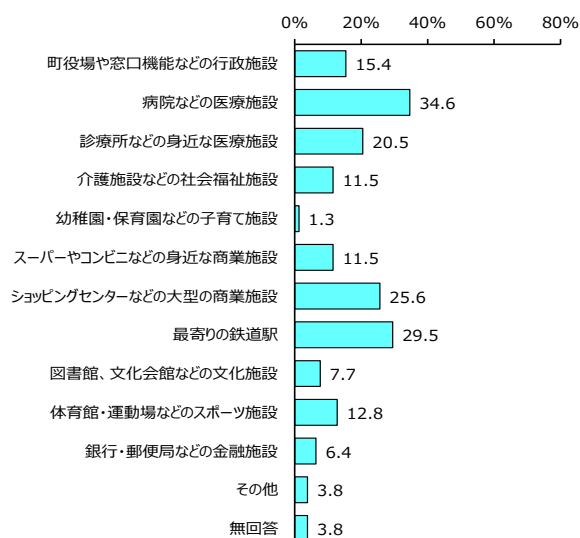
<境地区>



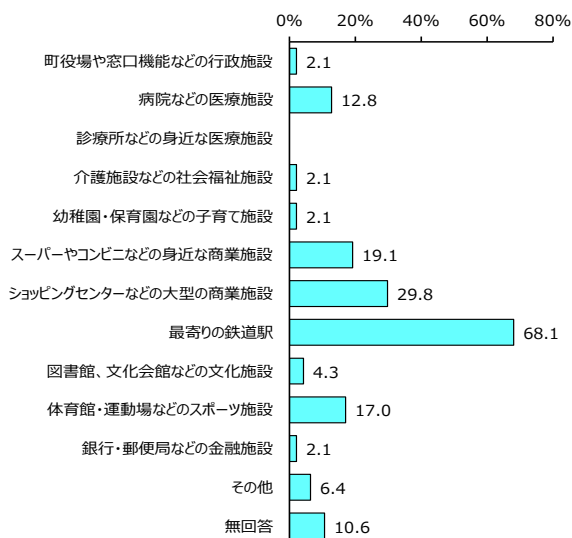
<井ノ口上地区>



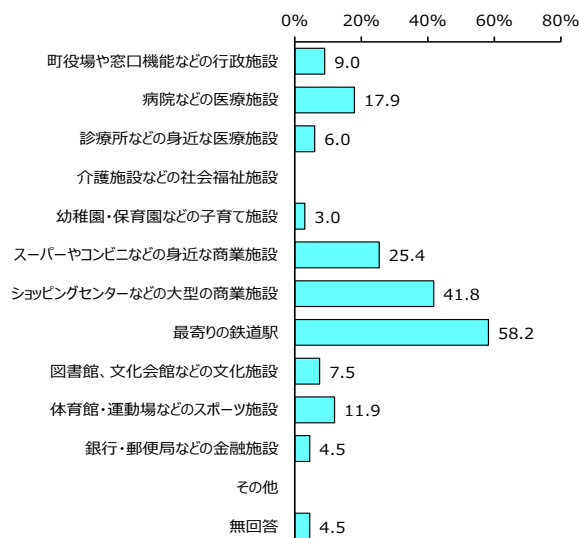
<井ノ口下地区>



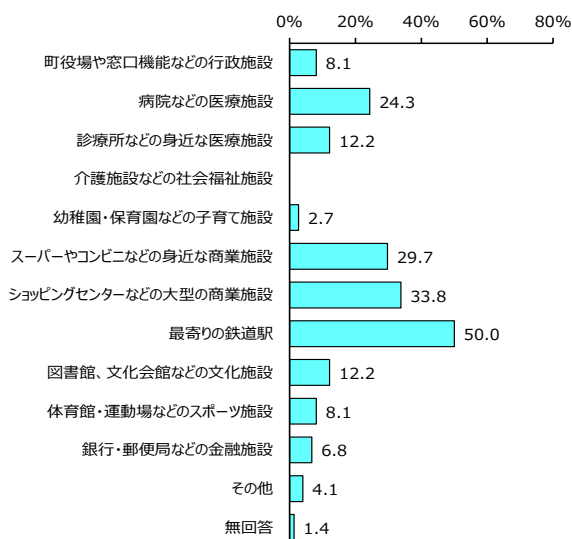
<10歳代>



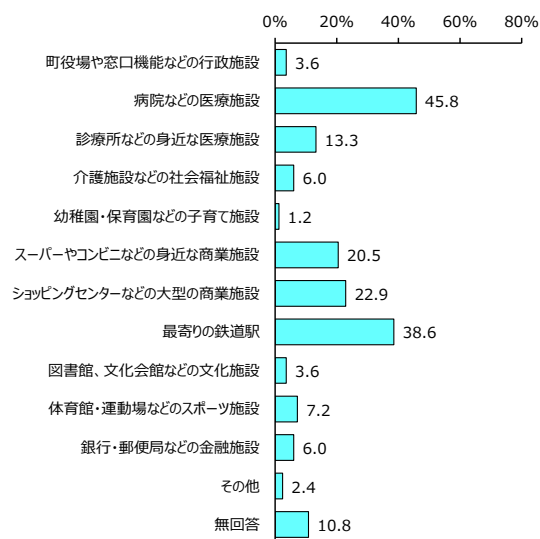
<20歳代>



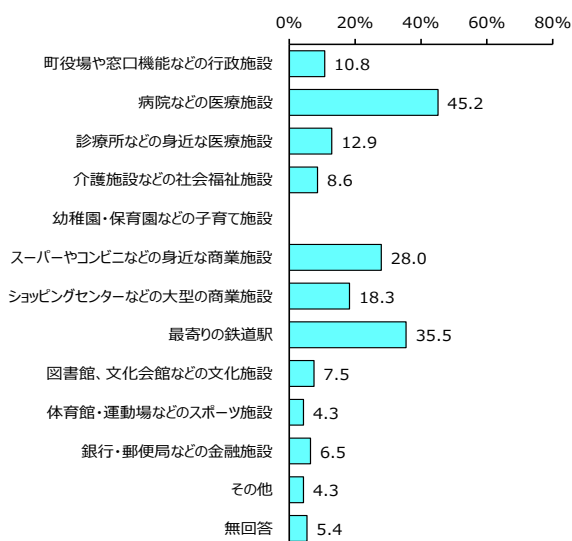
<30歳代>



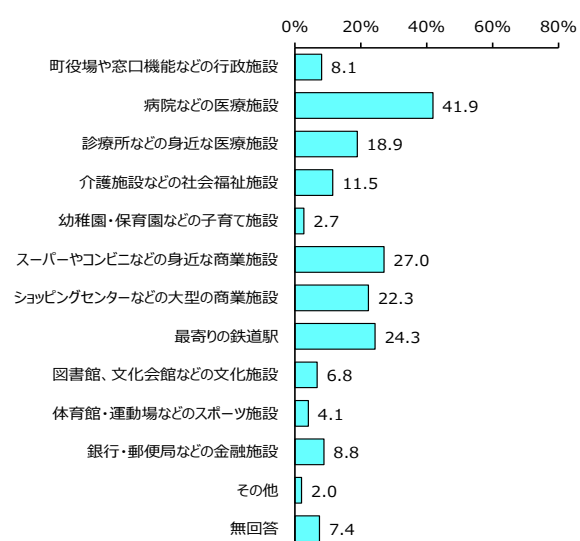
<40歳代>



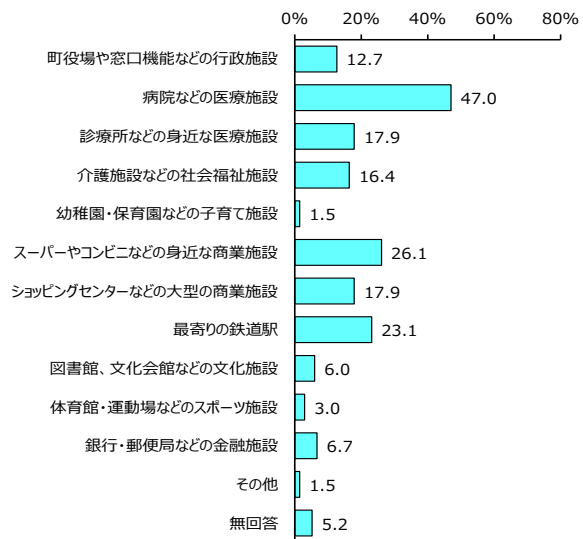
<50歳代>



<60歳代>

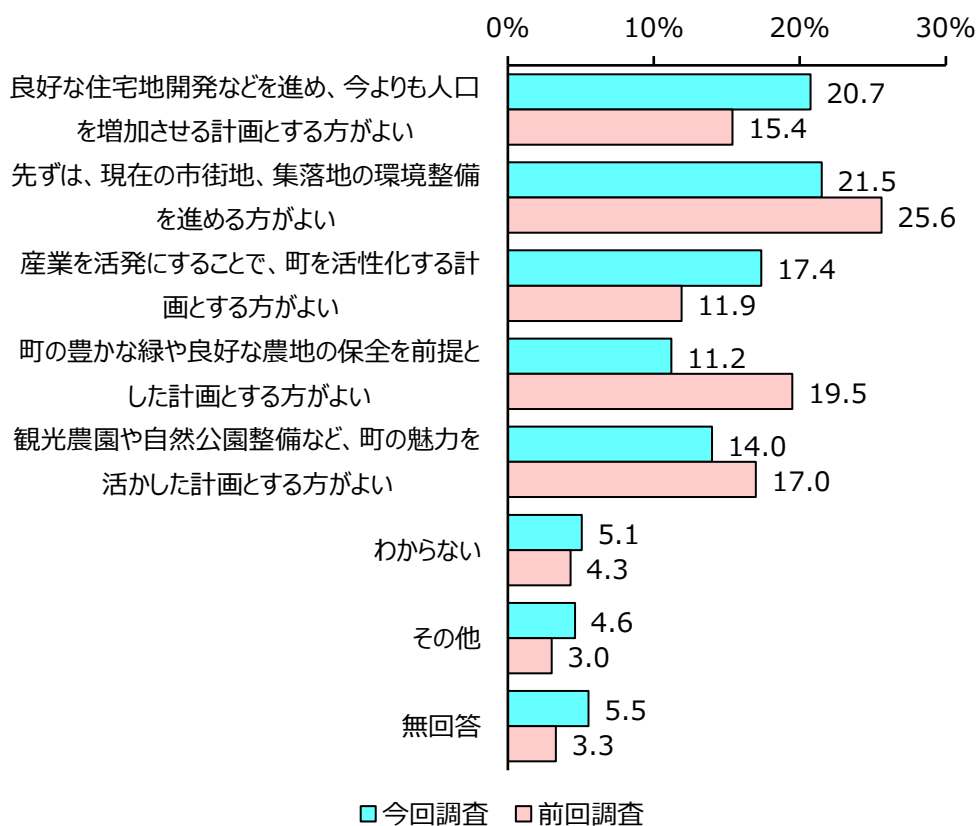


<70歳以上>

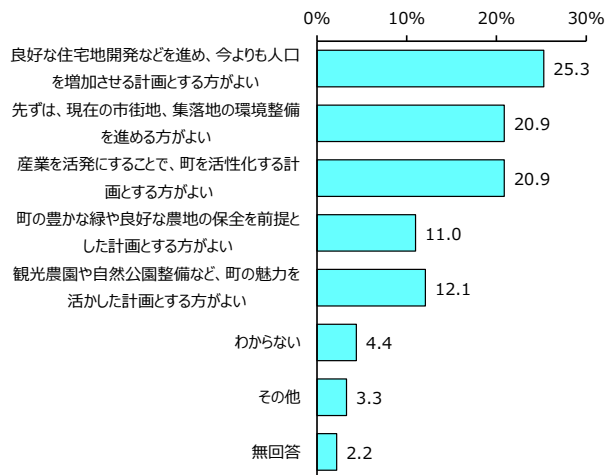


③今後進めるべき、まちづくりの方向性（問13）

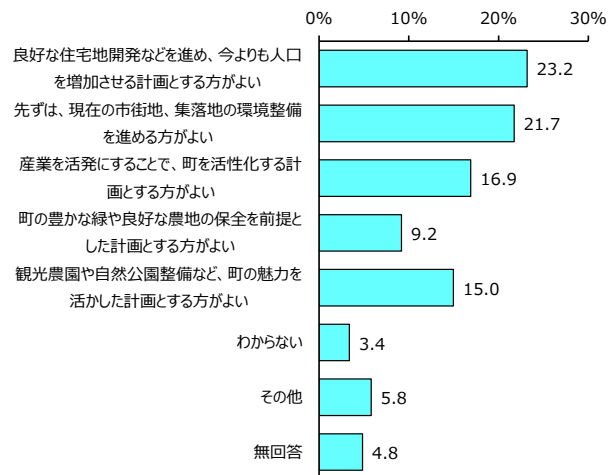
- 今後進めるべき、まちづくりの方向性を町全体としてみると、「まずは、現在の市街地、集落地の環境整備を進める方がよい」の比率が21.5%で最も高くなっていますが、「良好な住宅地開発などを進め、今よりも人口を増加させる計画とする方がよい」が20.7%でほとんど差異がなく、「産業を活発にすることで、町を活性化させる計画とする方がよい」の17.4%が続くなど、成熟化に向けた環境整備と人口増加や活性化に向けた開発とが拮抗する結果となっています。
- 前回調査と比較すると、住宅地開発や産業活性化など「拡大志向」の回答の比率が高まり、環境整備や自然等の保全など、「成熟化指向」の比率が低下しています。
- 地区別にみると、中村上・中村下地区及び井ノ口上地区では「良好な住宅地開発などを進め、今よりも人口を増加させる計画とする方がよい」、境地区では「産業を活発にすることで、町を活性化させる計画とする方がよい」、井ノ口下地区では「まずは、現在の市街地、集落地の環境整備を進める方がよい」の比率が最も高く、地区によって指向性が異なる結果となっています。
- 年齢別にみると、10歳代及び30歳代では「産業を活発にすることで、町を活性化させる計画とする方がよい」、20歳代、40歳代及び50歳代では「まずは、現在の市街地、集落地の環境整備を進める方がよい」、60歳代及び70歳以上では「良好な住宅地開発などを進め、今よりも人口を増加させる計画とする方がよい」の比率が最も高くなっています。



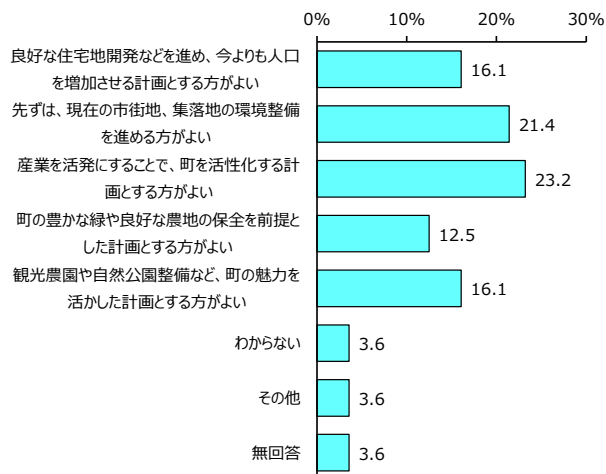
<中村上地区>



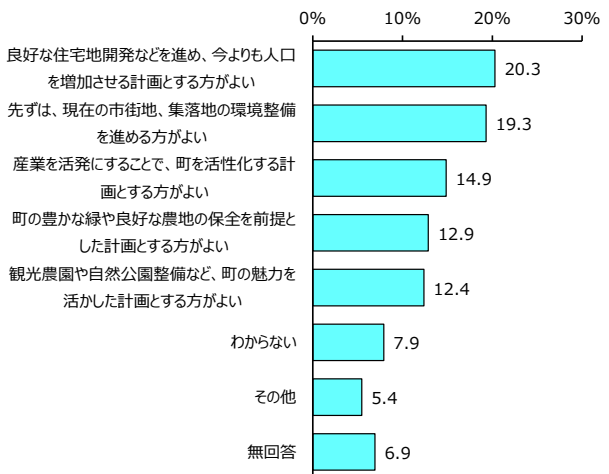
<中村下地区>



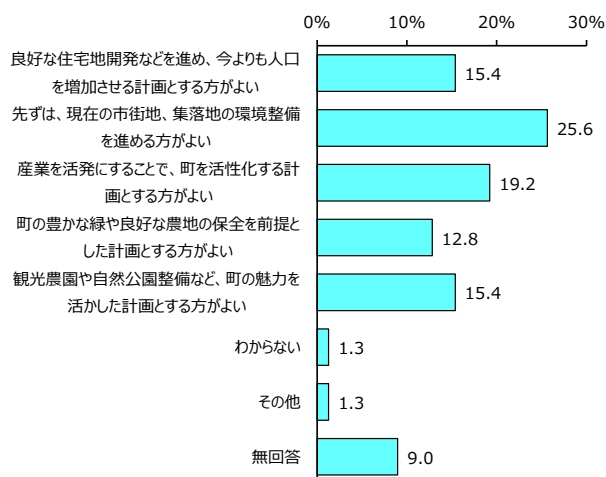
<境地区>



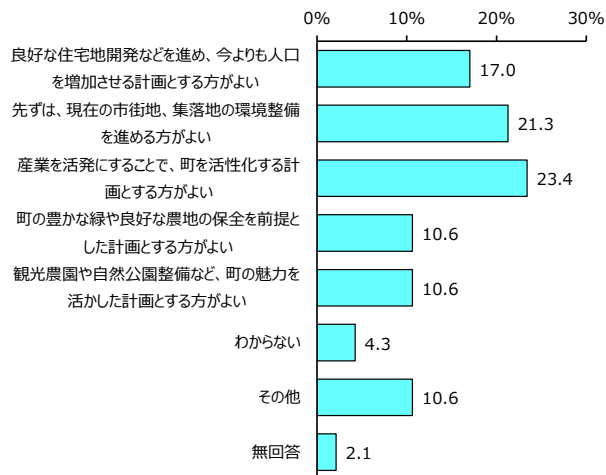
<井ノ口上地区>



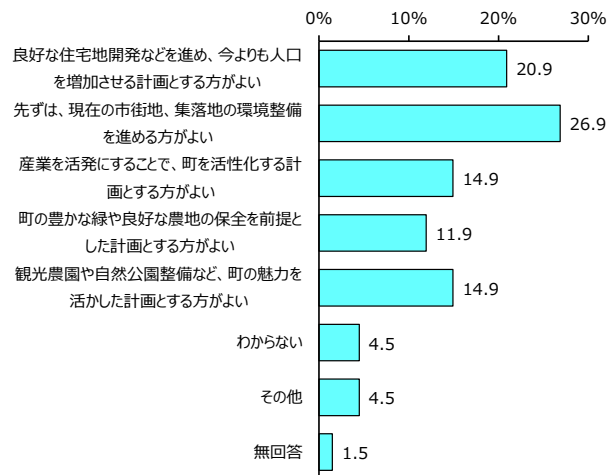
<井ノ口下地区>



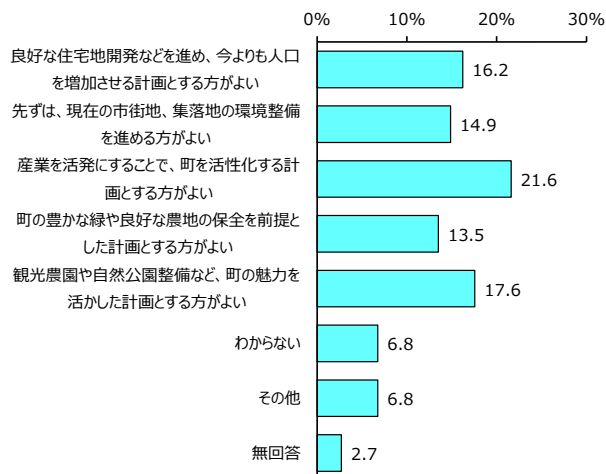
<10歳代>



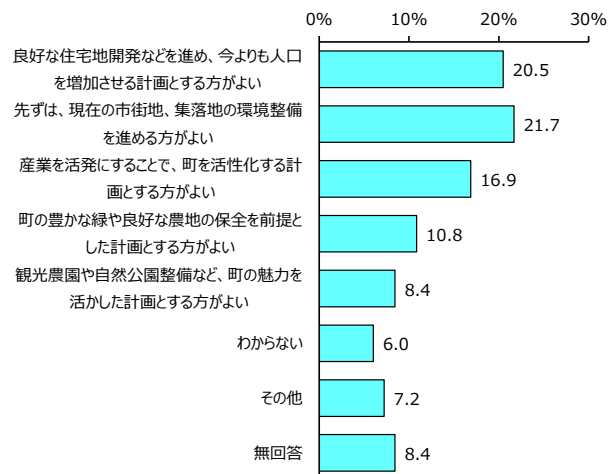
<20歳代>



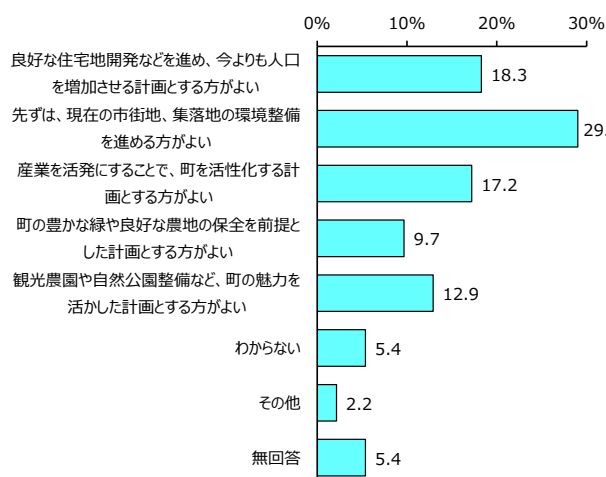
<30歳代>



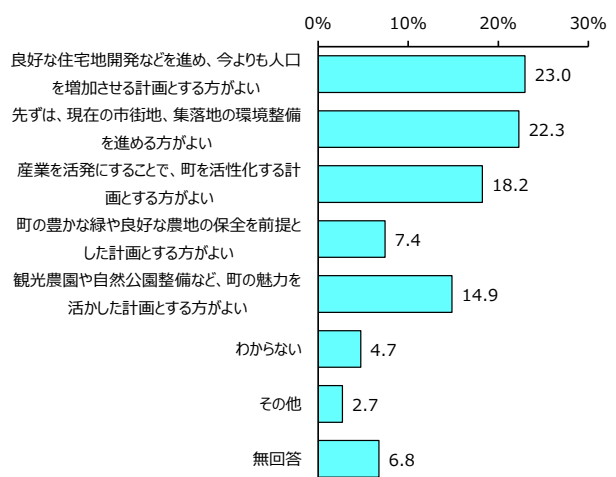
<40歳代>



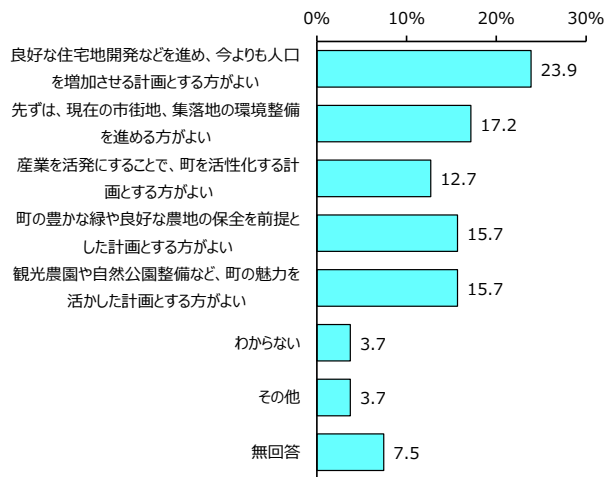
<50歳代>



<60歳代>

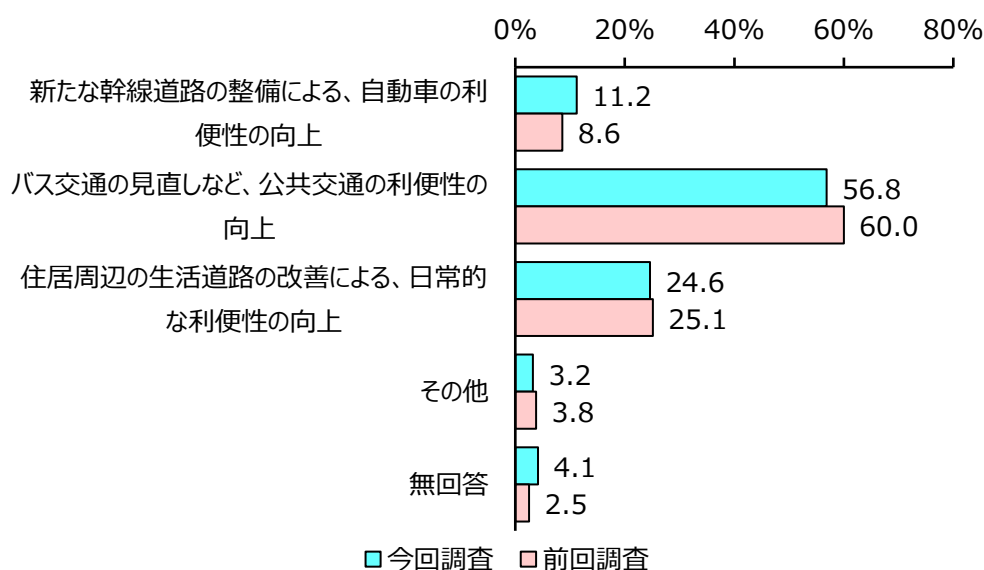


<70歳以上>

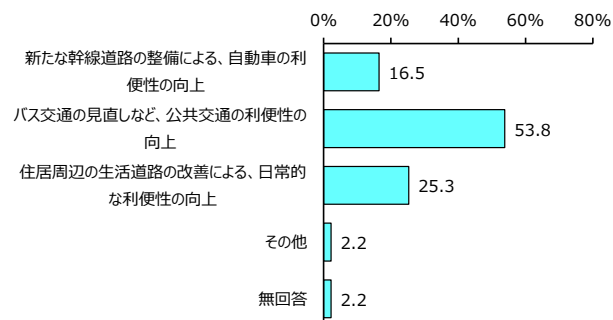


④交通体系の整備として優先すべき施策（問14）

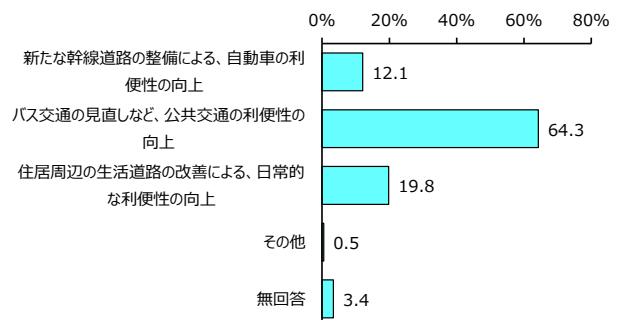
- 今後進めるべき、まちづくりの方向性を町全体としてみると、「バス交通の見直しなど、公共交通の利便性の向上」の比率が56.8%で最も高く、「住居周辺の生活道路の改善による、日常的な利便性の向上」の24.6%、「新たな幹線道路の整備による、自動車の利便性の向上」の11.2%が続いています。
- 前回調査と比較すると、公共交通の利便性や身近な道路の改善は比率が低下し、自動車利便性の向上に寄与する新たな幹線道路の整備の比率が高まっています。
- 地区別にみると、いずれの地区も「バス交通の見直しなど、公共交通の利便性の向上」が半数を超えて比率が高くなっていますが、中村上地区、井ノ口上・井ノ口下地区で「住居周辺の生活道路の改善による、日常的な利便性の向上」の比率が他の地区と比較して高くなっています。
- 年齢別にみると、いずれの年齢層も「バス交通の見直しなど、公共交通の利便性の向上」が概ね半数を超えて回答が多くなっていますが、60歳代で「住居周辺の生活道路の改善による、日常的な利便性の向上」の比率が他の年齢層と比較してやや高くなっています。



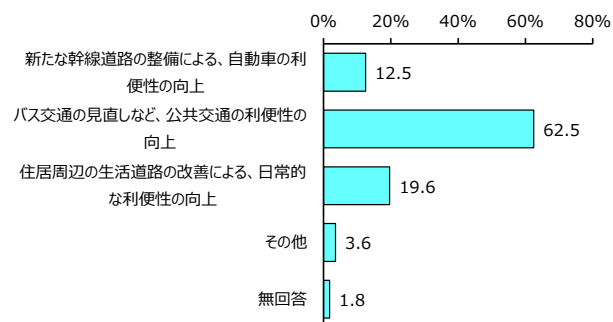
<中村上地区>



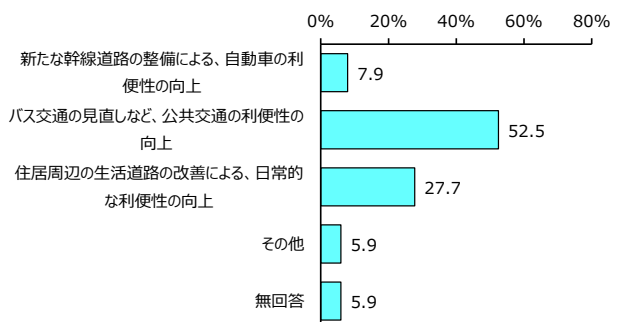
<中村下地区>



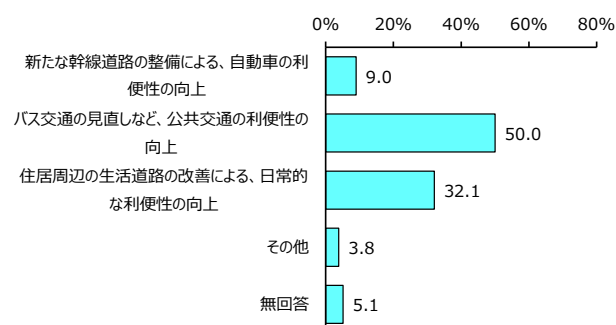
<境地区>



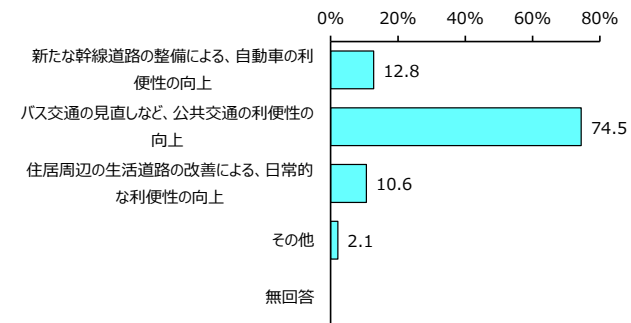
<井ノ口上地区>



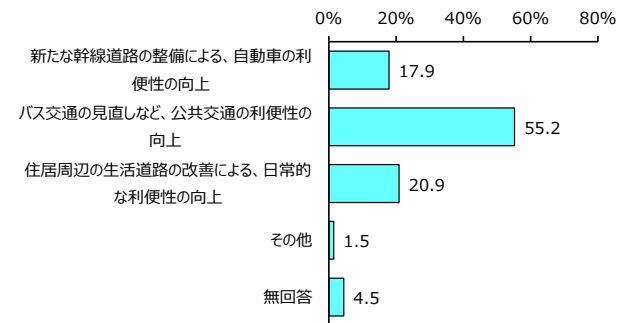
<井ノ口下地区>



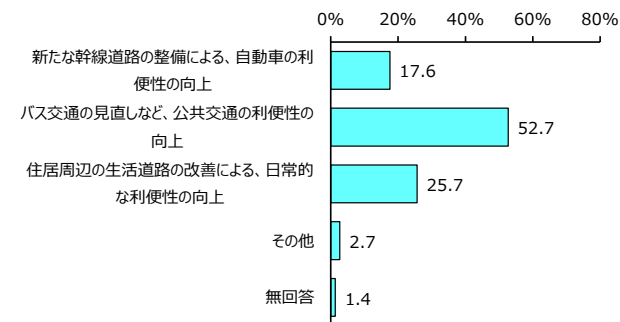
<10歳代>



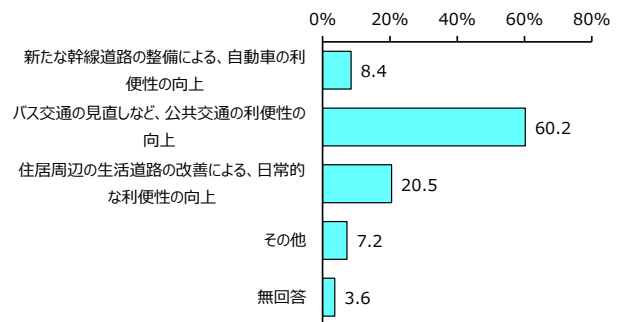
<20歳代>



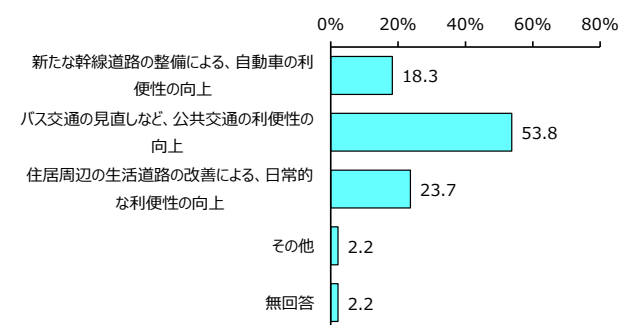
<30歳代>



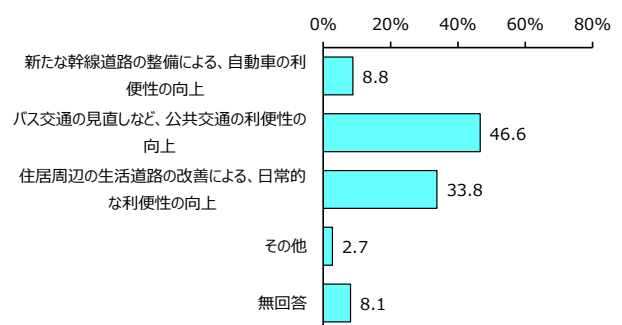
<40歳代>



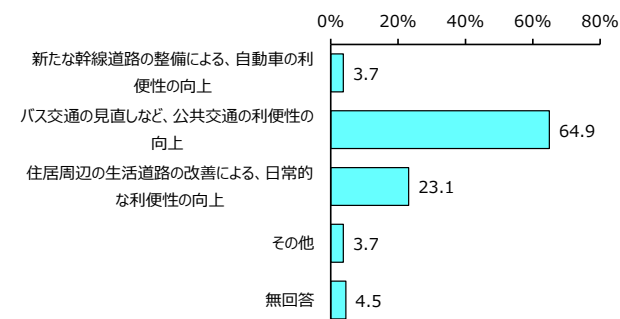
<50歳代>



<60歳代>

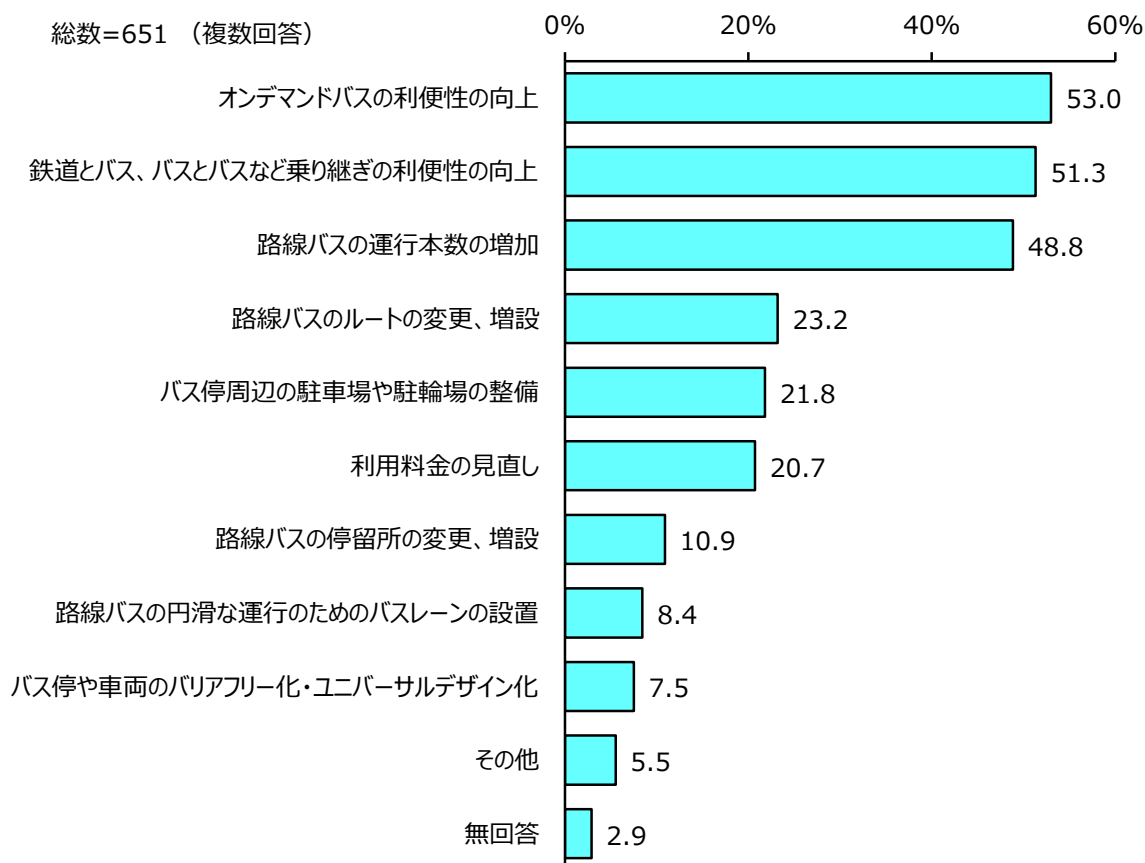


<70歳以上>

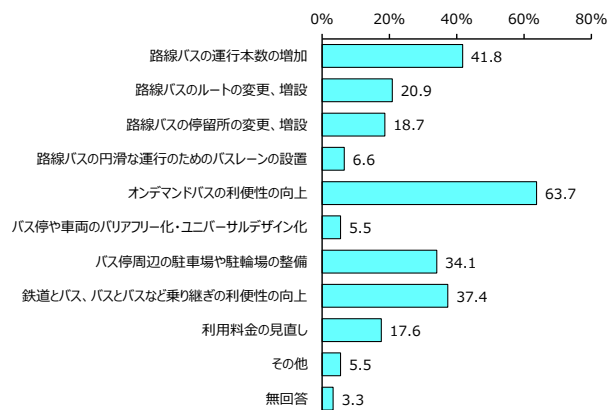


④バスなどの公共交通の利用者を増やすために重要だと考える取組（問15）

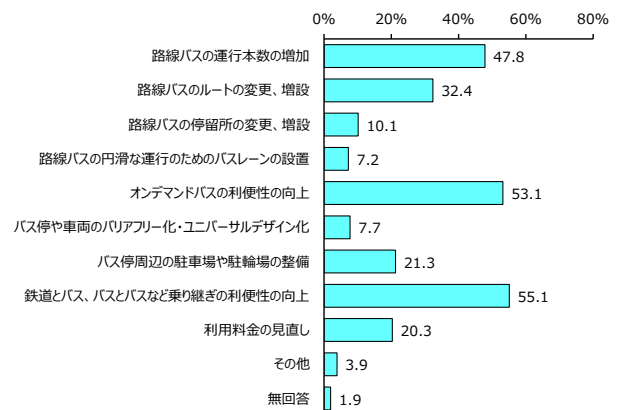
- バスなどの公共交通の利用者を増やすために重要だと考える取組を町全体としてみると、「オンデマンドバスの利便性の向上」の比率が53.0%で最も高く、「鉄道とバス、バスとバスなど乗り継ぎの利便性の向上」の51.3%、「路線バスの運行本数の増加」の48.8%が続いています。
- 地区別にみると、中村上地区及び境地区で「オンデマンドバスの利便性の向上」、中村下地区、井ノ口上・井ノ口下地区で「鉄道とバス、バスとバスなど乗り継ぎの利便性の向上」の比率が最も高くなっています。
- 年齢別にみると、年齢層が低いほど「路線バスの運行本数の増加」の比率が高くなっており、年齢層が高いほど「オンデマンドバスの利便性の向上」の比率が高くなっています。



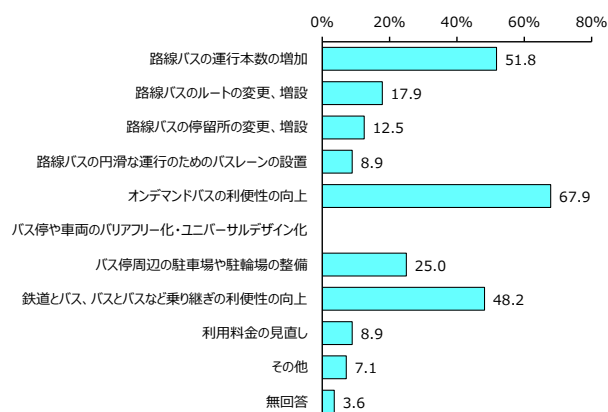
<中村上地区>



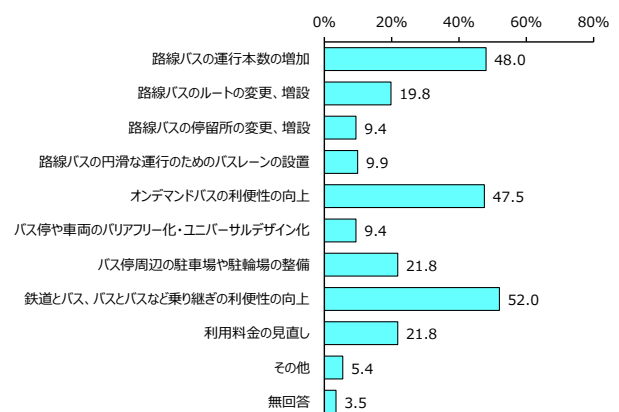
<中村下地区>



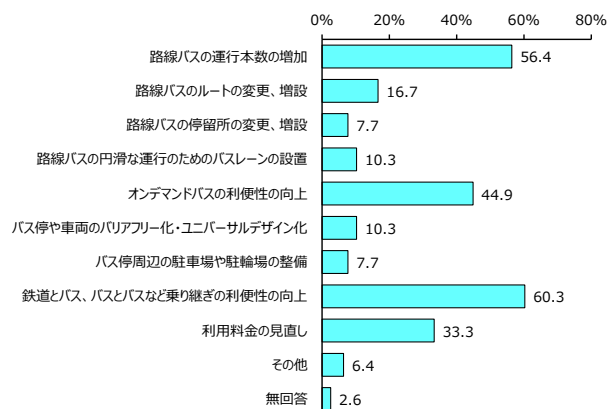
<境地区>



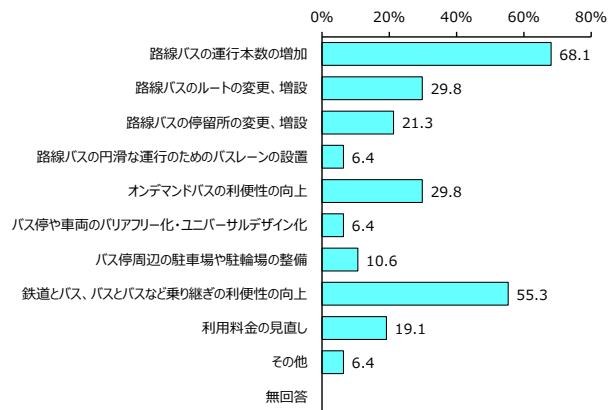
<井ノ口上地区>



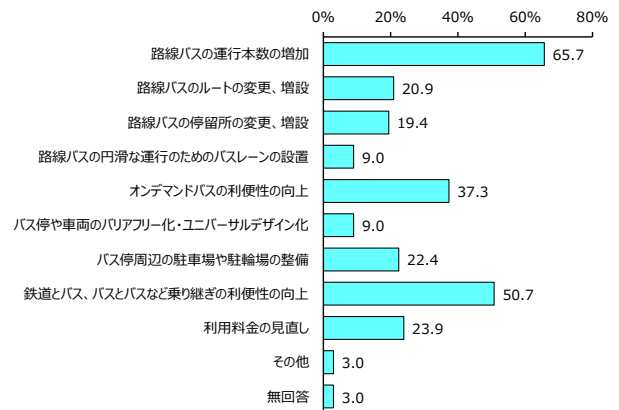
<井ノ口下地区>



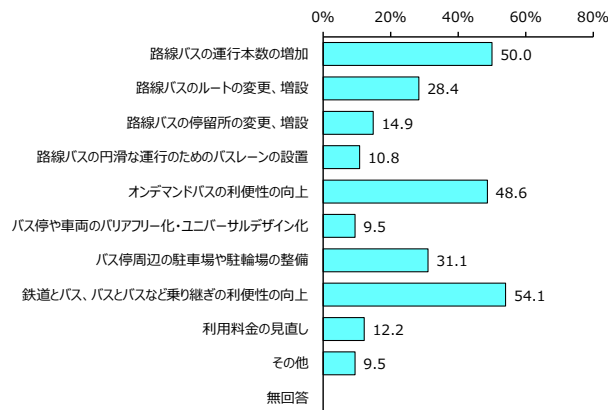
<10歳代>



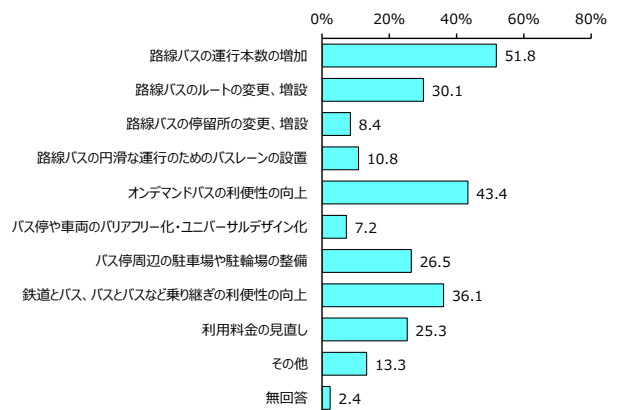
<20歳代>



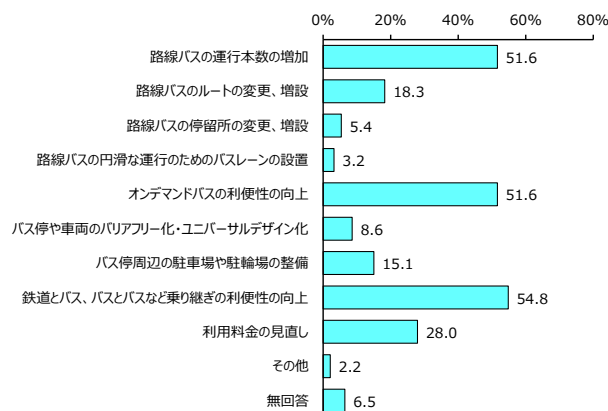
<30歳代>



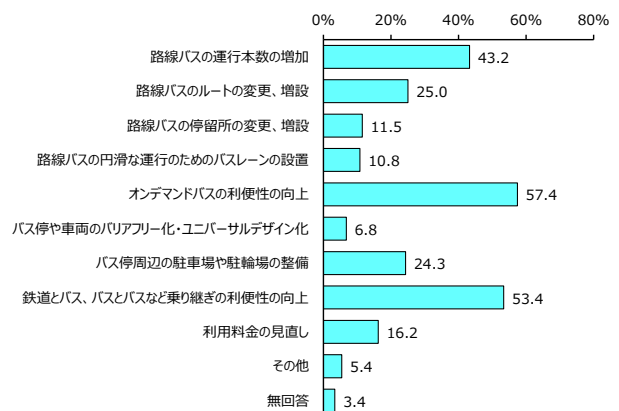
<40歳代>



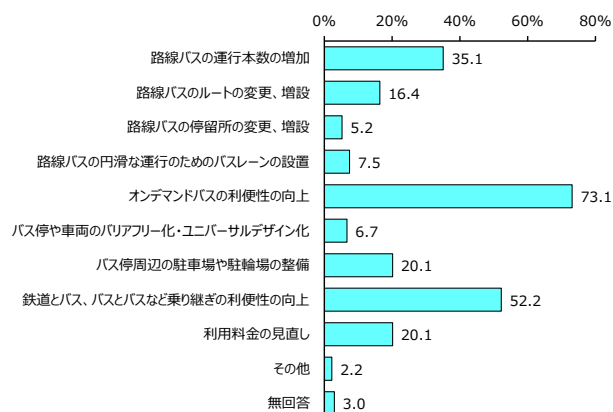
<50歳代>



<60歳代>

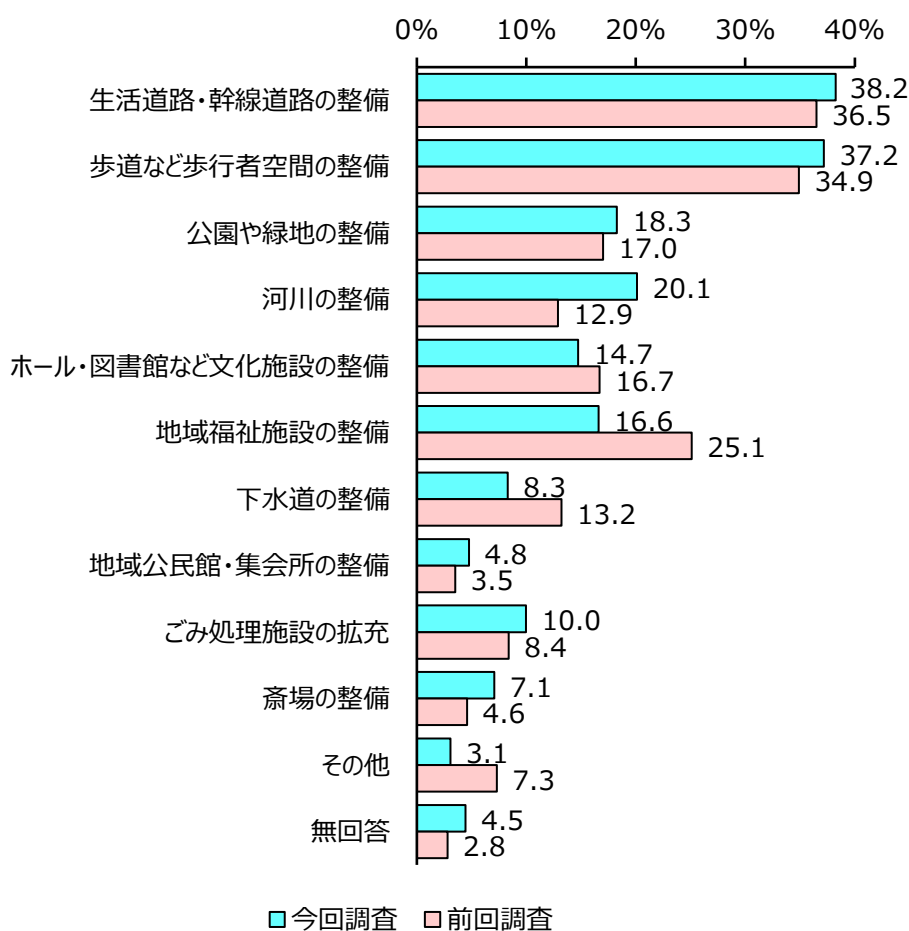


<70歳以上>

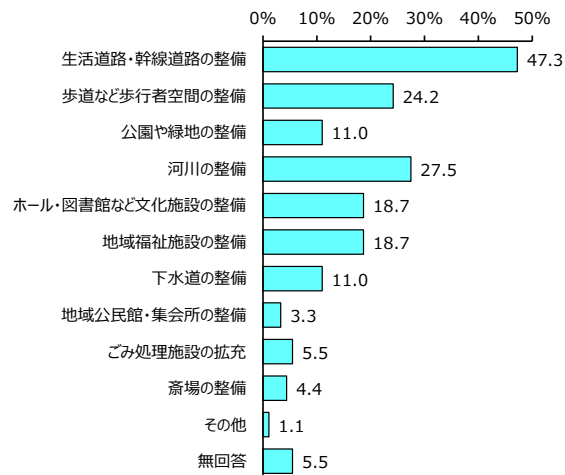


⑤生活基盤施設の整備として優先すべき施策（問16）

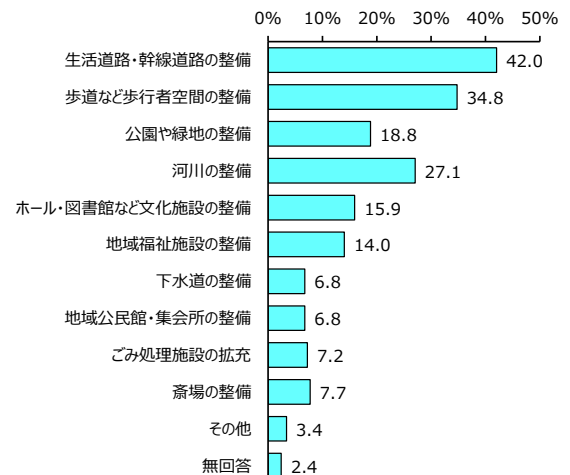
- 生活基盤施設の整備として優先すべき施策を町全体としてみると、「生活道路・幹線道路の整備」の比率が38.2%で最も高く、「歩道など歩行者空間の整備」の37.2%が続くなど、道路基盤に対するニーズが高い結果となっています。
- 前回調査と比較すると、道路や河川整備に対する比率が高まっている一方、文化施設や地域福祉施設、整備の進んだ下水道などへの比率が低下しています。
- 地区別にみると、中村上・中村下地区で「生活道路・幹線道路の整備」や「河川の整備」、境地区で「地域福祉施設の整備」、井ノ口上・井ノ口下地区で「歩道など歩行者空間の整備」の比率が他の地区と比較して高くなっています。
- 年齢別にみると、年齢層による差異が見いだしにくい結果となっていますが、70歳以上で「地域福祉施設の整備」の比率が他の年齢層と比較して高くなっています。



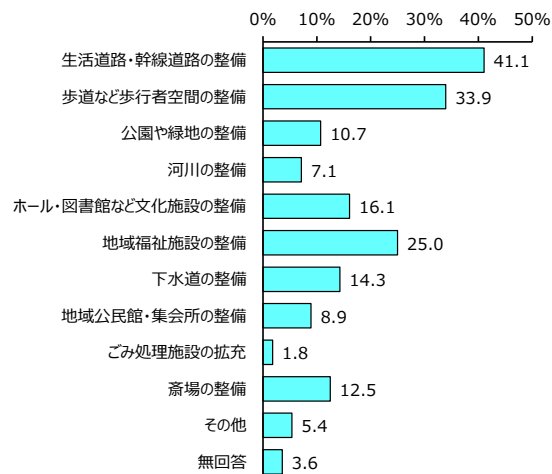
<中村上地区>



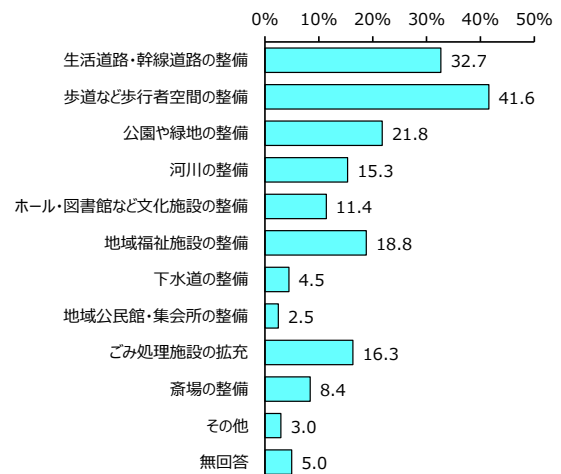
<中村下地区>



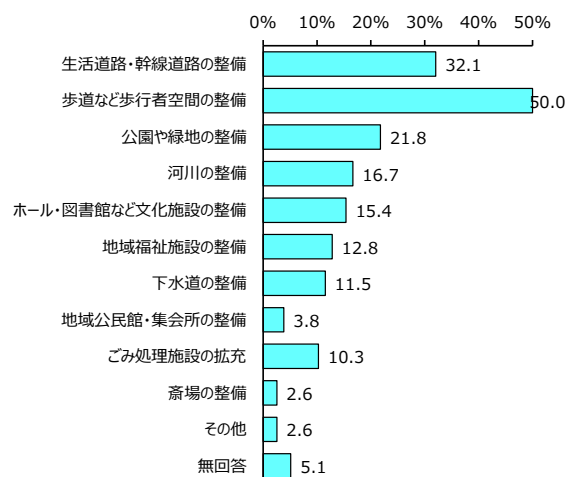
<境地区>



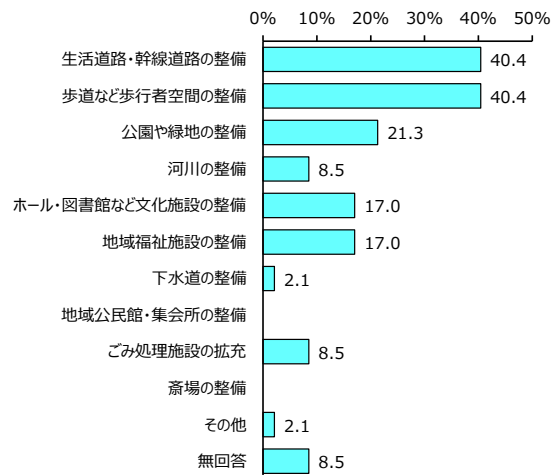
<井ノ口上地区>



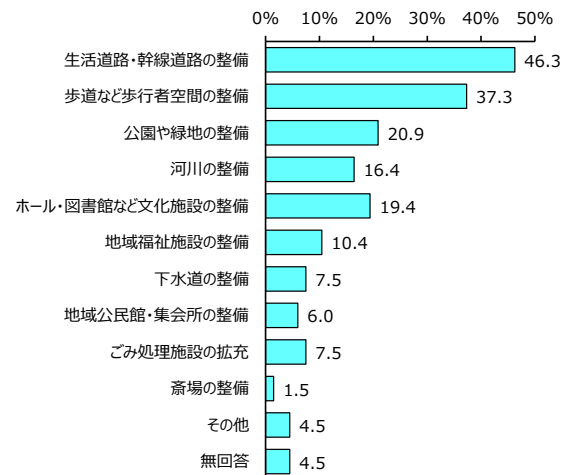
<井ノ口下地区>



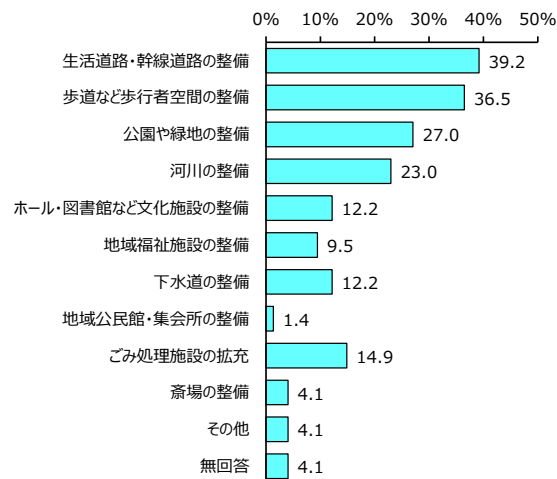
<10歳代>



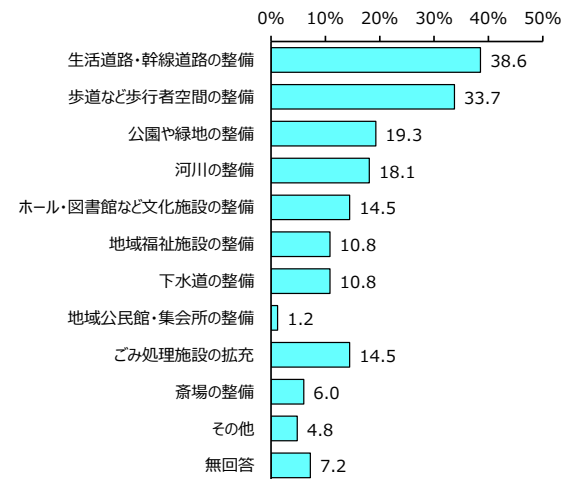
<20歳代>



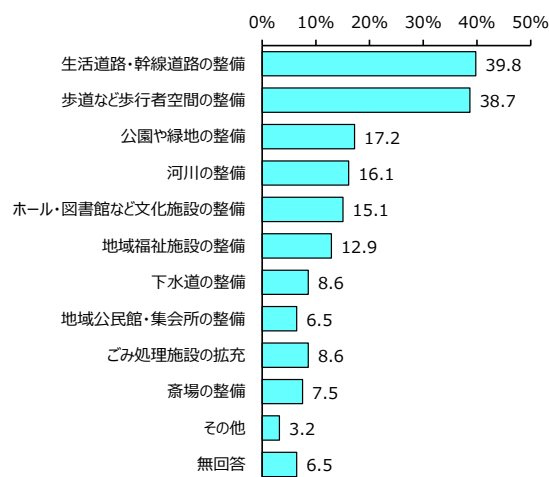
<30歳代>



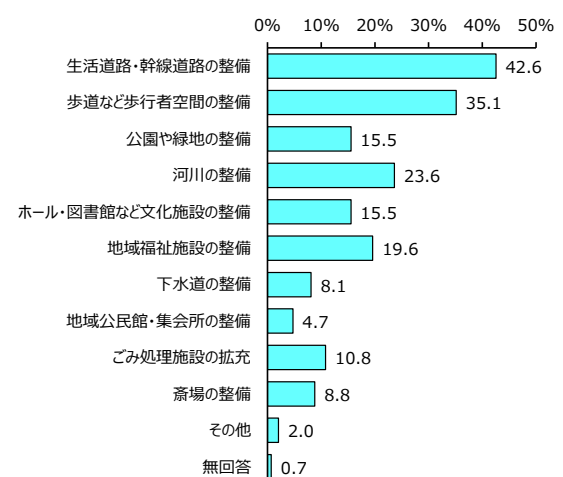
<40歳代>



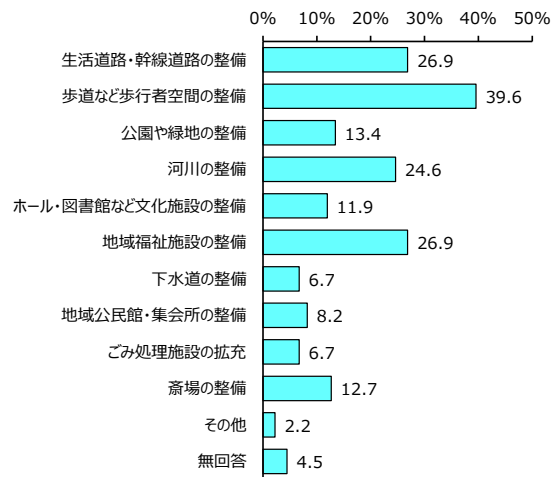
<50歳代>



<60歳代>

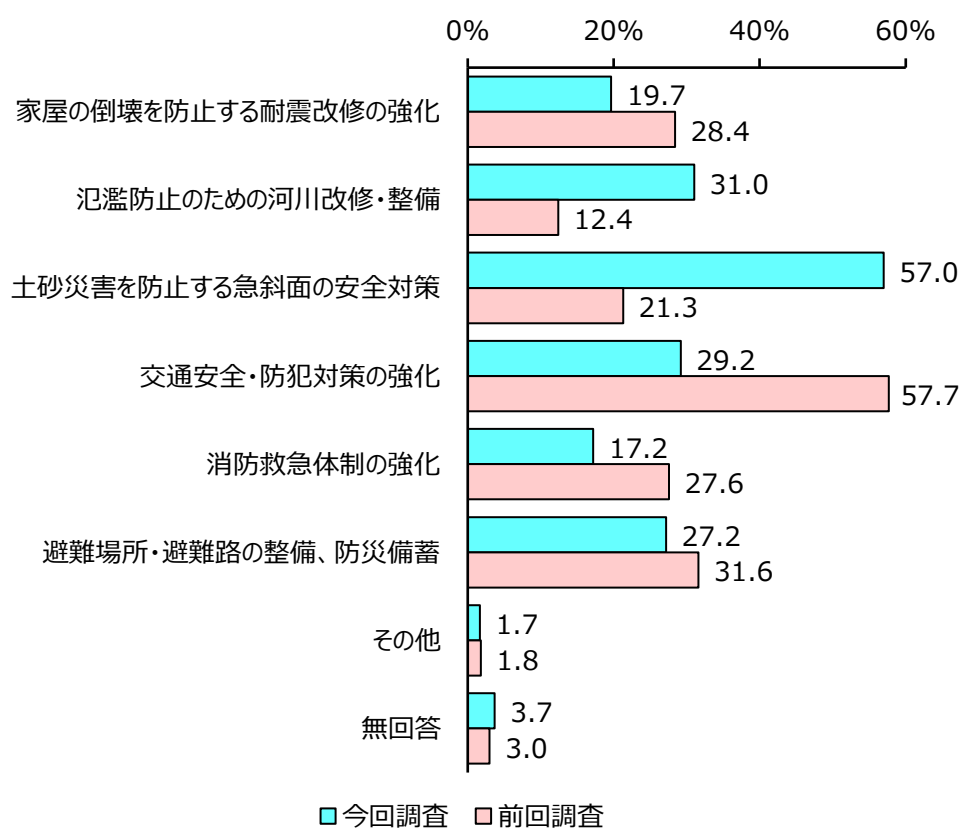


<70歳以上>

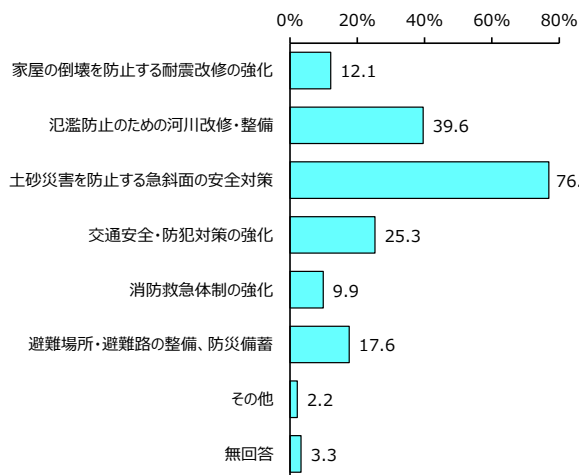


⑥安全なまちづくりのために優先すべき施策（問17）

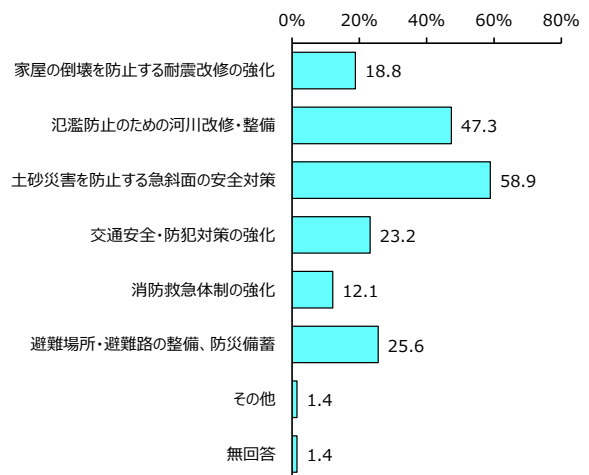
- 安全なまちづくりのために優先すべき施策を町全体としてみると、「土砂災害を防止する急斜面の安全対策」の比率が57.0%で最も高く、「氾濫防止のための河川改修・整備」の31.0%、「交通安全・防犯対策の強化」の29.2%が続いています。
- 前回調査と比較すると、地震による災害や交通安全・防犯に対する取り組みの比率が低下する一方、近年、全国レベルで頻発している水害や土砂災害に対する取り組みの比率が高まっています。
- 地区別にみると、いずれの地区も「土砂災害を防止する急斜面の安全対策」の比率が高くなっていますが、中村上・中村下地区で「氾濫防止のための河川改修・整備」の比率が他の地区と比較して高くなっています。
- 年齢別には、年齢層による大きな差異・傾向はみられません。



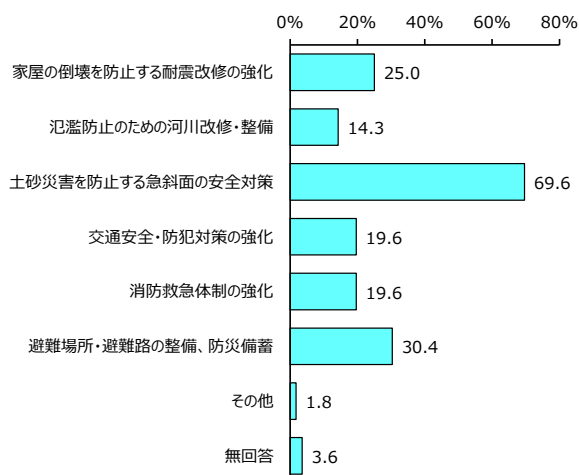
<中村上地区>



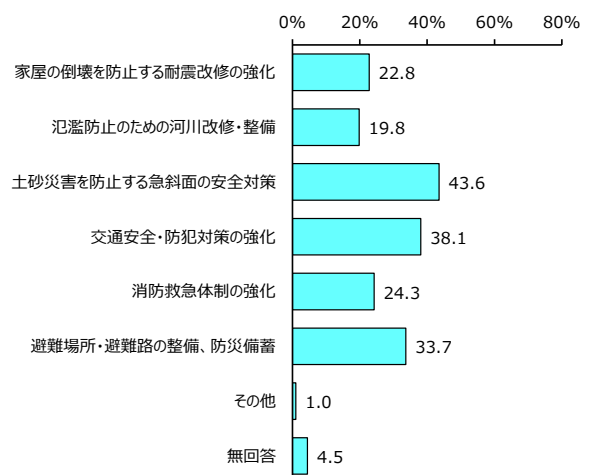
<中村下地区>



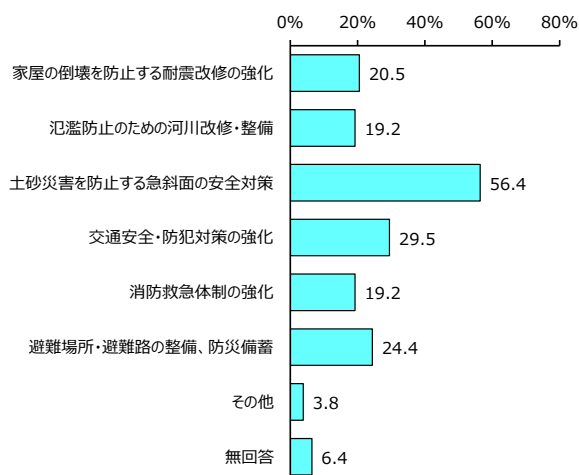
<境地区>



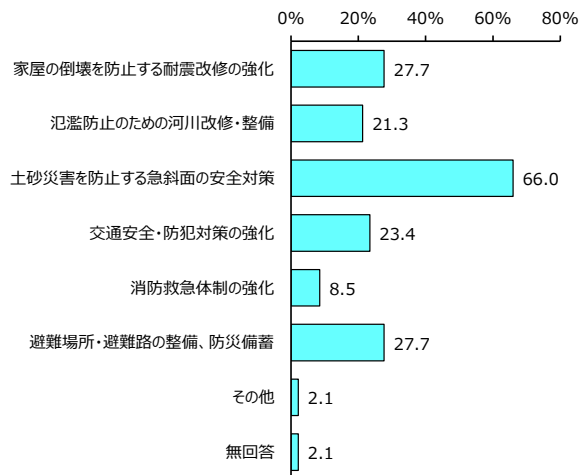
<井ノ口上地区>



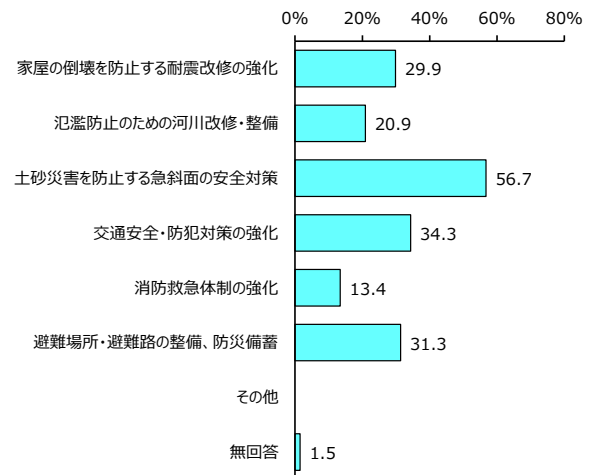
<井ノ口下地区>



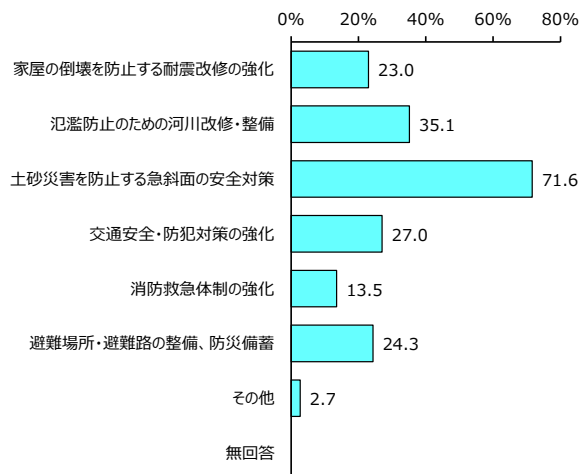
<10歳代>



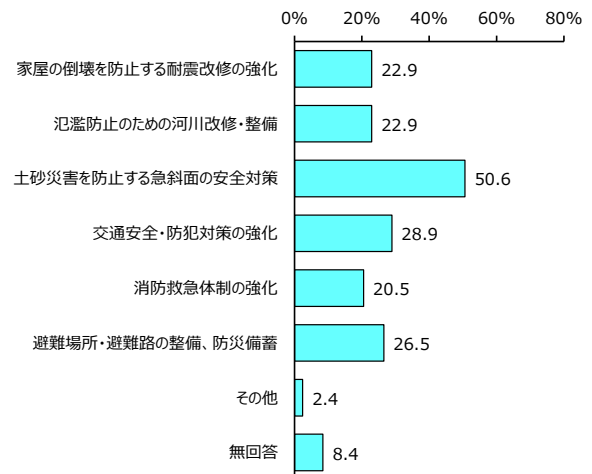
<20歳代>



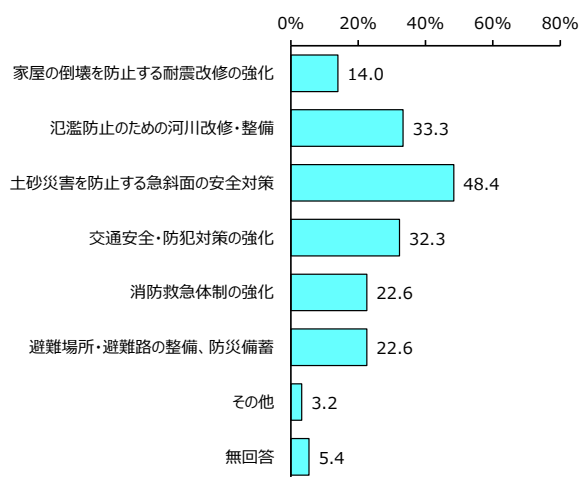
<30歳代>



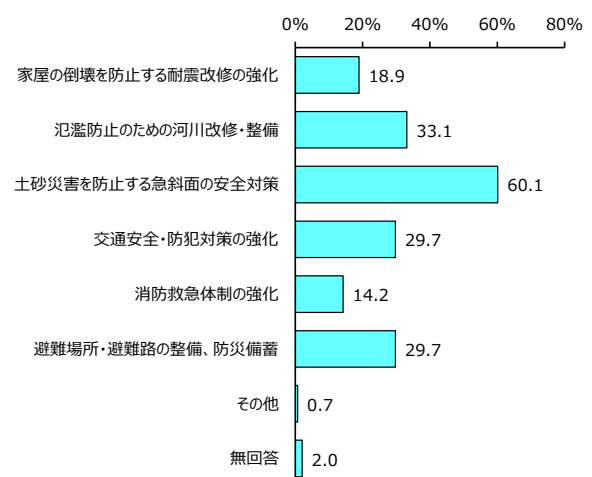
<40歳代>



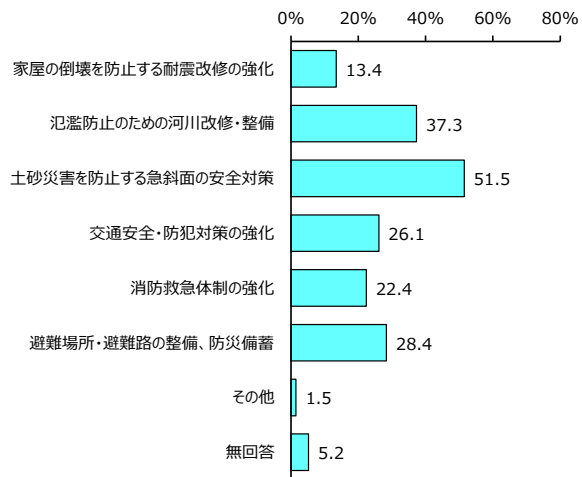
<50歳代>



<60歳代>

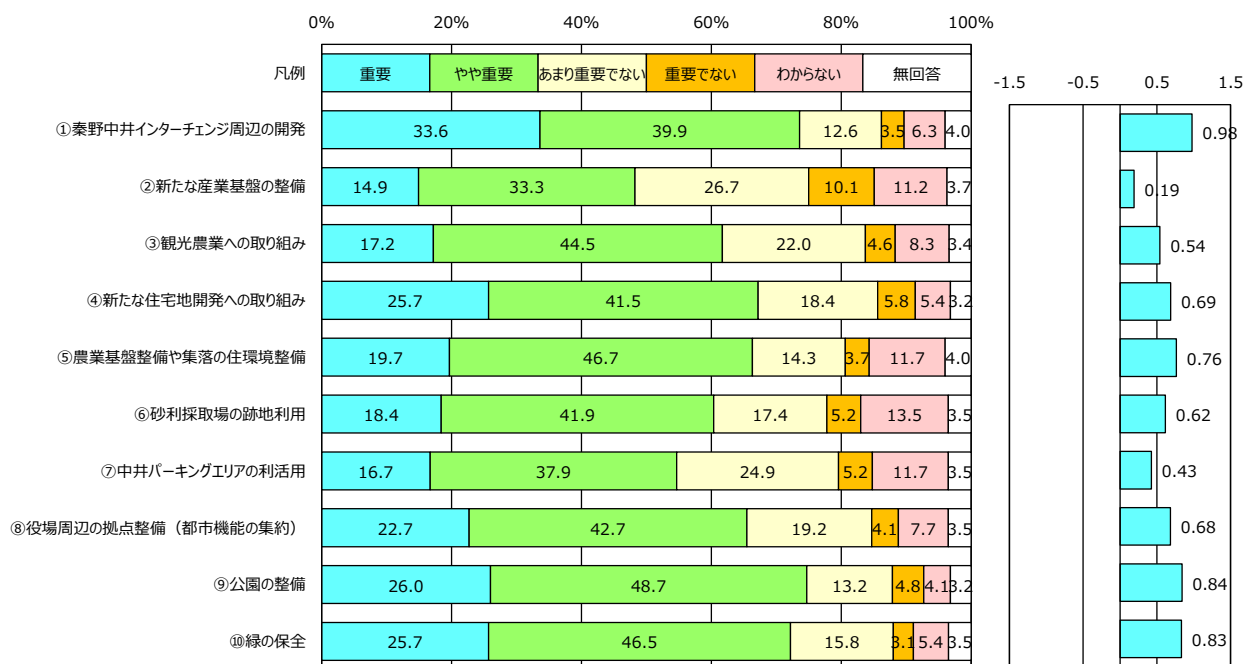


<70歳以上>



⑦まちづくり構想に対する考え（問18）

- 各種のまちづくり構想に対する考えを評価点でみると、「①秦野中井インターチェンジ周辺の開発（0.976）」が最も高く、「⑨公園の整備（0.841）」、「⑩緑の保全（0.833）」が続いています。
- 一方、評価点の低い順でみると、「②新たな産業基盤の整備（0.190）」、「⑦中井パーキングエリアの利活用（0.426）」、「③観光農業への取り組み（0.541）」となっています。



3. 調査の考察

(1) 日常の暮らしの状況について 【問2・3】

○秦野市等の周辺都市に広がる生活圏

- ・生活行動の行き先については、「食料品・日用品店舗（スーパーなど）」、「幼稚園・保育園」、「健康・福祉施設」、「文化施設・図書館」、「公園・広場」など、日常的な暮らしに関わる機能の半数近くが「町内」となっていますが、残りの半数は秦野市などの周辺都市に求めている状況にあります。
- ・「大型ショッピングセンター・デパート」や「電化製品・家具等の専門店」など、個人の趣味・嗜好などに関わる品物の買物や「飲食店」、「美術館・博物館」などの機能は、秦野市やその他の県内へ求めているなど、生活行動に応じて機能を使い分けている状況がみられます。
- ・「医療施設」は「町内」、「秦野市」、「その他県内」が比率を分け合っており、中村上地区及び中村下地区は「その他県内」、境地区及び井ノ口上地区は「秦野市」の比率がそれぞれ高いなど、居住地区と周辺都市との位置関係やアクセス性から行先が選択されている状況にあります。

○移動の際の自家用車への高い依存度

- ・移動の際の交通手段は、「その他の県内」を行き先とする比率が高い「通勤・通学」や「美術館・博物館」で「鉄道」を利用する比率が高いものの、「食料品・日用品店舗（スーパーなど）」など日常的な買物では「自家用車」への依存度が極めて高くなっています。
- ・一方、「バス」を移動手段とする比率はいずれの行先も低くなっており、「鉄道」も含めた公共交通の利用頻度も「ほとんど利用しない」がほぼ半数に達しています。

○利用頻度の低い公共交通

- ・本町には鉄道駅が設置されていないものの、主に利用する公共交通の乗り場は「鉄道駅」がほぼ半数に達していますが、井ノ口上・井ノ口下地区では「バス停」とする比率が高いなど、地区との位置関係やアクセス性から乗り場が選択されています。
- ・主に利用する乗り場までの移動手段は、「鉄道駅」の比率が高い中村上・中村下地区及び境地区では「自家用車」が、「バス停」の比率が高い井ノ口上・井ノ口下地区では「徒歩」の比率が高くなっています。
- ・所要時間は約70%が20分以内で主に利用する乗り場に到達できますが、自家用車で鉄道駅にアクセスするケースの多い中村上・中村下地区及び境地区では、20分を超える比率が高くなっています。また、徒歩でバス停にアクセスするケースが多い井ノ口上・井ノ口下地区では、5分以内の比率が高いなど、バスは比較的アクセスしやすく、鉄道駅はややアクセスしにくい環境にあると推察されます。
- ・また、鉄道駅の利用が多い、低い年齢層ほど主に利用する乗り場までの所要時間が長くなるなど、通勤・通学といった日常的な移動の利便性は必ずしも十分とはいえない状況にあると推察されます。

（２）定住意向について 【問４～６】

○定住意向に応えるための利便性の向上

- ・定住意向は、「引き続き今の場所に住みたい」が64.2%に達し、前回調査結果（63.3%）と比較しても定住意向が若干高まっています。
- ・一方で、「町内の別の地域へ移り住みたい」または「中井町以外に移り住みたい」と答えた方の理由は、「交通（通勤、通学、通院など）や買い物などが不便だから」が84.5%と比率が高く、また、移り住みたい場所を選ぶ際に重視する条件としては、「買物の利便性」、「公共交通の使いやすさ」、「通勤・通学時間」の比率が高いことから、定住意向に応えるためには、日常生活における利便性を高めていくことが不可欠と考えられます。

（３）生活環境について 【問７～９】

○優先性の高い「交通機関の便」、「買い物の便利さ」、「医療施設の利用のしやすさ」

- ・現状の生活環境への満足度は、「自然環境の豊かさ」のほか、排水状況やごみ処理、公園・広場の使いやすさなど、主に環境面で評価が高い一方、交通機関、買い物や医療施設などの利便性や歩道などの交通安全施設の整備に対して評価が低くなっています。
- ・地区別に満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い、重点的な取り組みが求められる事項をみると、概ね全ての地区で交通機関、買い物や医療施設のいずれかに関わる利便性が、中村上地区、井ノ口下地区では、特に交通安全施設の整備があげられています。

表 地区別の重点的な取り組みが求められる事項

	中村上	中村下	境	井ノ口上	井ノ口下
⑫交通安全施設の整備（歩道、ガードレール、カーブミラーなど）	○				○
⑭日常の交通機関の便（通勤、通学など）	○	○		○	○
⑮日常の買い物の便利さ	○	○	○		
⑯医療施設の利用のしやすさ	○	○	○	○	
⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス			○		
⑳近所づきあいやまとまり					○

- ・年齢別に満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い、重点的な取り組みが求められる事項をみると、概ね全ての年齢層で交通機関、買い物や医療施設の利便性があげられています。その他、30・40歳代の子育て層や高齢者が交通安全施設の整備を、40歳代以上では社会福祉施設の立地、充実度やサービスをあげるなど、年齢層の生活行動に対応した取り組みへのニーズが現れる結果となっています。

表 年齢別の重点的な取り組みが求められる事項

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
⑫交通安全施設の整備(歩道、ガードレール、カーブミラーなど)			○	○		○	○
⑭日常の交通機関の便(通勤、通学など)		○	○	○	○	○	○
⑮日常の買い物の便利さ	○	○	○	○	○	○	○
⑯医療施設の利用のしやすさ		○	○	○	○	○	○
⑰社会福祉施設の立地、充実度やサービス				○	○	○	○

○「新たな生活様式」への転換を契機とした「まちの強み」の活用

- ・新型コロナウイルス感染症流行は、私たちの生活行動に大きな変化をもたらしました。しかしながら、「自家用車の利用」や「徒歩や自転車での移動」など、近距離の移動や人との接触が少ない交通手段での移動に大きな変化はなく、鉄道やバスなど人との接触が生じる移動やアウトドアレクリエーションを含めた外出の機会は、大きく減少しました。
- ・コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを進める視点からは、自家用車の利用増と公共交通の利用減は、公共交通の利便性の維持・向上の側面からは、必ずしも歓迎できない状況となっています。
- ・一方、今後の「新たな生活様式」を見据えたまちづくりとしては、「三密回避」の視点から「自然を活かした余暇空間の創出」やオフィス機能・物流機能の郊外化に対応した受け皿の確保など、豊かな自然や良好な交通アクセスなどの本町の強みを「新たな生活様式」への転換を契機に活かしていく方向が望まれています。

(4) まちづくりの取り組みについて 【問10～18】

○豊かな自然を活かしたまちづくりへの高い評価と公共交通の利便性に対する厳しい評価

- ・これまでのまちづくりに対する評価としては、豊かな自然の保全・活用や景観の保全、下水道の整備、ごみ処理サービスの向上などによる環境保全が高く評価され、またスーパーマーケットの立地などを背景に、買い物などの利便性についても評価されています。
- ・一方、公共交通については、評価項目中で最も評価点が低いほか、農業振興や産業立地、安全な歩行環境の整備などに対する評価は、依然厳しい状況にあります。

- ・また、生活に必要な施設のうち、特に行きやすくしてほしい施設は、病院、商業施設、鉄道駅へのニーズが高くなっています。

○まちの成熟化を重視しつつ、活力や発展に向けた開発の指向も

- ・豊かな自然はまちの強みとして高く評価されていますが、一方では、通勤や通学、買い物や通院など、日常的な生活の利便性に対しては、満足度や町外への転出理由、転居先に求める条件などでいずれも回答の比率が高いなど、本町の弱点として捉えられていることがうかがえます。
- ・このため、「成熟化に向けた取り組みを重視する」という考え方が半数を超えているものの、前回調査から「拡大指向」の比率が高まる（前回：31.3%⇒今回：38.6%）など、成熟化を重視しつつも、活力や発展に向けた開発・拡大を指向する住民も増えています。
- ・また、今後進めるべき、まちづくりの方向性についても、「まずは、現在の市街地、集落地の環境整備を進める」への回答が多いものの、住宅地開発による人口増加や産業による町の活性化などが前回調査から比率が高まるなど、今後のまちづくりの方向性を慎重に検討していくことが必要になっていると考えます。
- ・こうした人口増加や産業の活性化に向け、町では様々なまちづくり構想を検討していますが、中でも秦野中井インターチェンジ周辺の開発への期待が高い結果が示されています。

○公共交通の利便性向上への高いニーズ

- ・本町のウィークポイントの一つである交通体系については、バス交通の見直しなどによる公共交通の利便性を向上させることへのニーズが高くなっています。しかし、前回調査との比較では、公共交通の利便性向上の比率が低下（前回：60.6%⇒今回：56.8%）し、自動車利便性の向上に寄与する新たな幹線道路の整備の比率が高まる（前回：8.6%⇒今回：11.2%）など、自家用車の利用も前提とした道路の維持・改善なども念頭に置いた取り組みも検討していくことが求められていると考えられます。
- ・現在は、公共交通をほとんど利用しないとする人が半数程度に達しており、今後、公共交通を維持する、または利便性を高める上での課題になるものと考えます。
- ・また、オンデマンドバスや鉄道・バス相互の乗り継ぎの利便性の向上、路線バスの運行本数の増加へのニーズが高くなっていますが、通勤・通学などで公共交通を利用する機会の多い10～20歳代で路線バスの運行本数の増加を求める比率が、高齢者でオンデマンドバスの利便性の向上への比率が高いなど、年齢層や居住地域、行き先などに応じてニーズが異なっています。

○高齢化を踏まえた安全に歩ける道路環境の整備

- ・生活基盤施設については、生活道路や幹線道路の整備、歩道など歩行者空間の整備が高くなっており、利便性や安全性を高める道路整備に対するニーズが高い結果となっています。
- ・また、70歳以上で歩道など歩行者空間の整備にニーズが高いことから、高齢化の進行も見据えた歩行空間の整備も重要な課題になるものと考えます。

○頻発する水害や土砂災害への対応

- ・近年頻発する豪雨による河川の氾濫や、記憶に新しいところでは熱海市での土石流による人的被害の発生など、住民の防災に対する関心が高まっていることから、土砂災害の防止対策や氾濫防止のための河川改修・整備への回答が多い結果となりました。これらが、前回調査と比較して、ともに比率が2倍（前回：21.3%⇒今回：57.0%）となっています。

参考) アンケート調査票

中井町 都市マスタープランの改定に向けたアンケート

—— 町民のみなさまへ ——

日頃から、町政の推進にご理解ご協力いただき、誠にありがとうございます。

本町のまちづくりは、平成 20 年度に策定した「都市マスタープラン」に基づいて推進していますが、人口減少・少子高齢化の本格化や新型コロナウイルス感染症の拡大などの社会情勢や生活様式の変化のほか、まちづくりの達成状況を踏まえ、この度計画を改定することとしました。この計画は、今後の中井町のまちづくりを進めるうえでの指針とするものです。

つきましては、町民の皆様のご意見やご要望をお聞かせいただき、計画の改定に反映していきたいと考えております。日頃、町民の皆様がお考えになっていることについて、忌憚のないご意見をご記入くださいますようお願いいたします。

なお、このアンケート調査結果については、統計的に処理し、他の目的に使用することはありませんので、個人的にご迷惑をおかけすることはございません。

ご多忙の折、恐縮でございますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力のほどお願いいたします。

令和 3 年 9 月

中井町長 杉山 祐一

＜調査票のご記入にあたって＞

1. 宛名の方がお答えください。
2. お答えは、番号に○を付してください。
3. 「その他（）」とお答えの場合は、（）内に具体的にご記入ください。

※この調査について、ご不明の点がございましたら、下記へお問い合わせください。

中井町役場 まち整備課

電話 0465-81-3901

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、9月27日（月）までにご投函いただけますようお願いいたします。

※ なお、返信用封筒の宛名につきましては、本アンケートの集計・分析業務を委託している（株）パスコ（東京都目黒区下目黒 1-7-1）となります。

I ご記入にあたって

問1 はじめに、あなたご自身のことについてお聞かせ下さい。

それぞれ該当するものを1つ選んで、番号に○印をつけてください。

質問項目	回答欄
お住まいの地域	1. 比奈窪 2. 松本下 3. 松本上 4. 岩倉 5. 雑色 6. 鴨沢 7. 古怒田 11. 半分形 12. 大久保 13. 遠藤 14. 北田 15. 五所ノ宮 16. 久所 17. 藤沢 21. 境原 22. 本境 23. 境別所 31. 宮原 32. 砂口 33. 遠藤原 34. 宮向 35. 宮前 36. 宮上 37. 葛川 41. 下井ノ口 42. 北窪 43. 五分一 51. その他・わからない
性 別	1. 男性 2. 女性
年 齢	1. 10歳代 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳代 7. 70歳以上
職 業	1. 農林業 2. 農林業以外の自営業 3. 会社員・公務員・団体職員 4. 主婦・主夫 5. 学生 6. パート・アルバイト・フリーター 7. 無職 8. その他（ ）
家族構成	1. 単身 2. 夫婦のみ 3. 親と子供(独身) 4. 2世帯同居 5. 3世帯同居 6. その他（ ）
居住期間	1. 生まれた時からずっと住んでいる 2. 転入してきて20年以上 3. 転入してきて10～20年未満 4. 転入してきて5～10年未満 5. 転入してきて5年未満
居住理由	1. 生まれた時からずっと住んでいる 2. Uターン居住（中井町で生まれたが離れたことがある方） 3. Iターン居住（ご自身の意志で中井町に居住された方） 4. 会社の都合（入社・転勤）による居住 5. その他（ ）
自動車免許の 保有状況	1. 自動車免許を持っている 2. いままで持ったことがない 3. 以前は自動車免許を持っていたが返納した 4. 自動車免許証をいずれ取得したい・取得する予定がある 5. その他（ ）
自家用車の 保有状況	1. 1台保有している 2. 2台以上保有している 3. 保有していない（バイクは保有している） 4. 保有していない（バイクも保有していない）

Ⅱ 日常の暮らしの状況について

問2 日常生活での「主な行き先」と、その際の「主な交通手段」について、あなたの活動に最も近いものを項目ごとにそれぞれ1つ選んで、番号に○印をつけてください。

※「項目」に該当する活動が無い場合は、未記入で構いません。

項 目	回答欄① 「主な行き先」					回答欄② 「主な交通手段」				
	町内	秦野市	二宮町	その他県内	県外	徒歩	自転車・バイク	バス	鉄道	自家用車
1. 通勤・通学	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2. 買い物										
①食料品・日用品店舗(スーパーなど)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
②大型ショッピングセンター・デパート	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
③電化製品・家具等の専門店	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
④飲食店	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3. 医療・社会福祉施設										
⑤医療施設	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑥幼稚園・保育園	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑦健康・福祉施設	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4. 公共施設・公益施設										
⑧文化施設・図書館	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑨美術館・博物館	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑩公園・広場	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑪町役場						1	2	3	4	5
⑫コミュニティセンター、公民館						1	2	3	4	5

問3 公共交通（鉄道、バス）の利用について、それぞれ該当するものを1つ選んで、番号に○印をつけてください。

①利用頻度

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 1週間に数回程度 |
| 3. 1ヶ月に2～3回程度 | 4. 1ヶ月に1回程度 |
| 5. 2～3ヶ月に1回程度 | 6. ほとんど利用しない |
| 7. その他（ | ） |

②主として利用する公共交通の乗り場

- | | |
|--------|--------|
| 1. 鉄道駅 | 2. バス停 |
|--------|--------|

③上記②で選択した乗り場までの移動手段

- | | |
|---------|------------|
| 1. 徒歩 | 2. 自転車・バイク |
| 3. 自家用車 | 4. その他（ |

④上記②で選択した乗り場までの概ねの所要時間

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 5分以内 | 2. 5～10分以内 |
| 3. 10～20分以内 | 4. 20～30分以内 |
| 5. 30分超 | |

Ⅲ 定住意向について

問4 あなたはこれからも現在お住まいの地域に住み続けたいと思いますか？お考えに近いものを1つ選んで、番号に○印をつけてください。

1. 引き続き今の場所に住みたい
2. 町内の別の地域へ移り住みたい
3. 中井町以外に移り住みたい
4. わからない
5. その他（

）

問5 問4で「2」もしくは「3」と答えた方にうかがいます。その主な理由を、次の中からあてはまるものすべてを選んで、番号に○印をつけてください。

1. 交通（通勤、通学、通院など）や買い物などが不便だから
2. 子どもを育てる環境に適さない街だから
3. 自分の好きな仕事、能力を活かせる仕事を選ぶことができないから
4. にぎわいに欠けているから
5. 高齢者や障がい者が暮らしにくい街だから
6. 生活環境（居住環境）に問題があるから
7. 公共施設が整っていないから
8. 自然災害の面で不安があるから
9. 治安が悪いから
10. 古いしきたりや近所づきあいがわずらわしいから
11. その他（

）

問6 問4で「2」もしくは「3」と答えた方にうかがいます。移り住みたい場所を選ぶ際に重視する条件について、次の中からあてはまるものを3つまで選んで、番号に○印をつけてください。

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 住宅の広さ | 2. 家賃・住宅価格 |
| 3. 通勤・通学時間 | 4. 買物の利便性 |
| 5. まちなみの美しさや雰囲気 | 6. 公共交通の使いやすさ |
| 7. 公園や自然環境のよさ | 8. 治安のよさ |
| 9. 自然災害の少なさ | 10. 医療・福祉の充実度 |
| 11. 子育て環境のよさ | 12. 公共施設の利用のしやすさ |
| 13. その他（ | |

）

Ⅳ 生活環境について

問7 日常的な暮らしに関わる要素について、「現状の満足度」「今後の重要度」の2つの観点からお答えください。

回答欄①は、現状の中井町にどの程度、満足しているか、回答欄②は、今後の中井町においてどの程度、重要かについて、それぞれ1つ選んで、該当する欄に○印をつけてください。

暮らしに関わる要素 (すべての項目についてお答えください)	回答欄① 「現状の満足度」					回答欄② 「今後の重要度」				
	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	とても重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない
記入例) 広場・公園の立地、整備状況 (「やや満足」で「とても重要」な場合)		○				○				
1. 緑や水辺環境など、自然環境の豊かさ										
2. 河川・水路の状況(水質、水害対策、管理状況など)										
3. 河川・水路の水とふれあえる環境や風景										
4. 公園・広場の利用のしやすさ										
5. 自宅周辺の生活道路の整備状況										
6. 幹線道路の整備状況や利用のしやすさ										
7. 騒音・振動などへの対策										
8. ごみ収集・処理の対応、対策										
9. 排水処理(汚水)の整備状況										
10. 排水対策(雨水)の整備状況										
11. 火災・地震などに対する防災体制の整備										
12. 交通安全施設の整備(歩道、ガードレール、カーブミラーなど)										
13. 防犯・治安などの状態										
14. 日常の交通機関の便(通勤、通学など)										
15. 日常の買い物の便利さ										
16. 医療施設の利用のしやすさ										
17. 社会福祉施設の立地、充実度やサービス										
18. 学校教育環境の充実度										
19. スポーツ・レクリエーション施設の立地、充実度										
20. 近所づきあいやまとまり (住民同士のつながりが広がる場や機会がある)										

問8 新型コロナウイルス感染症流行の前後を比較して、あなたの生活行動はどの程度変わりましたか？

お考えに近いものを1つ選んで、番号に○印をつけてください。

	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
1. 在宅勤務・テレワークの機会	1	2	3	4	5
2. 買い物や通院などの外出	1	2	3	4	5
3. キャンプやバーベキューなどのアウトドアレクリエーション	1	2	3	4	5
4. 公園などのオープンスペースの利用	1	2	3	4	5
5. インターネットなどでの通信販売	1	2	3	4	5
6. 鉄道やバスなどの利用	1	2	3	4	5
7. 自家用車の利用	1	2	3	4	5
8. 徒歩や自転車での移動	1	2	3	4	5

問9 新型コロナウイルス感染症の流行が社会経済に大きな変化をもたらしている中、「新たな生活様式」のもとで、まちづくりを進めていくことも必要となっています。

今後の「新たな生活様式」を見据えたまちづくりのあり方として、お考えに近いものを3つ選んで、番号に○印をつけてください。

1. オフィス機能の分散化・郊外化に対応した、受け皿の確保と企業誘致
2. 製造業などの生産拠点の国内回帰に対応した、産業用地の確保と誘致
3. 宅配の増大など物流需要の高まりに対応した、物流拠点の受け皿の確保と誘致
4. 在宅勤務やテレワークの進展に伴う、居住地の郊外化に対応した住宅の確保
5. 週末居住やワーキングスペースとして利用できる、二地域居住用のセカンドハウスの確保
6. 時差出勤や三密の回避に対応した公共交通の実現
7. 接触が回避できる移動手段である、自家用車の利用増加に対応した道路整備
8. 三密の回避や健康維持増進に寄与する、徒歩による移動を支えるゆとりある市街地の形成
9. 三密を回避できる、緑地や農地などの自然を活かした余暇空間の創出
10. その他 ()

V まちづくりの取り組みへの評価

問 10 過去 10 年程度の間におけるまちづくりへの取組によって、町はどのようなになったと思いますか。あなたのお考えに近いものを 1 つ選んで、番号に○印をつけてください。

※10 年以内に転入された方は、転入当時と比較してください。

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらともいえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
1. 豊かな自然が守られるとともに、自然とのふれあいの場として活用されている	1	2	3	4	5
2. 秩序ある土地利用が行われ、良好な市街地はその環境が維持されている	1	2	3	4	5
3. 生活道路の拡幅など、市街地や集落地の生活環境が改善している	1	2	3	4	5
4. 買い物などの日常生活に必要な施設の利便性が向上している	1	2	3	4	5
5. 町の活性化や発展に貢献する新たな開発や産業立地が進んでいる	1	2	3	4	5
6. 歩道の整備やバリアフリー、街路樹などの植栽によって、安全で快適な歩行空間が整備されている	1	2	3	4	5
7. 路線、運行本数などが見直され、バスなどの公共交通が利用しやすくなっている	1	2	3	4	5
8. 安全で快適な公園が身近に利用できるようになっている	1	2	3	4	5
9. 農地が守られ、観光農業などの取組も進んでいるなど、農業が盛んである	1	2	3	4	5
10. 緑化が進んで市街地の緑が増えている	1	2	3	4	5
11. 公共下水道や浄化槽の整備や設置・維持管理が進み、衛生的な環境が整っている	1	2	3	4	5
12. ゴミ処理などが周辺自治体と共同で行われ、サービスが向上している	1	2	3	4	5
13. 緑を基調とした美しい景観が保たれている	1	2	3	4	5
14. 災害発生を未然に防止するための対策や、災害が発生しても被害をできる限り小さく抑えるための対策が進んでいる	1	2	3	4	5
15. 災害発生時の安全・確実な避難や、救援活動がより円滑にできるような取組が進んでいる	1	2	3	4	5
16. 犯罪の起きにくい地域づくりへの取組が進んでいる	1	2	3	4	5
17. 地球温暖化ガスの排出抑制やゴミの減量化・再資源化など、環境にやさしいまちづくりへの取組が進んでいる	1	2	3	4	5

VI 将来のまちづくりの取り組みに向けて

問 11 今後の中井町が向かうべき将来のまちづくりの方向について、次のAさんBさんの意見のうち、あなたのお考えに近いものを1つ選んで、番号に○印をつけてください。

Aさんの意見

今後も活力やにぎわいが感じられ、一層の発展ができるように市街地を広げ、人口の受け皿となる住宅地開発や工場などの企業誘致を積極的に進めるほうがよい。

Bさんの意見

拡大志向のまちづくりを進めるのではなく今の市街地を維持し、自然環境の保全や良好なまちなみの形成など、うるおいや心地よさを感じられる町として、成熟化に向けた取り組みを重視した方がよい

Aさんの 意見に近い	ややAさんの 意見に近い	ややBさんの 意見に近い	Bさんの 意見に近い	わからない
4	3	2	1	0

問 12 生活に必要な施設のうち、特に行きやすくしてほしい施設は何ですか。あてはまるものを2つまで選んで、番号に○印をつけてください。

1. 町役場や窓口機能などの行政施設
2. 病院などの医療施設
3. 診療所などの身近な医療施設
4. 介護施設などの社会福祉施設
5. 幼稚園・保育園などの子育て施設
6. スーパーやコンビニなどの身近な商業施設
7. ショッピングセンターなどの大型の商業施設
8. 最寄りの鉄道駅
9. 図書館、文化会館などの文化施設
10. 体育館・運動場などのスポーツ施設
11. 銀行・郵便局などの金融施設
12. その他 ()

問 13 中井町の第6次総合計画では、人口減少や高齢化の進行を見据えつつも、これらができる限り抑えるため、若年層を中心とした人口の定着や転入を目指すこととしています。

このようなまちづくりを進めるため、町は今後どのような方向でまちづくりを進めるべきと考えますか。あなたのお考えに近いものを1つ選んで、番号に○印をつけてください。

- | |
|--|
| 1. 良好な住宅地開発などを進め、今よりも人口を増加させる計画とする方がよい |
| 2. 先ずは、現在の市街地、集落地の環境整備を進める方がよい |
| 3. 産業を活発にすることで、町を活性化する計画とする方がよい |
| 4. 町の豊かな緑や良好な農地の保全を前提とした計画とする方がよい |
| 5. 観光農園や自然公園整備など、町の魅力を活かした計画とする方がよい |
| 6. わからない |
| 7. その他 () |

問 14 交通体系の整備として優先すべき施策について、あなたのお考えに近いものを1つ選んで、番号に○印をつけてください。

- | |
|-------------------------------|
| 1. 新たな幹線道路の整備による、自動車の利便性の向上 |
| 2. バス交通の見直しなど、公共交通の利便性の向上 |
| 3. 住居周辺の生活道路の改善による、日常的な利便性の向上 |
| 4. その他 () |

問 15 バスなどの公共交通の利用者を増やすためには、どのような取組が重要だと考えますか。あなたのお考えに近いものを3つまで選んで、番号に○印をつけてください。

- | |
|-------------------------------|
| 1. 路線バスの運行本数の増加 |
| 2. 路線バスのルートの変更、増設 |
| 3. 路線バスの停留所の変更、増設 |
| 4. 路線バスの円滑な運行のためのバスレーンの設置 |
| 5. オンデマンドバスの利便性の向上 |
| 6. バス停や車両のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化 |
| 7. バス停周辺の駐車場や駐輪場の整備 |
| 8. 鉄道とバス、バスとバスなど乗り継ぎの利便性の向上 |
| 9. 利用料金の見直し |
| 10. その他 () |

問 16 生活基盤施設の整備として優先すべき施策について、あなたのお考えに近いものを2つまで選んで、番号に○印をつけてください。

1. 生活道路・幹線道路の整備
 2. 歩道など歩行者空間の整備
 3. 公園や緑地の整備
 4. 河川の整備
 5. ホール・図書館など文化施設の整備
 6. 地域福祉施設の整備
 7. 下水道の整備
 8. 地域公民館・集会所の整備
 9. ごみ処理施設の拡充
 10. 斎場の整備
 11. その他
- ()

問 17 安全なまちづくりのために優先すべき施策について、あなたのお考えに近いものを2つまで選んで、番号に○印をつけてください。

1. 家屋の倒壊を防止する耐震改修の強化
2. 氾濫防止のための河川改修・整備
3. 土砂災害を防止する急斜面の安全対策
4. 交通安全・防犯対策の強化
5. 消防救急体制の強化
6. 避難場所・避難路の整備、防災備蓄
7. その他 ()

問 18 町では、持続可能なまちづくりに向けて、産業基盤の整備、地域の活性化や自然と調和のとれた景観づくりなど、様々な構想を検討してきました。このような構想への取り組みの検討に対して、どのようにお考えですか。あなたのお考えに近いものを選んで、該当する欄に○印をつけてください。

まちづくり構想 (すべての項目についてお答えください)	重要である	やや重要である	あまり重要でない	重要でない	わからない
記入例)「やや重要である」の場合		○			
1. 秦野中井インターチェンジ周辺の開発 ※広域的な交通条件の良さを活かした、新たな都市機能の立地					
2. 新たな産業基盤の整備 ※五分一地区のメガソーラー施設跡地などでの大規模な工業団地の開発による産業の誘致					
3. 観光農業への取り組み ※田園環境を活かした観光農業の展開による農業の活性化					
4. 新たな住宅地開発への取り組み ※定住者を呼び込むための新たな住宅地開発による地域の活性化					
5. 農業基盤整備や集落の住環境整備 ※農地の集約化など、効率的で収益性の高い農業基盤整備の推進や農業集落内における居住環境の向上					
6. 砂利採取場の跡地利用 ※緑地の回復やレクリエーション機能の整備など、跡地の有効利用方策の検討					
7. 中井パーキングエリアの利活用 ※東名高速道路中井パーキングエリアを活用した交流拠点の整備					
8. 役場周辺の拠点整備（都市機能の集約） ※町民全体の生活の支援とふれあいの核づくりを目的とした、都市機能（公共施設、バスターミナルなど）の集積					
9. 公園の整備 ※中井中央公園・巖島湿生公園を含む公園の整備・充実による、憩いの場の提供					
10. 緑の保全 ※井ノ口東部や町西部など、まとまった斜面緑地や丘陵の緑の保全 ※生垣などの敷地内緑化や花いっぱい運動などを推進し、個性ある田園都市景観を形成					

VII 自由意見・ご要望・アイデア

中井町のまちづくりについて、ご意見、ご要望やアイディアなどがありましたら、どのような内容でも結構ですので、ご自由にお書きください。

[illegible]

アンケートは以上で終わりです。

ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

このアンケートを、同封いたしました返信用封筒に入れて、密封後、9月27日（月）までに郵便ポストへ投函して下さい。（切手は不要です）